

平成24年度
学習状況調査

調査結果報告書

平成25年2月
秋田県教育委員会

ま え が き

県教育委員会では、平成24年12月、小学校4年生から中学校2年生の全ての児童生徒を対象に学習状況調査を実施いたしました。この調査は、学習指導要領の内容等の定着度を把握し、本県が進める少人数学習の成果や課題を捉え、学習指導の工夫・改善を図るとともに、全国学力・学習状況調査及び本調査、高校入試を活用して、学習指導における検証改善サイクルを確立し、児童生徒の学力向上に資することをねらいとして実施しているものです。

小学校については、第4学年が国語、算数、理科の3教科及び意欲等に関する質問紙調査、第5学年と第6学年が国語、社会、算数、理科の4教科及び意欲等に関する質問紙調査、中学校については、第1学年、第2学年とも国語、社会、数学、理科、英語の5教科及び意欲等に関する質問紙調査を実施しております。

また、出題内容等の特色として、国語と算数・数学のみならず全ての教科で、全国学力・学習状況調査B問題の出題趣旨を踏まえた問題及び県の課題の改善状況を明らかにするために複数学年にわたる共通問題を出題しております。さらに、“「問い」を発する子ども”の基盤づくりに資する問題や高校入試と関連した問題を出題するとともに、学習指導要領を受けた学習内容の増加に伴い、小学校第4学年の国語と理科の設問数を2問増やし、12問といたしました。

さて、これまでの全国学力・学習状況調査の結果から、本県の児童生徒の学力・学習状況は、きわめて良好であることがわかっています。これは、学校教育を中心に、家庭や地域の教育力及び県内大学からの協力など、本県の教育環境が充実していることの証と考えております。そのなかで、本調査は全国学力・学習状況調査とともに、少人数学習をはじめ、各校の取組の成果と課題を明らかにし、児童生徒の課題改善のための補足的な指導や授業改善、次年度の年間指導計画作成等へとつなげる検証改善サイクルを確立するための重要な役割を果たすことと認識しております。

このたび、本年度の結果がまとまりましたので、報告書をお届けいたします。本報告書では、学習状況調査集計・分析システムによる各種データに基づいた、秋田県全体の学力や学習の状況に加え、各教科毎の授業改善への提言をまとめております。

各小・中学校では、既に自校の集計結果を分析し、検討した改善策等を基に、具体的な取組を始めていただいているところですが、積極的に本報告書及び学習状況調査問題を活用し、児童生徒の一層の学力向上に役立てていただくことを期待しております。

終わりに、本調査研究に御協力いただいた県内全ての市町村教育委員会、各小・中学校に深く感謝の意を表します。

平成25年2月

秋田県教育委員会

目 次

1	調査の概要	-----	1
2	調査の特徴、用語等	-----	2
3	調査結果の概要	-----	3
(1)	ペーパーテストの結果		
①	設定通過率との比較	-----	3
②	過去の類似問題との比較	-----	4
③	各教科の観点別または領域別の設定通過率との比較	-----	4
④	各教科ごとの小問別通過率と設定通過率の比較	-----	6
(2)	学習の意欲等に関する質問紙調査結果		
①	学習全般についての結果概要	-----	11
②	教科等の好き嫌いについての結果概要	-----	11
③	学習全般について	-----	12
④	生活全般について	-----	18
⑤	家庭学習について	-----	22
⑥	授業について	-----	23
⑦	教科の好き嫌いについて	-----	24
⑧	読書について	-----	34
4	結果と考察	-----	35
本章は、各学年とも、「評価規準と評価の観点」「小問別通過率と設定通過率」「小問別反応率、小問別通過率度数分布表」「調査結果の考察」で構成されています。			
(1)	国語		
・	小学校第4学年	-----	37
・	小学校第5学年	-----	41
・	小学校第6学年	-----	45
・	中学校第1学年	-----	49
・	中学校第2学年	-----	53
(2)	社会		
・	小学校第5学年	-----	57
・	小学校第6学年	-----	61
・	中学校第1学年	-----	65
・	中学校第2学年	-----	69
(3)	算数・数学		
・	小学校第4学年	-----	73
・	小学校第5学年	-----	77
・	小学校第6学年	-----	81
・	中学校第1学年	-----	85
・	中学校第2学年	-----	89
(4)	理科		
・	小学校第4学年	-----	93
・	小学校第5学年	-----	97
・	小学校第6学年	-----	101
・	中学校第1学年	-----	105
・	中学校第2学年	-----	109
(5)	英語		
・	中学校第1学年	-----	113
・	中学校第2学年	-----	117
5	平均通過率の度数分布グラフ	-----	121

1 調査の概要

(1) 学習状況調査実施の趣旨

学習指導要領の内容の定着度等を把握し、本県が進める少人数学習の成果や課題を捉え、学習指導の工夫改善を図るとともに、全国学力・学習状況調査及び本調査、高校入試を活用して、学習指導における検証改善サイクルを確立し、児童生徒の学力向上に資する。

(2) 調査対象学年、実施教科等、調査参加児童生徒数

校種・学年 実施教科等	小学校			中学校	
	第4学年	第5学年	第6学年	第1学年	第2学年
国語	8 1 5 5	8 4 7 9	8 6 0 8	8 7 9 2	8 9 2 0
社会		8 4 8 3	8 6 0 9	8 8 0 1	8 9 1 5
算数・数学	8 1 5 5	8 4 7 9	8 6 0 8	8 8 0 4	8 9 0 4
理科	8 1 5 5	8 4 7 8	8 6 0 9	8 8 0 7	8 9 0 1
英語				8 7 9 6	8 9 0 2
学習の意欲等に関するアンケート	8 1 5 5	8 4 7 9	8 6 0 8	8 7 9 2	8 9 2 0

(3) 出題内容

① 基本的な考え方

学習指導要領で求められている資質や能力の定着度、指導上の問題点を明らかにするとともに、学習指導の工夫改善に資することができるよう、「ペーパーテストで調査を行うことが適当な内容・項目」について出題する。

② 出題の範囲

調査対象学年の児童生徒が、前学年の後半で履修した教科の内容及び当該学年の前半で履修した教科の内容を基本とする。

ただし、これまで明らかになった課題の改善状況を把握するため、それ以前の学年で履修した内容が含まれる場合もある。

(4) 調査実施日

小学校 平成24年12月5日（水）

中学校 平成24年12月6日（木）

2 調査の特徴、用語等

(1) 特徴

- ① 評価規準の設定
 - ・観点別評価の実施
 - ・調査する基礎・基本の明確化
- ② 設定通過率の設定
 - ・県として「おおむね満足できる状況」と判断する基準の設定
- ③ ペーパーテストと学習への意欲等に関する質問紙による総合的な学習状況の把握
 - ・多面的な学力の把握
- ④ 過去に実施した国や県の調査問題の類似問題による経年比較
 - ・学力の推移の把握
- ⑤ 複数学年にわたる共通問題
 - ・身に付けておかなければ後の学年の学習内容に影響を及ぼす内容の定着度の把握
 - ・県の課題について改善状況の把握
- ⑥ 記述式や読解力に関する問題
 - ・全国学力・学習状況調査B問題の出題趣旨を踏まえた問題
 - ・現在求められている学力の把握
 - ・“「問い」を発する子ども”の基盤づくり
- ⑦ 調査結果の活用の工夫
 - ・各校における結果分析に基づいた指導の改善
 - ・報告書の作成

(2) 用語

- ① 通過率
 - ・各問題ごとの正答した児童生徒の人数の割合
 - ・各問題ごとに、各学校、各市町村、各エリアの通過率、全県の通過率を算出している。
(各学校の通過率の例：50人中30人が正答していれば60%)
- ② 平均通過率
 - ・全問題の通過率の平均
 - ・100点満点に換算したときの平均点とみることができる。
 - ・各教科ごとに、各学校、各市町村、各エリアの平均通過率、全県の平均通過率を算出している。
- ③ 設定通過率
 - ・問題ごとに、どの程度の通過率であれば「おおむね満足できる状況」とするかを予め定めた値（本県が独自に取り入れているもので、参考として示している。）
- ④ 正答数別度数分布
 - ・正答数ごとの児童生徒数の度数分布を示したグラフ
- ⑤ 小問別通過率度数分布表（校）
 - ・各小問における通過率ごとの学校数を示した表

(3) データ処理の方法

採点、データ入力・集約

- ・本調査は、各校において採点を行い、その結果を学習状況調査集計・分析システムに登録することにより、全県データを集約している。
- ・各校の教科に関する調査結果及び学習への意欲等に関する質問紙調査の結果は、学習状況調査集計・分析システムの登録状況を閲覧することにより、自校の結果と全県データを比較することができる。

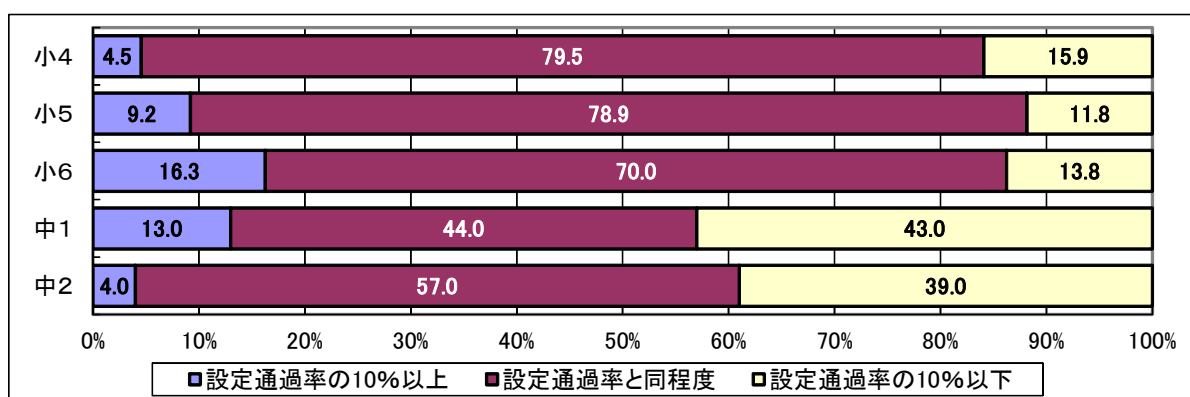
3 調査結果の概要

(1) ペーパーテストの結果

① 設定通過率との比較

- ・学年別に通過割合（通過率が設定通過率を上回るか同程度である問題数の割合）を比較すると、高い順に小学校第5学年（88.1%）、小学校第6学年（86.3%）、小学校第4学年（82.5%）、中学校第2学年（68.0%）、中学校第1学年（64.0%）となっており、小学校の方が総じて中学校よりも高くなっている。また、平均通過率を学年・教科別にみると、小学校では第5学年の理科及び第6学年の社会と理科が75%以上である。中学校で70%を超えたのは第1学年の英語だけであり、2つの学年ともに、社会、数学及び理科は60%以下であった。
- ・平均通過率と設定通過率の平均を比較すると、小学校では第4学年の理科と第6学年の社会と理科で通過割合が100%である。第4学年と第6学年の国語で設定通過率の平均を大きく下回っているが、通過割合と連動していることが分かる。中学校では、第1学年の英語、第2学年の国語と英語以外は設定通過率の平均を下回っており、2つの学年とも数学、理科は設定通過率の平均を10ポイント以上下回っている。

学年別の通過割合



学年別の平均通過率と設定通過率の平均との比較

教科名	校種・学年	平均通過率	設定通過率の平均	差	通過割合
国語	小学校第4学年	61.0	72.1	-11.1	58.3%
	小学校第5学年	70.8	71.3	-0.5	75.0%
	小学校第6学年	62.3	70.3	-8.0	60.0%
社会	小学校第5学年	74.4	72.0	2.4	95.0%
	小学校第6学年	77.4	73.0	4.4	100.0%
算数	小学校第4学年	74.1	74.0	0.1	90.0%
	小学校第5学年	71.4	72.0	-0.6	85.0%
	小学校第6学年	72.4	70.0	2.4	85.0%
理科	小学校第4学年	72.2	73.3	-1.1	100.0%
	小学校第5学年	75.0	74.0	1.0	95.0%
	小学校第6学年	75.0	74.8	0.2	100.0%

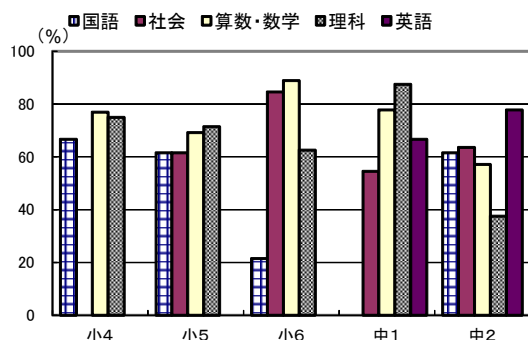
教科名	学年	平均通過率	設定通過率の平均	差	通過割合
国語	中学校第1学年	52.9	71.3	-18.4	50.0%
	中学校第2学年	68.7	71.5	-2.8	90.0%
社会	中学校第1学年	55.3	70.0	-14.7	45.0%
	中学校第2学年	56.4	70.0	-13.6	55.0%
数学	中学校第1学年	58.9	70.0	-11.1	60.0%
	中学校第2学年	50.1	70.0	-19.9	40.0%
理科	中学校第1学年	55.5	70.0	-14.5	50.0%
	中学校第2学年	53.9	70.3	-16.4	40.0%
英語	中学校第1学年	75.3	73.0	2.3	80.0%
	中学校第2学年	68.7	71.5	-2.8	80.0%

※通過割合：全小問のうち、設定通過率と同程度（±10%の範囲内）及びそれ以上（+10%より高い）の小問の割合

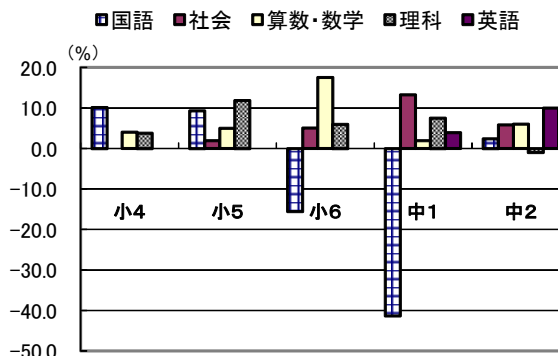
② 過去の類似問題との比較

- ・過去の通過率を上回った問題数の割合は、小学校では114問中75問で65.8%、中学校では79問中46問で58.2%である。この数値を昨年度と比較すると、小学校は1.4ポイント、中学校は15.0ポイント減少している。（H23は小学校116問中78問で67.2%、中学校97問中71問で73.2%）これは、現行の学習指導要領の実施にあたり、類似問題の出題数が減ったことと、現在求められている学力を問う問題が増えたことによると考えられる。
- ・通過率の平均で比較すると、小学校では第6学年の国語で下回っており、中学校では第1学年の国語で下回っている。

過去の通過率を上回った問題数の割合



類似問題における過去の通過率との比較（平均）



③ 各教科の観点別または領域別の設定通過率との比較

- ・観点別または領域別に、通過率が設定通過率を上回るか同程度である問題の割合をみると、小学校で90%を超えたのは、社会と理科の全ての観点または領域と算数の「技能」及び「知識・理解」である。
- ・中学校では、設定通過率を上回るか同程度である割合が90%を超えているのは、国語の「書く能力」、英語の「理解」である。社会、数学及び理科の全ての観点または領域で、+10%より高い問題数が0であった。

<小学校>

教科名	観点または領域	問題数	+10%より高い	±10%の範囲内	-10%より低い
国語	話すこと・聞くこと	1	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)
	書くこと	4	0 (0.0%)	3 (75.0%)	1 (25.0%)
	読むこと	17	1 (5.9%)	8 (47.1%)	8 (47.1%)
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	26	9 (34.6%)	10 (38.5%)	7 (26.9%)
社会	思考・判断・表現	12	0 (0.0%)	12 (100.0%)	0 (0.0%)
	技能	10	0 (0.0%)	9 (90.0%)	1 (10.0%)
	知識・理解	18	0 (0.0%)	18 (100.0%)	0 (0.0%)
算数	考え方	18	2 (11.1%)	11 (61.1%)	5 (27.8%)
	技能	21	4 (19.0%)	15 (71.4%)	2 (9.5%)
	知識・理解	21	3 (14.3%)	17 (81.0%)	1 (4.8%)
理科	思考・表現	19	1 (5.3%)	17 (89.5%)	1 (5.3%)
	技能	14	1 (7.1%)	13 (92.9%)	0 (0.0%)
	知識・理解	19	1 (5.3%)	18 (94.7%)	0 (0.0%)

< 中学校 >

教科名	観点または領域	問題数	+10%より高い	±10%の範囲内	-10%より低い
国語	話すこと・聞くこと	5	0 (0.0%)	4 (80.0%)	1 (20.0%)
	書くこと	2	0 (0.0%)	2 (100.0%)	0 (0.0%)
	読むこと	13	2 (15.4%)	7 (53.8%)	4 (30.8%)
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	20	1 (5.0%)	12 (60.0%)	7 (35.0%)
社会	思考・判断・表現	21	0 (0.0%)	12 (57.1%)	9 (42.9%)
	技能	7	0 (0.0%)	5 (71.4%)	2 (28.6%)
	知識・理解	12	0 (0.0%)	3 (25.0%)	9 (75.0%)
数学	見方・考え方	11	0 (0.0%)	4 (36.4%)	7 (63.6%)
	技能	17	0 (0.0%)	11 (64.7%)	6 (35.3%)
	知識・理解	12	0 (0.0%)	5 (41.7%)	7 (58.3%)
理科	思考・表現	18	0 (0.0%)	5 (27.8%)	13 (72.2%)
	技能	8	0 (0.0%)	6 (75.0%)	2 (25.0%)
	知識・理解	14	0 (0.0%)	7 (50.0%)	7 (50.0%)
英語	表現	8	2 (25.0%)	2 (25.0%)	4 (50.0%)
	理解	22	8 (36.4%)	12 (54.5%)	2 (9.1%)
	知識・理解	10	4 (40.0%)	4 (40.0%)	2 (20.0%)

④ 各教科ごとの小問別通過率と設定通過率の比較

設 定：設定通過率

通過率：全県平均通過率

類 似：過去に出題された類似問題の通過率

7 国語

	番号	設定	通過率	類似
小4	1)	75	69.2	
小4	2)	75	70.4	
小4	3)	85	83.8	
小4	4)	75	50.2	
小4	5)	75	42.1	
小4	6)	80	90.3	64.7
小4	7)	70	64.5	53.5
小4	8)	70	65.3	
小4	9)	65	43.8	
小4	10)	65	59.1	
小4	11)	60	36.7	
小4	12)	70	56.9	63.0
小4	13)			
小4	14)			
小4	15)			
小4	16)			
小4	17)			
小4	18)			
小4	19)			
小4	20)			

設定通過率	72.1		
平均通過率		61.0	
類似問題		70.6	60.4

	番号	設定	通過率	類似
小5	1)	80	97.9	80.7
小5	2)	80	93.8	
小5	3)	70	46.4	51.0
小5	4)	70	92.9	65.7
小5	5)	70	61.8	
小5	6)	60	89.9	28.8
小5	7)	70	89.1	75.0
小5	8)	80	48.0	83.8
小5	9)	75	77.5	33.6
小5	10)	60	41.3	96.2
小5	11)	70	62.2	39.1
小5	12)	75	67.6	79.5
小5	13)	60	30.7	39.3
小5	14)	75	83.0	
小5	15)	75	73.6	33.6
小5	16)	70	77.2	67.3
小5				
小5				
小5				

設定通過率	71.3		
平均通過率		70.8	
類似問題		68.8	59.5

	番号	設定	通過率	類似
小6	1)	80	93.6	92.0
小6	2)	80	56.0	94.0
小6	3)	65	25.8	81.3
小6	4)	75	46.9	96.0
小6	5)	70	77.9	
小6	6)	70	80.6	71.2
小6	7)	75	81.3	
小6	8)	70	66.6	98.2
小6	9)	80	85.0	
小6	10)	70	87.6	89.5
小6	11)	70	74.3	86.4
小6	12)	70	47.3	68.3
小6	13)	70	45.9	
小6	14)	65	59.8	
小6	15)	75	68.7	78.7
小6	16)	65	37.2	61.6
小6	17)	60	74.5	35.9
小6	18)	65	22.9	35.9
小6	19)	60	42.3	
小6	20)	70	71.6	82.8

設定通過率	70.3		
平均通過率		62.3	
類似問題		61.0	76.6

	番号	設定	通過率	類似
中1	1)	85	98.2	
中1	2)	80	71.2	
中1	3)	75	65.2	
中1	4)	80	73.6	
中1	5)	70	30.7	90.8
中1	6)	65	57.7	
中1	7)	75	9.2	84.1
中1	8)	75	34.8	52.3
中1	9)	75	50.7	
中1	10)	65	34.3	52.2
中1	11)	75	34.6	71.1
中1	12)	80	54.6	
中1	13)	65	56.2	
中1	14)	70	80.1	
中1	15)	70	92.5	
中1	16)	65	63.2	
中1	17)	65	40.6	
中1	18)	60	9.1	
中1	19)	60	38.4	
中1	20)	70	63.0	

設定通過率	71.3		
平均通過率		52.9	
類似問題		28.7	70.1

	番号	設定	通過率	類似
中2	1)	65	56.5	
中2	2)	85	87.9	
中2	3)	70	74.7	
中2	4)	75	79.5	85.6
中2	5)	75	80.9	72.4
中2	6)	65	33.9	17.6
中2	7)	80	86.0	54.3
中2	8)	85	88.1	43.7
中2	9)	75	79.3	66.8
中2	10)	65	64.9	
中2	11)	70	65.1	54.2
中2	12)	80	85.7	
中2	13)	85	92.5	75.3
中2	14)	60	50.8	
中2	15)	65	62.1	58.9
中2	16)	70	65.0	90.2
中2	17)	60	11.9	58.9
中2	18)	60	64.8	82.1
中2	19)	60	58.3	75.7
中2	20)	80	85.8	

設定通過率	71.5		
平均通過率		68.7	
類似問題		66.7	64.3

1 社会

	番号	設定	通過率	類似
小5	1)	90	96.2	94.9
小5	2)	65	60.2	
小5	3)	85	91.7	90.3
小5	4)	70	73.0	71.0
小5	5)	75	80.5	65.6
小5	6)	65	62.1	
小5	7)	75	79.1	
小5	8)	75	79.3	
小5	9)	75	84.3	83.1
小5	10)	70	72.9	74.2
小5	11)	65	63.0	84.2
小5	12)	80	77.8	78.1
小5	13)	70	73.0	83.6
小5	14)	75	83.3	61.0
小5	15)	65	48.6	60.5
小5	16)	65	67.2	
小5	17)	75	83.0	
小5	18)	65	68.5	
小5	19)	65	65.1	57.1
小5	20)	70	78.7	59.1

設定通過率	72.0		
平均通過率		74.4	
類似問題		76.0	74.1

	番号	設定	通過率	類似
小6	1)	90	96.6	95.3
小6	2)	65	66.0	
小6	3)	60	60.2	
小6	4)	75	82.2	71.9
小6	5)	65	67.1	
小6	6)	65	67.8	
小6	7)	75	73.7	64.9
小6	8)	70	78.6	67.1
小6	9)	85	93.3	83.7
小6	10)	80	89.5	78.8
小6	11)	60	50.2	53.1
小6	12)	70	75.7	71.1
小6	13)	60	65.7	
小6	14)	70	77.9	
小6	15)	80	86.1	79.5
小6	16)	80	87.8	79.7
小6	17)	70	72.8	88.1
小6	18)	80	86.9	
小6	19)	80	83.0	80.4
小6	20)	80	87.2	77.2

設定通過率	73.0		
平均通過率		77.4	
類似問題		81.3	76.2

	番号	設定	通過率	類似
中1	1)	85	84.1	
中1	2)	90	83.3	69.5
中1	3)	65	39.9	
中1	4)	60	52.5	
中1	5)	60	41.7	32.1
中1	6)	65	61.8	44.2
中1	7)	70	49.8	58.7
中1	8)	70	48.7	
中1	9)	90	86.2	
中1	10)	60	47.3	
中1	11)	70	52.9	60.4
中1	12)	80	74.9	
中1	13)	60	39.7	21.0
中1	14)	75	73.9	57.6
中1	15)	65	45.6	47.9
中1	16)	75	38.7	66.4
中1	17)	65	59.6	64.6
中1	18)	65	26.9	
中1	19)	60	25.5	
中1	20)	70	72.1	47.6

設定通過率	70.0		
平均通過率		55.3	
類似問題		56.3	51.8

	番号	設定	通過率	類似
中2	1)	65	30.9	
中2	2)	75	70.1	
中2	3)	65	59.4	
中2	4)	65	40.4	90.4
中2	5)	75	68.5	
中2	6)	70	48.1	
中2	7)	75	65.6	30.4
中2	8)	60	47.1	
中2	9)	65	48.0	27.4
中2	10)	70	62.4	60.9
中2	11)	70	64.6	51.7
中2	12)	65	59.1	
中2	13)	60	34.1	
中2	14)	70	33.5	
中2	15)	70	51.4	23.8
中2	16)	80	74.2	77.1
中2	17)	80	77.0	82.1
中2	18)	65	49.7	34.7
中2	19)	75	68.5	68.8
中2	20)	80	75.6	66.5

設定通過率	70.0		
平均通過率		56.4	
類似問題		61.6	55.8

ㄎ 算数・数学

	番号	設定	通過率	類似
小4	1)	90	94.0	91.6
小4	2)	80	85.2	
小4	3)	90	89.2	
小4	4)	70	41.3	93.9
小4	5)	80	92.2	68.4
小4	6)	80	88.4	74.1
小4	7)	80	89.5	
小4	8)	70	63.3	
小4	9)	60	59.9	44.3
小4	10)	80	79.3	
小4	11)	70	77.3	73.4
小4	12)	70	71.4	
小4	13)	70	72.4	
小4	14)	60	63.3	45.7
小4	15)	70	74.2	73.1
小4	16)	70	68.9	39.7
小4	17)	90	94.2	89.9
小4	18)	60	51.5	58.0
小4	19)	80	82.5	91.8
小4	20)	60	43.4	34.8

設定通過率	74.0		
平均通過率		74.1	
類似問題		71.6	67.6

	番号	設定	通過率	類似
小5	1)	80	89.5	86.1
小5	2)	80	87.0	91.2
小5	3)	80	80.7	73.0
小5	4)	80	87.0	80.8
小5	5)	70	54.8	
小5	6)	70	56.7	81.5
小5	7)	70	61.4	70.5
小5	8)	60	52.4	38.5
小5	9)	70	65.9	
小5	10)	60	61.7	51.9
小5	11)	80	87.5	
小5	12)	80	74.5	
小5	13)	80	80.3	
小5	14)	60	67.0	
小5	15)	80	88.6	
小5	16)	70	73.0	61.4
小5	17)	70	72.4	41.6
小5	18)	60	43.2	51.3
小5	19)	60	64.1	54.2
小5	20)	80	79.9	61.5

設定通過率	72.0		
平均通過率		71.4	
類似問題		69.9	64.9

	番号	設定	通過率	類似
小6	1)	80	92.9	
小6	2)	80	92.6	80.8
小6	3)	80	85.1	72.7
小6	4)	80	74.4	
小6	5)	60	64.5	37.8
小6	6)	70	68.8	
小6	7)	70	42.2	
小6	8)	60	73.3	
小6	9)	80	52.6	
小6	10)	70	72.0	60.0
小6	11)	80	82.5	
小6	12)	60	71.3	
小6	13)	70	82.1	
小6	14)	70	85.9	70.8
小6	15)	60	81.2	
小6	16)	70	83.2	
小6	17)	60	56.8	33.5
小6	18)	70	54.3	56.9
小6	19)	70	75.9	48.2
小6	20)	60	56.1	25.5

設定通過率	70.0		
平均通過率		72.4	
類似問題		71.5	54.0

	番号	設定	通過率	類似
中1	1)	90	89.7	
中1	2)	85	80.5	76.4
中1	3)	70	68.5	67.0
中1	4)	60	54.6	48.4
中1	5)	60	54.3	
中1	6)	70	66.9	
中1	7)	60	61.8	51.6
中1	8)	65	55.8	
中1	9)	70	45.8	42.1
中1	10)	70	56.1	54.5
中1	11)	90	62.5	
中1	12)	65	59.6	60.1
中1	13)	80	74.3	
中1	14)	65	31.1	
中1	15)	70	45.2	
中1	16)	80	51.8	
中1	17)	60	43.4	42.1
中1	18)	60	65.7	
中1	19)	70	80.0	
中1	20)	60	30.1	40.9

設定通過率	70.0		
平均通過率		58.9	
類似問題		55.6	53.7

	番号	設定	通過率	類似
中2	1)	75	66.6	
中2	2)	75	67.1	80.3
中2	3)	70	63.7	
中2	4)	70	48.5	48.3
中2	5)	60	51.8	62.7
中2	6)	70	46.2	56.9
中2	7)	70	47.9	52.5
中2	8)	80	71.7	48.3
中2	9)	70	35.1	38.1
中2	10)	65	25.2	
中2	11)	70	49.3	
中2	12)	85	84.6	42.1
中2	13)	70	37.4	30.4
中2	14)	70	49.6	31.6
中2	15)	65	46.9	36.1
中2	16)	65	57.7	66.5
中2	17)	70	26.0	
中2	18)	70	48.9	40.9
中2	19)	70	23.8	
中2	20)	60	54.4	29.1

設定通過率	70.0		
平均通過率		50.1	
類似問題		53.4	47.4

I 理科

	番号	設定	通過率	類似
小4	1)	85	86.3	84.5
小4	2)	60	52.5	61.6
小4	3)	70	77.7	
小4	4)	85	90.5	88.4
小4	5)	75	75.3	76.2
小4	6)	70	65.8	
小4	7)	70	61.8	32.3
小4	8)	65	58.8	58.6
小4	9)	70	62.1	
小4	10)	70	66.2	
小4	11)	80	83.0	81.4
小4	12)	80	85.9	80.9
小4	13)			
小4	14)			
小4	15)			
小4	16)			
小4	17)			
小4	18)			
小4	19)			
小4	20)			

設定通過率	73.3		
平均通過率		72.2	
類似問題		74.3	70.5

	番号	設定	通過率	類似
小5	1)	65	60.6	66.7
小5	2)	70	71.0	
小5	3)	70	63.1	
小5	4)	75	77.9	50.2
小5	5)	70	69.9	
小5	6)	60	56.2	
小5	7)	85	93.8	
小5	8)	60	43.6	
小5	9)	75	75.0	52.4
小5	10)	75	76.6	58.8
小5	11)	70	71.6	79.9
小5	12)	85	90.7	81.4
小5	13)	85	91.6	
小5	14)	85	95.1	
小5	15)	60	52.5	
小5	16)	80	82.7	
小5	17)	70	68.4	48.2
小5	18)	85	90.7	
小5	19)	80	90.1	
小5	20)	75	79.7	

設定通過率	74.0		
平均通過率		75.0	
類似問題		74.4	62.5

	番号	設定	通過率	類似
小6	1)	65	59.3	
小6	2)	70	70.6	48.4
小6	3)	85	91.7	
小6	4)	80	79.0	
小6	5)	80	80.5	
小6	6)	60	51.8	60.7
小6	7)	65	59.2	82.2
小6	8)	85	83.6	89.6
小6	9)	70	63.9	60.0
小6	10)	65	62.5	
小6	11)	85	90.7	
小6	12)	75	80.8	58.7
小6	13)	80	87.9	
小6	14)	65	59.1	
小6	15)	85	95.2	
小6	16)	80	76.4	
小6	17)	70	68.2	
小6	18)	75	81.1	76.2
小6	19)	85	94.6	
小6	20)	70	64.6	32.3

設定通過率	74.8		
平均通過率		75.0	
類似問題		69.5	63.5

	番号	設定	通過率	類似
中1	1)	75	77.6	61.2
中1	2)	65	57.3	
中1	3)	65	57.3	
中1	4)	65	58.4	50.9
中1	5)	70	62.4	36.4
中1	6)	75	72.9	65.2
中1	7)	70	46.3	
中1	8)	70	46.3	
中1	9)	85	84.0	80.3
中1	10)	65	50.3	
中1	11)	75	59.8	
中1	12)	75	39.3	
中1	13)	65	49.2	
中1	14)	70	43.1	
中1	15)	70	54.8	
中1	16)	85	81.7	76.4
中1	17)	65	59.7	
中1	18)	60	11.4	
中1	19)	65	57.5	56.9
中1	20)	65	40.1	46.8

設定通過率	70.0		
平均通過率		55.5	
類似問題		66.8	59.3

	番号	設定	通過率	類似
中2	1)	65	52.3	
中2	2)	70	35.6	
中2	3)	70	45.1	
中2	4)	75	55.8	
中2	5)	75	39.3	
中2	6)	80	55.3	59.9
中2	7)	80	76.4	78.4
中2	8)	75	79.2	
中2	9)	80	79.3	
中2	10)	70	73.6	
中2	11)	70	62.5	76.2
中2	12)	60	55.8	33.0
中2	13)	70	42.0	
中2	14)	75	68.9	
中2	15)	60	30.0	
中2	16)	70	69.1	65.3
中2	17)	60	39.1	43.9
中2	18)	75	46.1	
中2	19)	60	42.6	34.4
中2	20)	65	29.0	46.8

設定通過率	70.3		
平均通過率		53.9	
類似問題		53.7	54.7

才 英語

	番号	設定	通過率	類似
中1	1)	85	85.8	
中1	2)	85	90.1	85.7
中1	3)	85	75.9	80.9
中1	4)	85	98.5	99.3
中1	5)	85	97.9	95.3
中1	6)	60	45.8	
中1	7)	75	85.2	
中1	8)	75	88.4	
中1	9)	80	90.0	85.7
中1	10)	75	67.3	
中1	11)	75	85.6	74.9
中1	12)	70	80.8	
中1	13)	70	80.1	
中1	14)	60	39.6	22.7
中1	15)	60	71.5	
中1	16)	60	49.7	36.0
中1	17)	60	72.9	
中1	18)	80	90.9	
中1	19)	60	45.0	
中1	20)	75	65.2	76.5

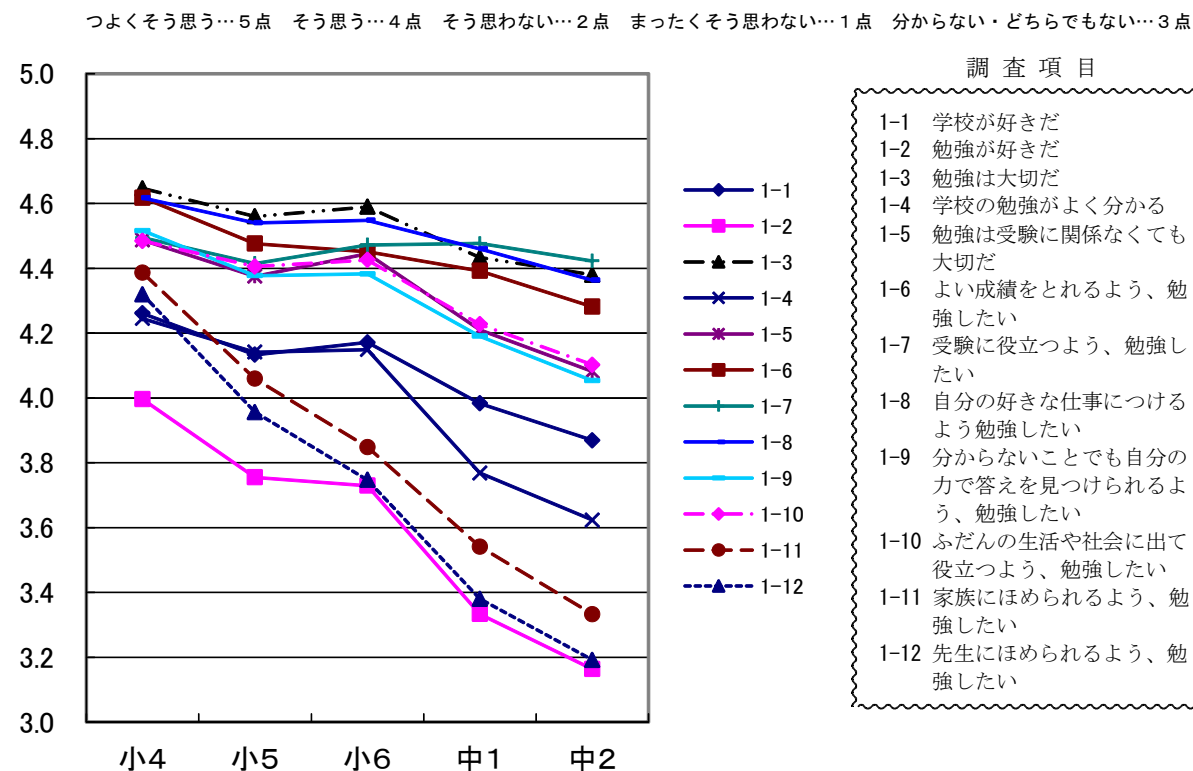
設定通過率	73.0		
平均通過率		75.3	
類似問題		76.9	73.0

	番号	設定	通過率	類似
中2	1)	90	87.5	
中2	2)	85	94.2	83.7
中2	3)	80	93.3	
中2	4)	70	93.4	54.4
中2	5)	70	44.2	
中2	6)	70	61.8	67.8
中2	7)	70	68.6	
中2	8)	80	95.2	88.0
中2	9)	75	69.9	56.9
中2	10)	75	69.0	
中2	11)	60	50.3	
中2	12)	75	81.3	
中2	13)	70	79.1	
中2	14)	65	29.7	22.7
中2	15)	60	47.3	47.7
中2	16)	60	59.2	
中2	17)	60	50.9	
中2	18)	80	90.1	72.6
中2	19)	60	39.3	
中2	20)	75	69.6	68.0

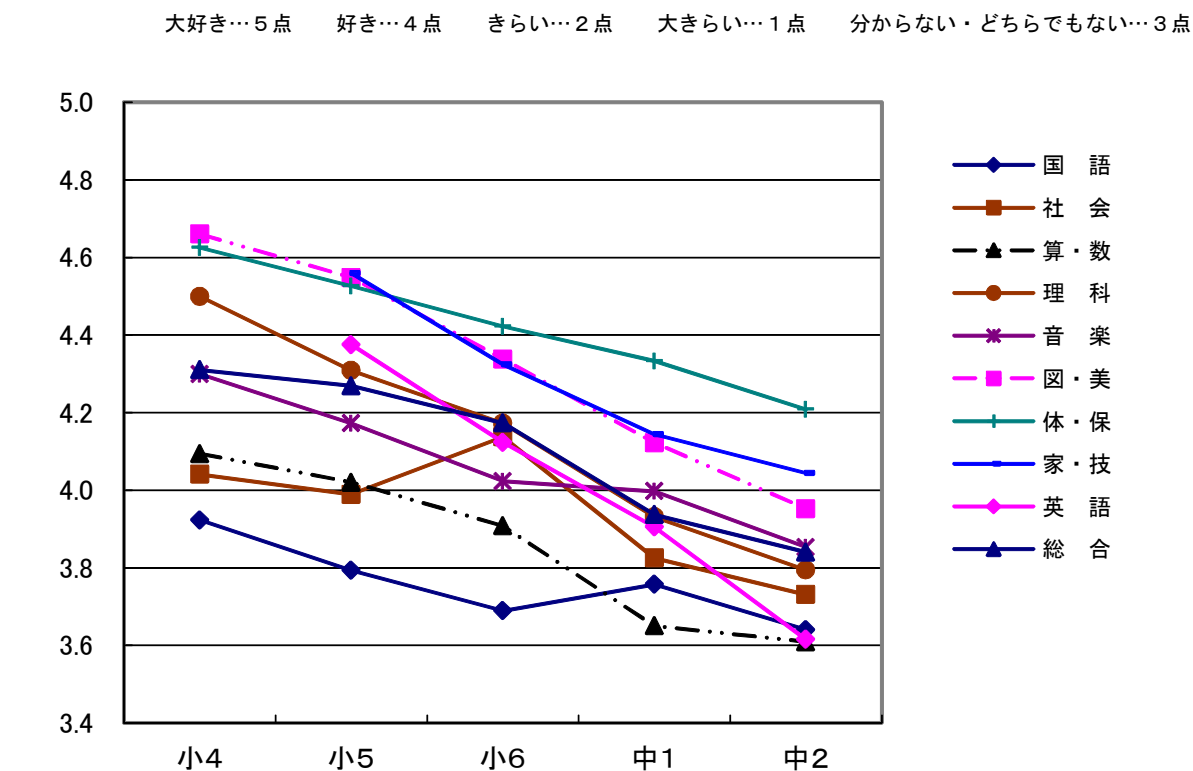
設定通過率	71.5		
平均通過率		68.7	
類似問題		72.4	62.4

(2) 学習の意欲等に関する質問紙調査結果

① 学習全般についての結果概要（５点換算による県平均）



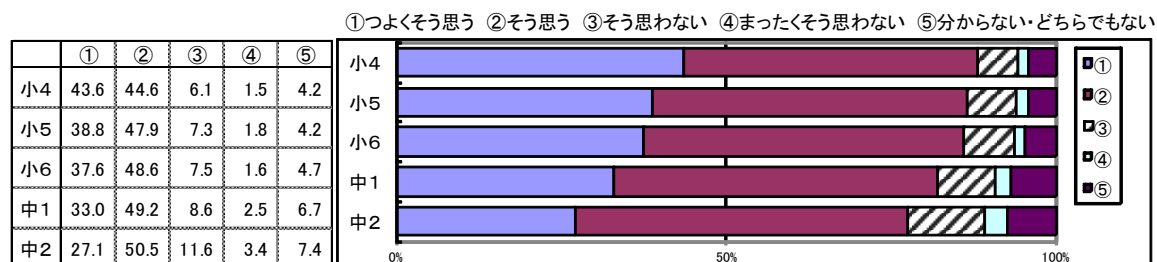
② 教科等の好き嫌いについての結果概要（５点換算による県平均）



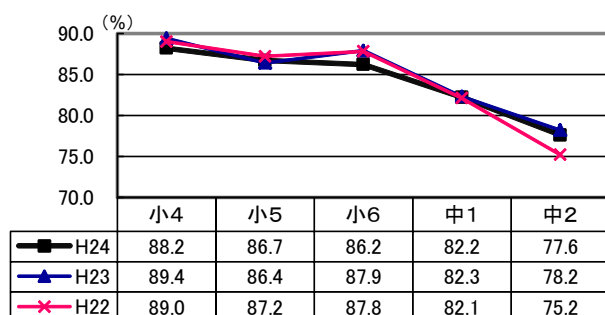
③ 学習全般について

帯グラフ（上段） … 回答結果
折れ線グラフ（下段） … 過去との比較（肯定的回答の割合）

1-1 学校が好きだ



「つよく思う」「そう思う」の割合

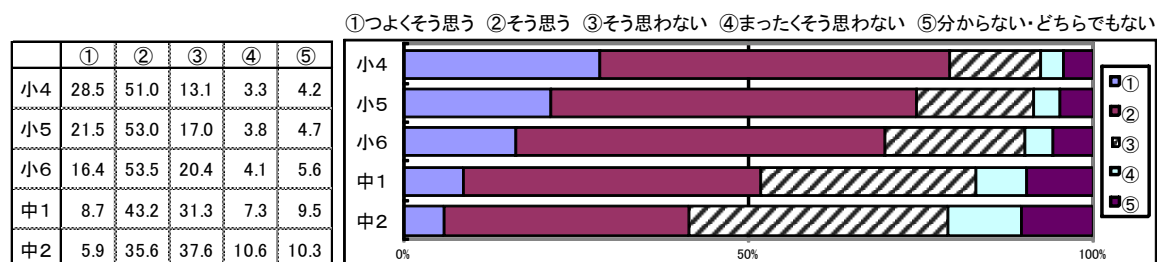


小学校における本年度の肯定的な回答の割合は、学年が上がるにつれて緩やかに下降している。H22及びH23で見られた小学校第6学年での回復傾向も表れていない。

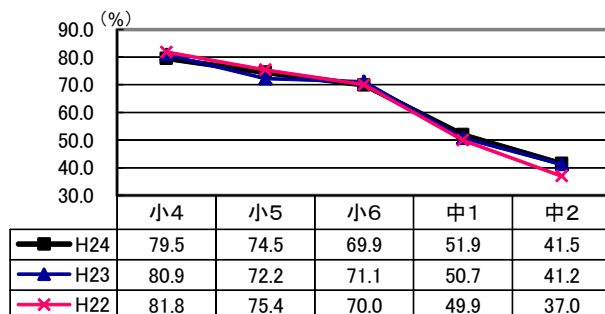
小学校と中学校の間には例年並みの4.0ポイントの差が見られる。

中学校では、肯定的な回答の割合が第1学年と第2学年の間に4.6%とやや大きな差がある。

1-2 勉強が好きだ



「つよく思う」「そう思う」の割合



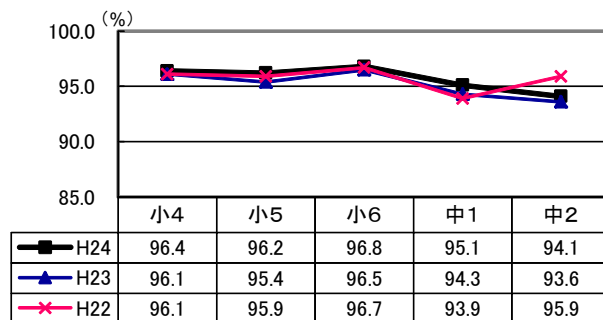
小学校では、第4学年と第6学年で肯定的な回答の割合が、昨年度と比較して微減したが、第5学年では微増した。

肯定的な回答の割合は、学年進行とともに減少する。

1-3 勉強は大切だ



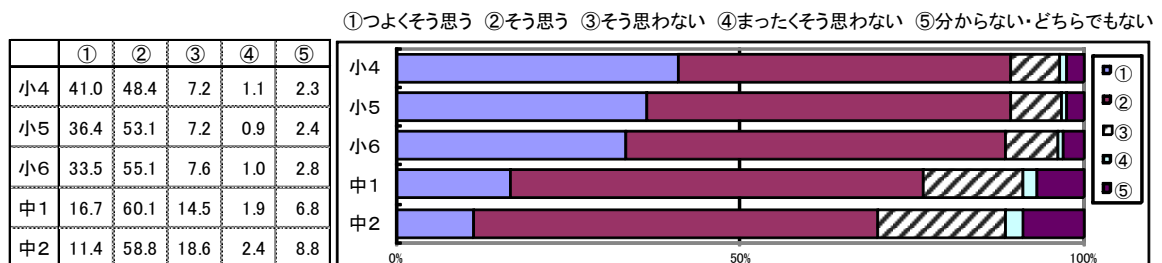
「つよくそう思う」「そう思う」の割合



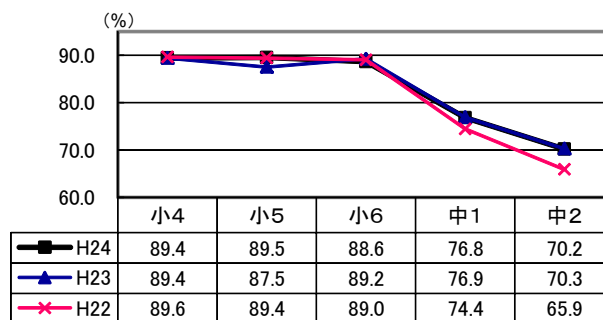
中学校第2学年を除く全ての学年において、本年度の肯定的な回答の割合は、この3年間で最も高い数値を示した。H22、H23も含めて全て95%前後であり、本県児童生徒は学習することの重要性を強く感じていると考えられる。

また、H22から引き続き、小学校第6学年が他学年に比べて最も高い数値をとることも見てとれる。

1-4 学校の勉強がよくわかる



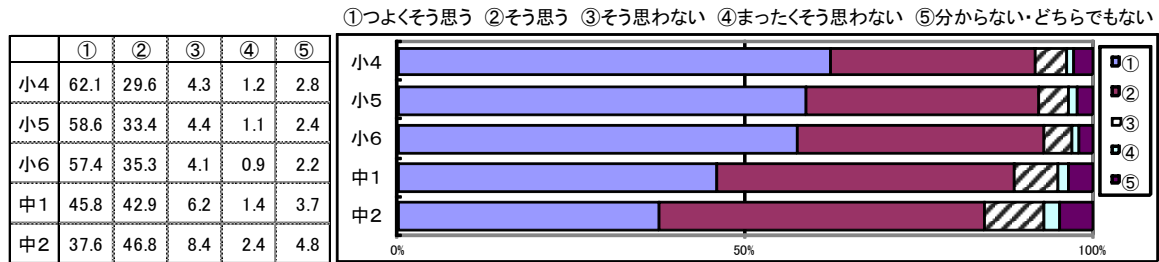
「つよくそう思う」「そう思う」の割合



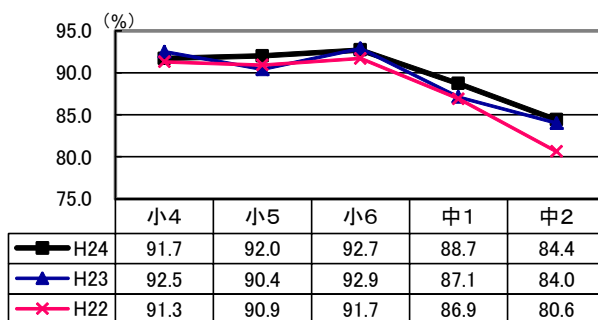
小学校では90%近くの児童が肯定的な回答をしており、30%以上が「つよくそう思う」と回答している。

中学校においても70%以上の生徒が「つよくそう思う」「そう思う」と肯定的に回答している。

1-5 勉強は受験に関係なくとも大切だ



「つよくそう思う」「そう思う」の割合

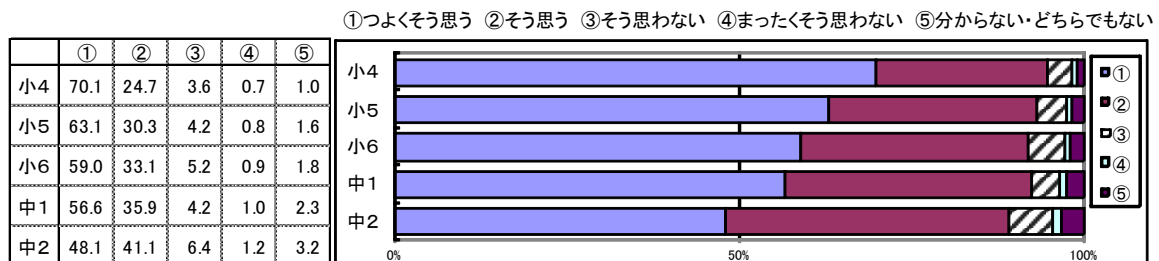


本年度の肯定的な回答の割合は、H23とほぼ同様の結果を示した。

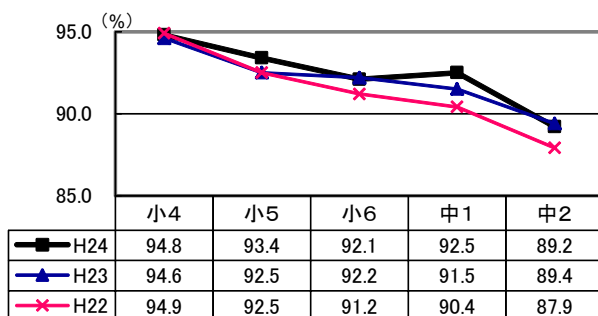
中学校においては、H22と比較して第1学年で1.8ポイント、第2学年で3.8ポイントと増加しており、良い状況が見られる。

学習に対して、受験以外の要素も、理由または目的となっていることがわかる。

1-6 よい成績をとれるよう、勉強したい



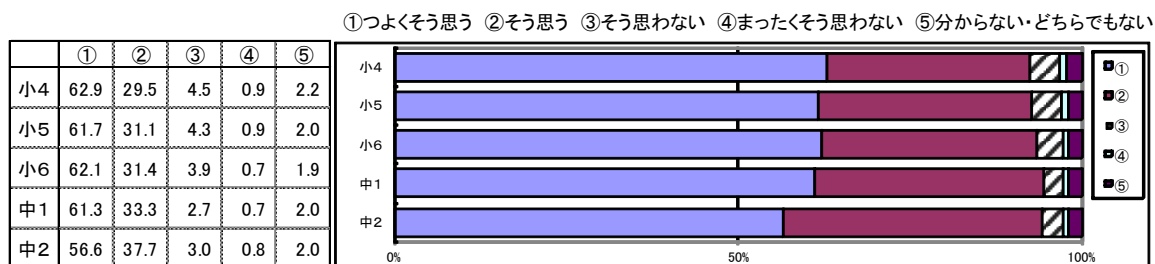
「つよくそう思う」「そう思う」の割合



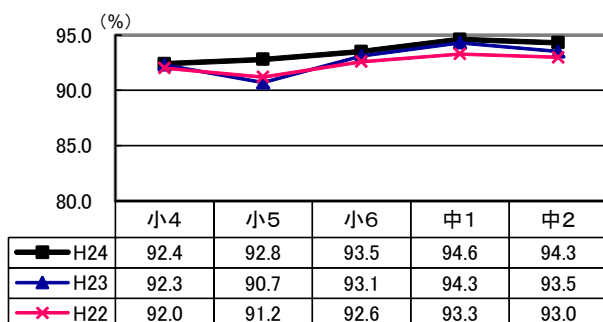
本年度の肯定的な回答の割合は、全ての学年において非常に高い数値となっており、よい成績をとりたいと強く願っている本県児童生徒の気持ちが現れている。

H22及びH23では、学年進行に伴う緩やかな減少傾向が見られたが、小学校第6学年より中学校第1学年が肯定的な回答の割合が高くなった。

1-7 受験に役立つよう、勉強したい



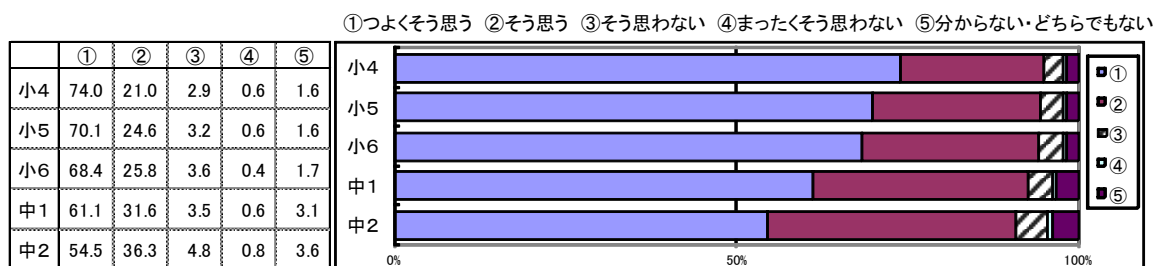
「つよくそう思う」「そう思う」の割合



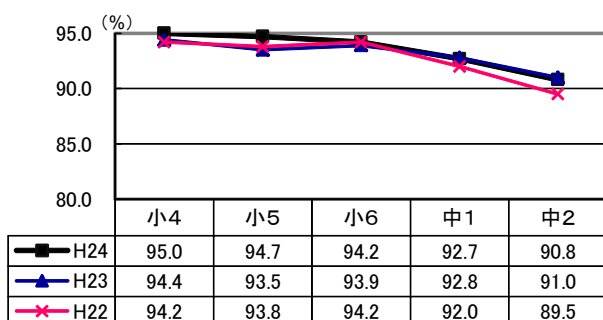
小・中学校全ての学年において、本年度の肯定的な回答の割合は、この3年間で最も高い数値を示した。H22、H23も含めて全て90%以上であり、1-5と併せて、児童生徒にとって受験は学習する動機として、大きく影響していることがわかる。

また、H22から引き続き、中学校第1学年が他学年に比べて最も高い数値である。

1-8 自分の好きな仕事につけるよう、勉強したい



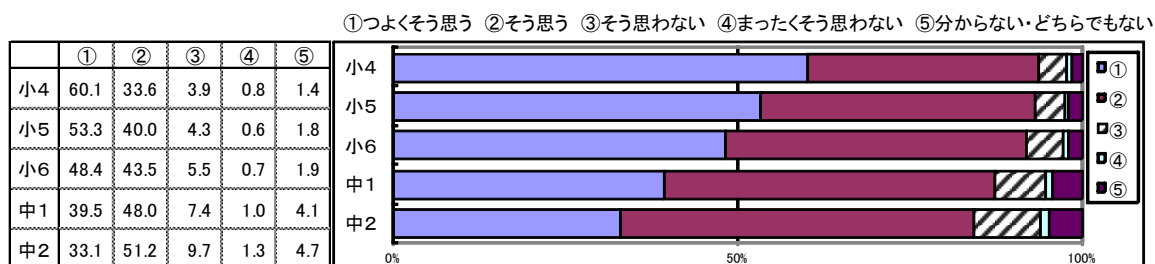
「つよくそう思う」「そう思う」の割合



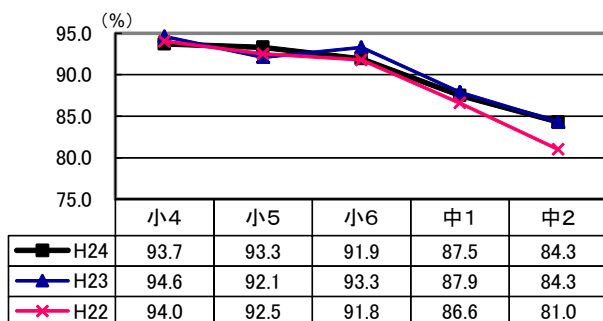
肯定的な回答の割合は、H22から高い傾向が続いており、本年度も全ての学年で90%を超えた。

児童生徒が、自分の進路希望実現のため、学習に取り組もうとする姿勢が見られる。

1-9 分からないことでも自分の力で答えを見つけられるよう、勉強したい



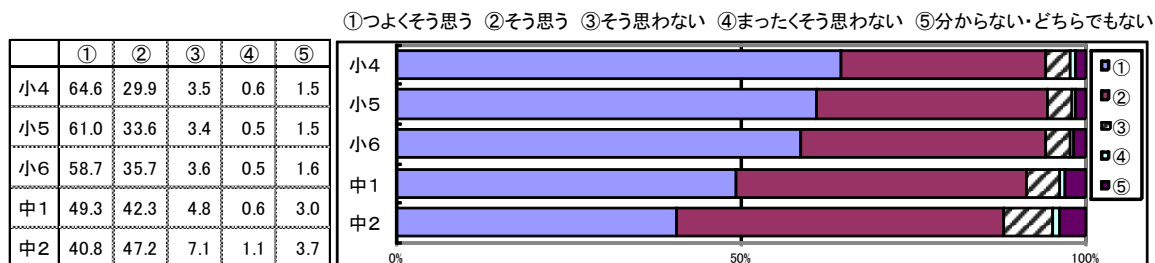
「つよくそう思う」「そう思う」の割合



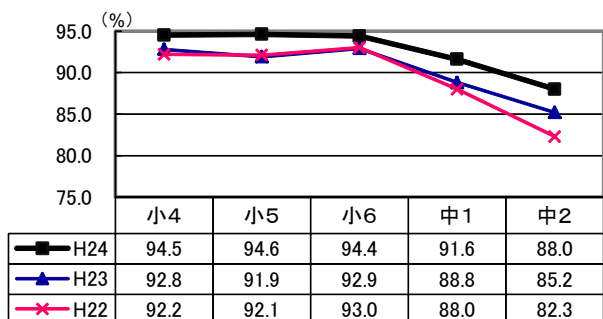
肯定的な回答の割合は、全ての学年で高い数値を示している。

学年進行とともに減少していく傾向は依然としてあるが、全ての学年で、主体的に学ぼうとする姿勢が身に付いてきていると考えられる。

1-10 ふだんの生活や社会に出て役立つよう、勉強したい



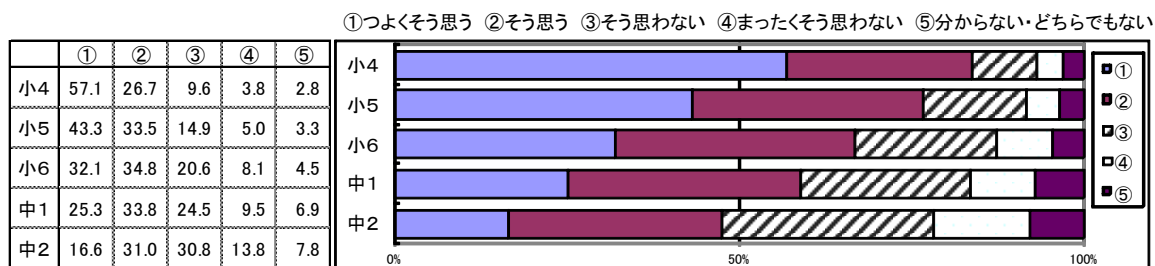
「つよくそう思う」「そう思う」の割合



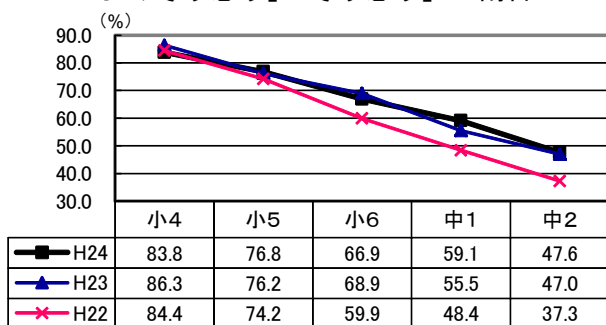
小・中学校全ての学年において、本年度の肯定的な回答の割合は、この3年間で最も高い数値を示した。中学校でも90%前後の生徒が肯定的な回答をしており、良い傾向が見られる。

学校で学んだことを、日常生活や社会に役立てようとする意識が高まっていることがうかがわれる。

1-11 家族にほめられるよう、勉強したい



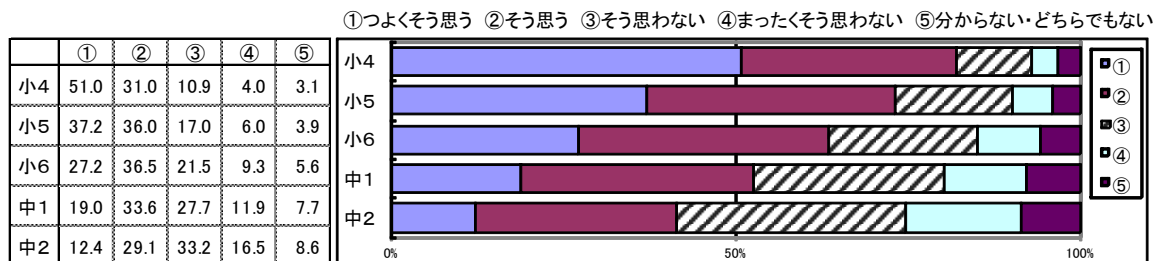
「つよくそう思う」「そう思う」の割合



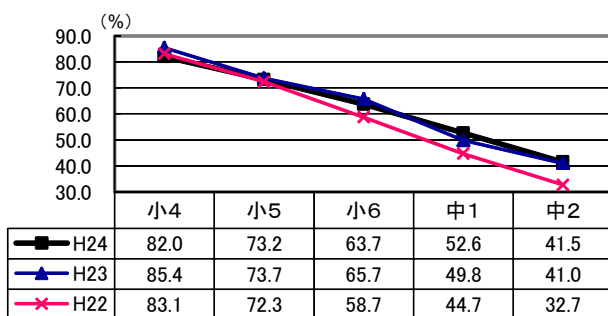
例年、学年進行に伴って、減少する傾向にある。成長とともに、学習する理由や目的が自分を中心に据えたもの変わってくるのがうかがえる。

中学校では、H22と比較して10%前後高い数値を示している。

1-12 先生にほめられるよう、勉強したい



「つよくそう思う」「そう思う」の割合

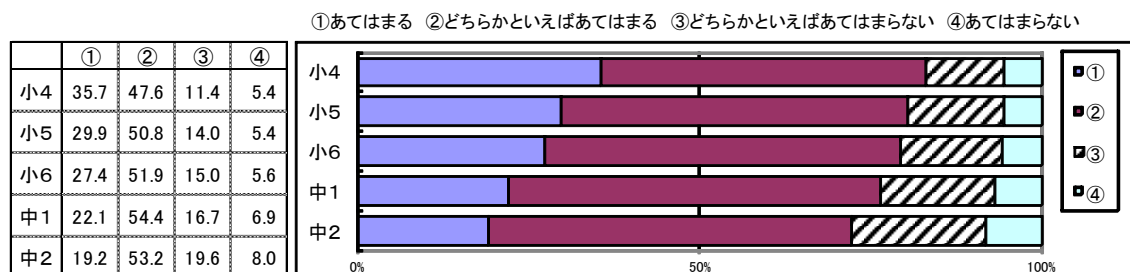


例年、学年進行に伴って、直線的に減少する傾向にある。本年度、中学校第1学年で50%を超えた。

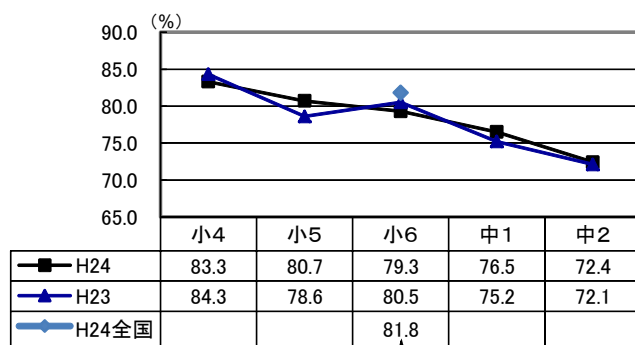
中学校では、H22と比較して8～9ポイント程度高い数値を示している。

④ 生活全般について

2-1 自分にはよいところがあると思う



「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の割合



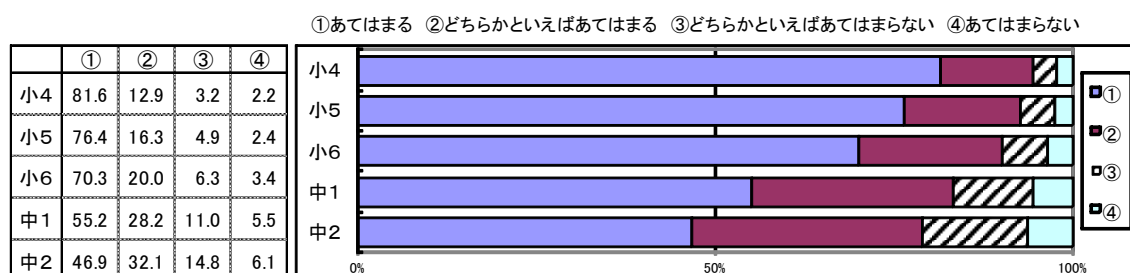
全ての学年で70%以上の児童生徒が肯定的な回答をしており、小学校第4学年及び第5学年では80%を超えている。

小学校第6学年では、全国学力・学習状況調査での本県の数値より2.5ポイント低くなっている。(全国平均76.8)

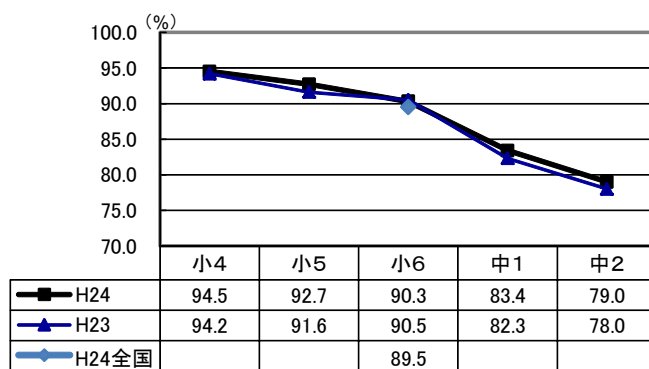
昨年度と比較すると、中学校が高い数値となっており、良い傾向が見られる。

↑ H24全国学力・学習状況調査における本県の数値(以下同じ)

2-2 将来の夢や目標をもっている



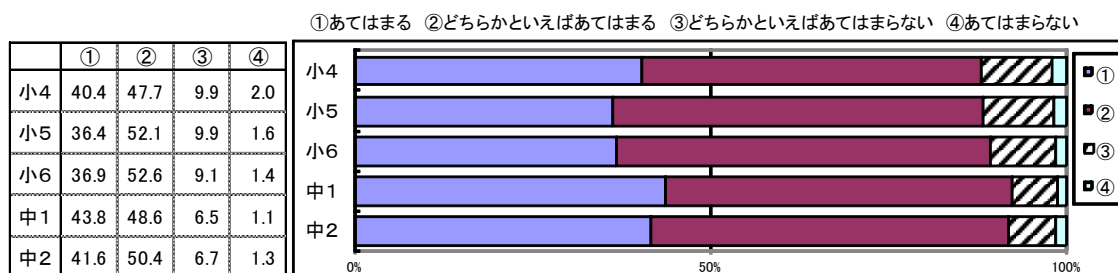
「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の割合



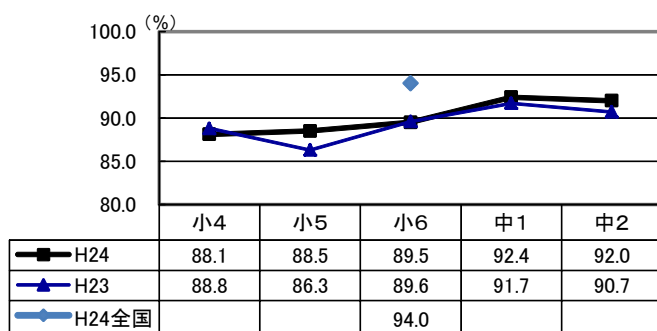
肯定的な回答の割合は、学年進行に伴って減少する傾向にあり、特に小学校から中学校にかけて約7ポイント程度低くなる。

小学校第6学年の結果は、全国学力・学習状況調査における本県の数値と比較すると、やや高くなっている。(全国平均は86.7)

2-3 学校のきまりを守っている



「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の割合

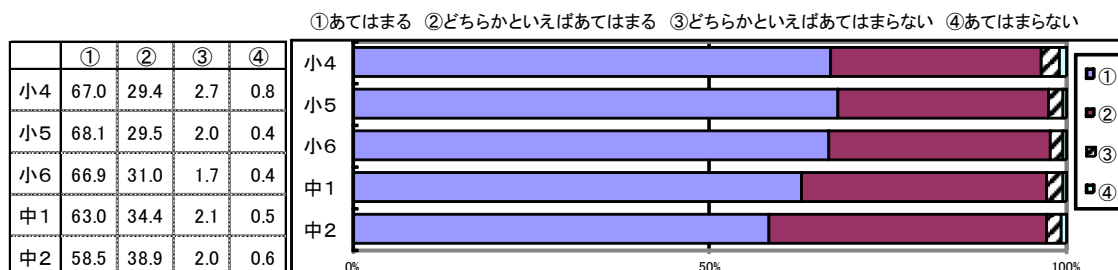


全ての学年で90%程度の児童生徒が肯定的な回答をしている。小学校より中学校の数値が高いことは特徴的である。

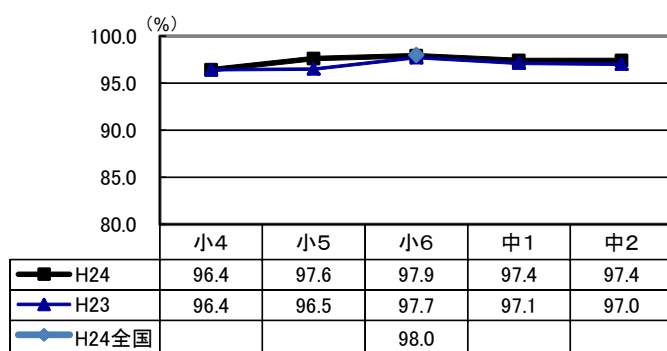
小学校第6学年では、全国学力・学習状況調査の本県の数値より4.5ポイント低くなっている。(全国平均91.3)

中学校が昨年度よりも高い数値となっており、良い傾向が見られる。

2-4 友達との約束を守っている



「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の割合

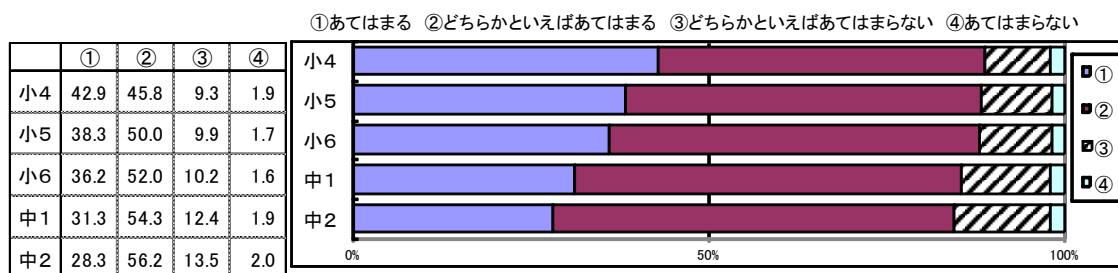


全ての学年でほぼ100%に近い児童生徒が肯定的な回答をしている。

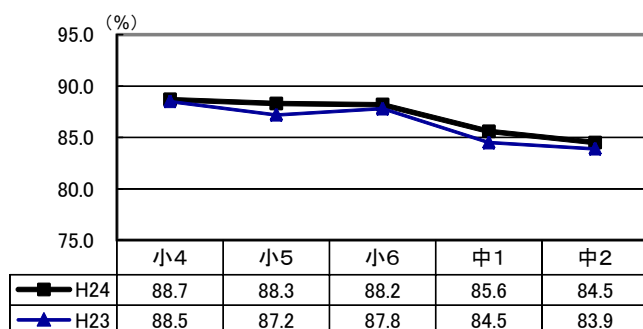
小学校第6学年では、全国学力・学習状況調査の本県の数値との差はほとんど見られない。(全国平均97.1)

ほとんどの学年で、昨年度よりも高い数値となっている。

2-5 人が困っているときは進んで助けている

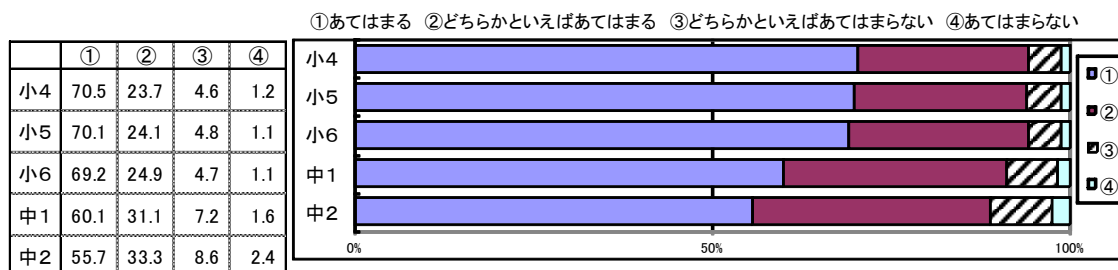


「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の割合

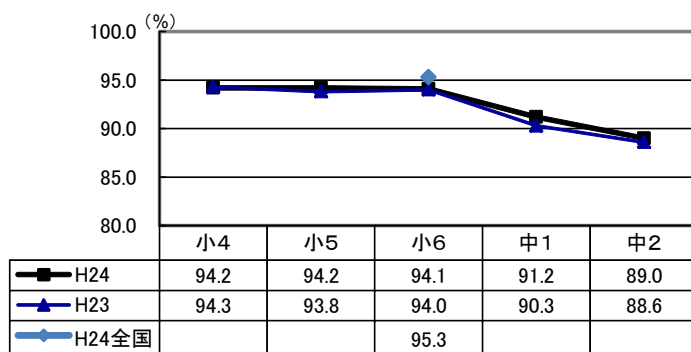


全ての学年で8割以上の児童生徒が肯定的な回答をしており、昨年度より高い数値となっている。

2-6 近所の人に会ったときは、あいさつをしている

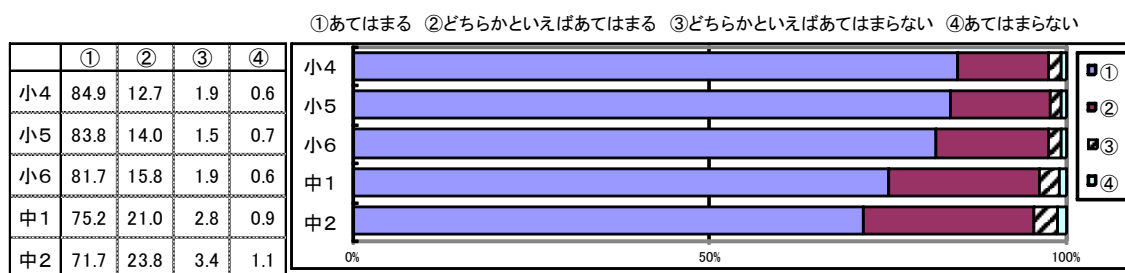


「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の割合

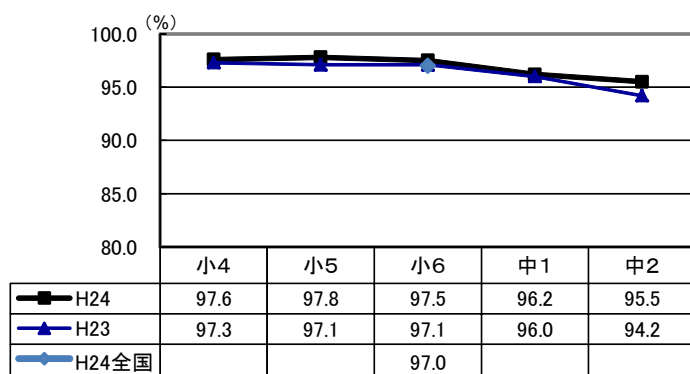


肯定的な回答の割合は、全ての学年で高い数値を示している。小学校第6学年では、全国平均と比較して、4ポイント程度高い。(全国平均91.1)

2-7 いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う



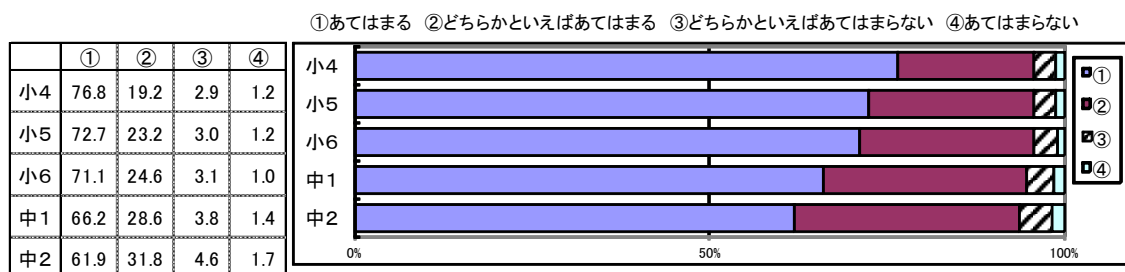
「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の割合



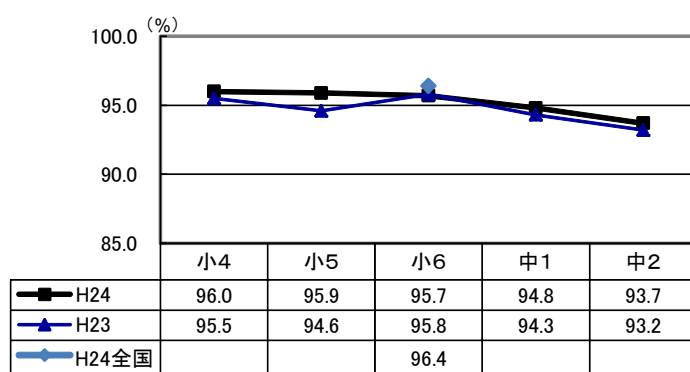
全ての学年でほぼ100%に近い児童生徒が肯定的な回答をしており、昨年度と比較して高い数値となっている。

小学校第6学年では、全国学力・学習状況調査の本県の数値と比較して、0.5ポイント高い。(全国平均95.4)

2-8 人の役に立つ人間になりたいと思う



「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の割合

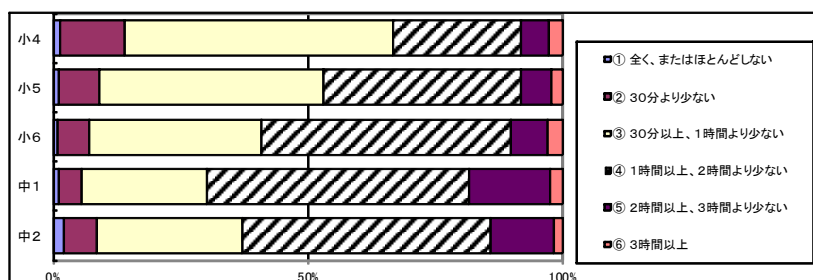


全ての学年で高い数値となっている。

小学校第6学年では、全国学力・学習状況調査の本県の数値平均より0.7ポイント低い。(全国平均94.7)

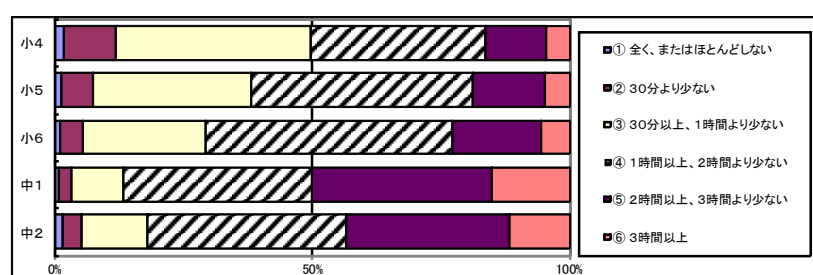
⑤ 家庭学習について

学校がある日の家庭学習



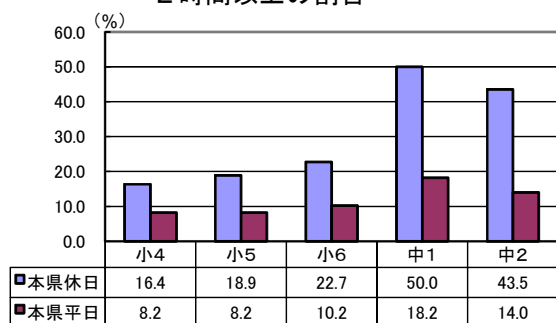
	①	②	③	④	⑤	⑥
小4	1.3	12.7	52.6	25.1	5.5	2.7
小5	1.0	8.1	44.0	38.9	6.2	2.0
小6	0.8	6.2	34.0	48.9	7.4	2.8
中1	1.1	4.4	24.8	51.6	15.9	2.3
中2	2.1	6.5	28.6	48.8	12.4	1.6

土曜日や日曜日の家庭学習

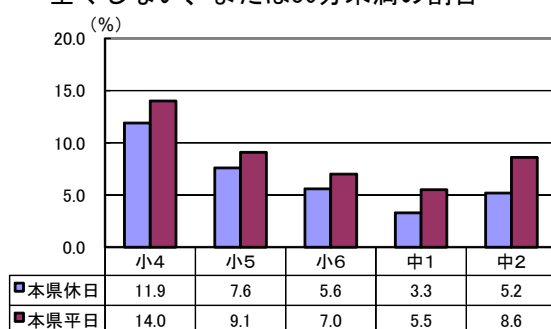


	①	②	③	④	⑤	⑥
小4	1.9	10.0	37.8	33.9	11.8	4.6
小5	1.4	6.2	30.6	42.9	14.0	4.9
小6	1.0	4.6	23.7	47.9	17.1	5.6
中1	0.9	2.4	10.0	36.7	34.9	15.1
中2	1.6	3.6	12.8	38.6	31.9	11.6

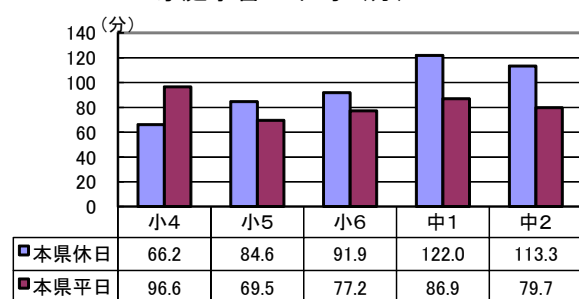
2時間以上の割合



全くしない、または30分未満の割合



家庭学習の平均 (分)



〔家庭学習時間の平均〕

平日に1時間から1時間30分程度の家庭学習をしている児童生徒が多いと考えられる。休日と平日ともに、中学校第1学年が最も家庭学習時間の平均が長く、休日では122分である。

〔2時間以上の割合〕

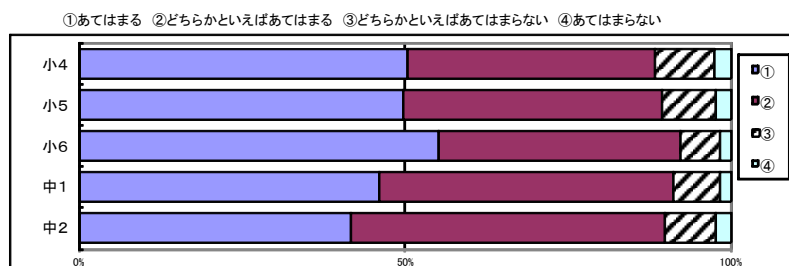
休日に2時間以上の学習をしている児童生徒の割合は、中学生になると高くなり、40%以上である。

〔全くしない、または30分未満の割合〕

家庭学習を全くしない、または家庭学習時間が30分未満の児童生徒の割合は、全ての学年で低い数値であり、家庭学習の習慣がよく身に付いていることがうかがえる。

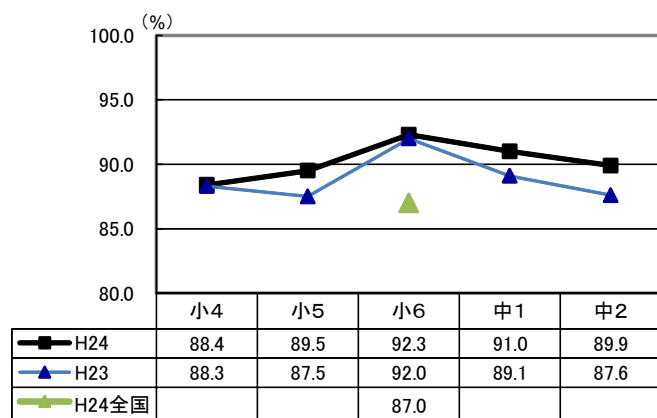
⑥ 授業について

4-1 ふだんの授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う



	①	②	③	④
小4	50.5	37.9	9.0	2.6
小5	49.8	39.7	8.4	2.2
小6	55.2	37.1	6.0	1.7
中1	46.0	45.0	7.2	1.7
中2	41.7	48.2	7.9	2.2

「あてはまる」＋「どちらかといえばあてはまる」の割合



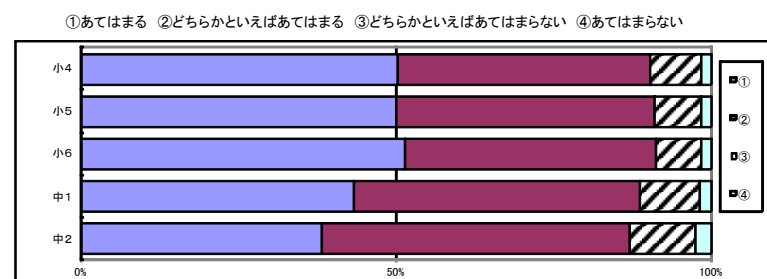
肯定的な回答の割合は、全ての学年で90%前後と高い数値となった

小学校第6学年では、全国学力・学習状況調査における本県の数値と比較して5.3ポイント高い。(全国平均は81.7%)

また、H23小学校第5学年とH24小学校第6学年を比較すると、4.8ポイント増加している。

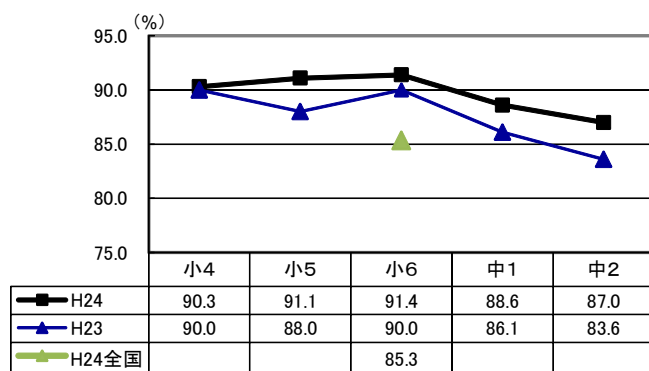
本県では、ふだんの授業において自分の考えを発表する機会が確保されていることが表れている。

4-2 ふだんの授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っている



	①	②	③	④
小4	50.3	40.0	8.0	1.6
小5	50.2	40.9	7.4	1.5
小6	51.6	39.8	7.1	1.5
中1	43.3	45.3	9.4	1.8
中2	38.2	48.8	10.3	2.5

「あてはまる」＋「どちらかといえばあてはまる」の割合



肯定的な回答の割合は、全ての学年で90%前後と高い数値を示している。

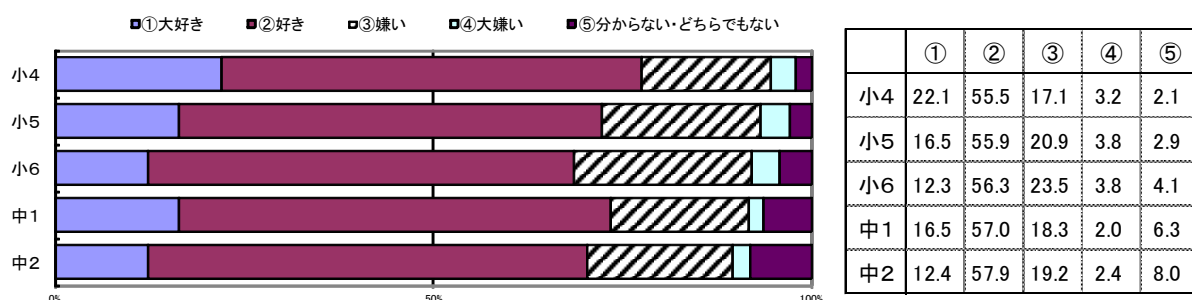
小学校第6学年では、全国学力・学習状況調査における本県の数値と比較して6.1ポイント高い。(全国平均は76.9%)

また、H23小学校第5学年とH24小学校第6学年を比較すると、3.4ポイント増加している。

本県では、ふだんの授業において学級の友達との間で話し合う活動がよくなされていることが表れている。

⑦ 教科の好き嫌いについて

国語

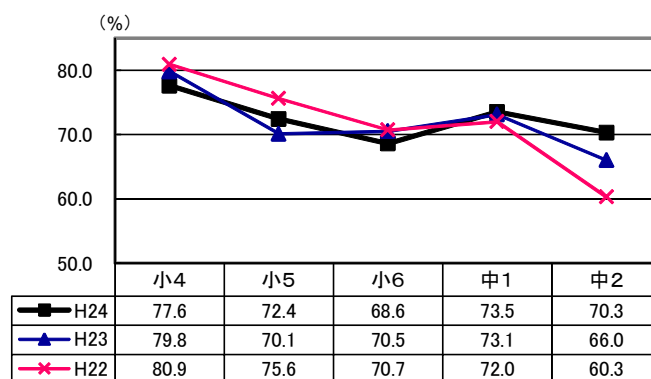


好きな理由・嫌いな理由

%は全児童生徒に対する割合

国語		小4	小5	小6	中1	中2
好きな理由	① 楽しい	20.6%	16.3%	13.7%	26.6%	22.8%
	② 分かりやすい	17.3%	14.6%	11.3%	13.7%	13.2%
	③ 将来のためになる	10.4%	12.4%	14.2%	10.9%	10.3%
	④ 生活の中で役立つ	11.6%	12.6%	14.9%	11.6%	13.3%
	⑤ 考えるのが好き	9.8%	8.4%	8.0%	6.2%	5.2%
	⑥ 得意	5.5%	5.6%	5.1%	5.9%	7.2%
嫌いな理由	⑦ 楽しくない	5.1%	5.8%	6.7%	5.6%	6.0%
	⑧ 分かりにくい	4.7%	4.6%	4.6%	3.1%	4.7%
	⑨ 将来のためにならない	0.1%	0.2%	0.1%	0.2%	0.2%
	⑩ 生活の中で役立たない	0.1%	0.1%	0.2%	0.1%	0.4%
	⑪ 考えるのがめんどろ	2.0%	2.5%	3.0%	2.0%	2.2%
	⑫ 不得意	7.5%	10.9%	12.6%	9.5%	8.8%
	⑬ その他・不明	5.3%	5.9%	5.6%	4.6%	5.6%

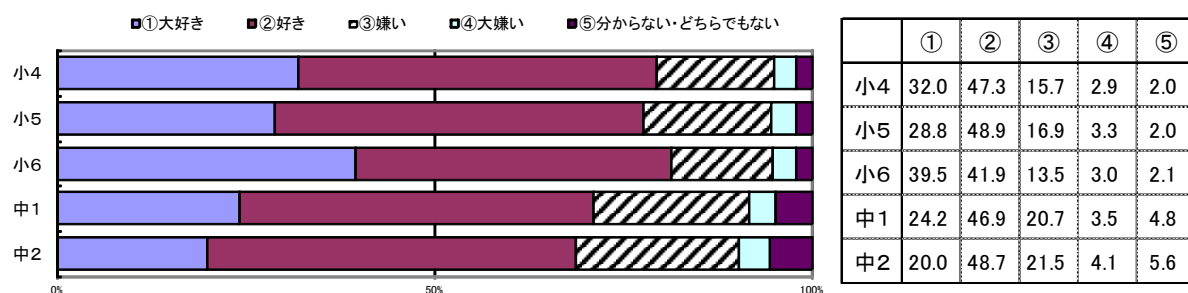
「大好き」「好き」の児童生徒の割合



肯定的な回答の割合について、小学校第6学年の数値が最も低くなっている。

小学校第6学年と中学校第1学年は4.9ポイントの差があり、小学校6学年から中学校第1学年にかけて「楽しい」が12.9ポイント増加し、「不得意」が3.1ポイント減少している。

社会

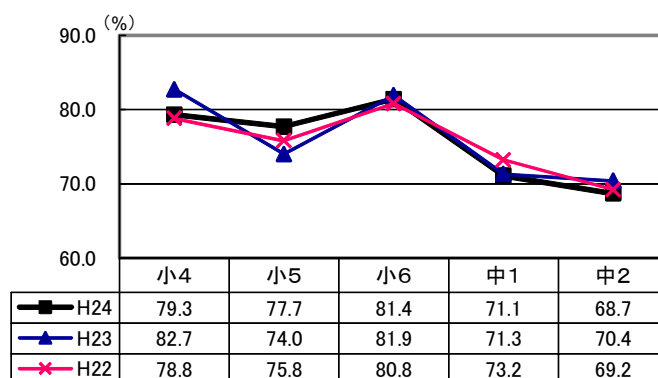


好きな理由・嫌いな理由

%は全児童生徒に対する割合

社会		小4	小5	小6	中1	中2
好きな理由	① 楽しい	19.8%	18.0%	33.3%	31.1%	30.3%
	② 分かりやすい	11.5%	11.4%	11.7%	12.4%	12.9%
	③ 将来のためになる	16.8%	19.7%	12.2%	9.5%	7.8%
	④ 生活の中で役立つ	20.6%	17.2%	6.9%	6.6%	5.8%
	⑤ 考えるのがすき	5.4%	5.0%	6.4%	5.0%	4.9%
	⑥ 得意	4.1%	5.3%	9.4%	6.3%	6.9%
嫌いな理由	⑦ 楽しくない	4.9%	4.3%	2.9%	3.3%	4.2%
	⑧ 分かりにくい	5.1%	5.0%	4.1%	6.1%	7.1%
	⑨ 将来のためにならない	0.2%	0.1%	0.3%	0.6%	0.7%
	⑩ 生活の中で役立たない	0.1%	0.1%	0.4%	0.7%	1.0%
	⑪ 考えるのがめんどろ	1.5%	1.7%	1.0%	1.0%	1.1%
	⑫ 不得意	6.3%	8.3%	7.2%	12.7%	11.7%
	⑬ その他・不明	3.6%	4.0%	4.2%	4.5%	5.6%

「大好き」「好き」の児童生徒の割合

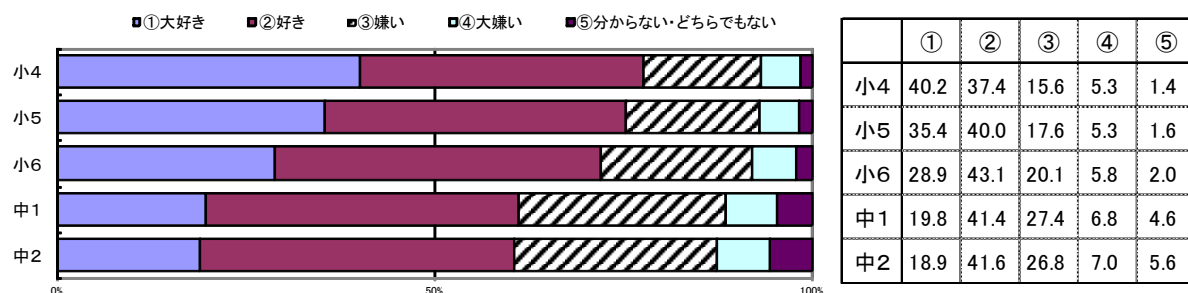


本教科については、肯定的な回答の割合が学年ごとに変動する。

小学校第4学年では、身近な地域を調査する内容であり、校外での学習を重視したものとなっている。そのため、好きな理由として「生活の中で役立つ」の数値が20.6%と高くなっている。

小学校第6学年では、人物を中心とした歴史を学習する内容であり、児童の興味・関心が高まると考えられる。

算数・数学

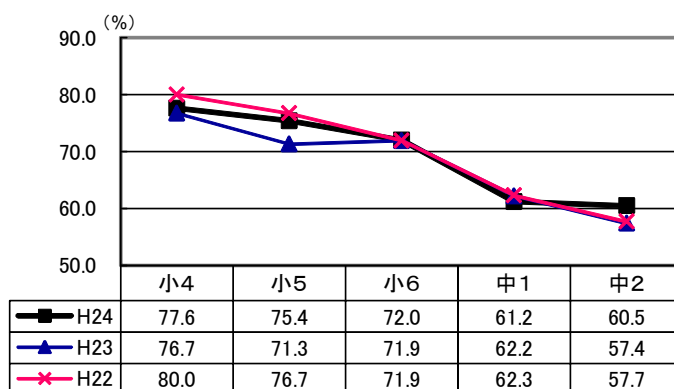


好きな理由・嫌いな理由

%は全児童生徒に対する割合

算数・数学		小4	小5	小6	中1	中2
好きな理由	① 楽しい	16.8%	15.9%	13.2%	13.2%	14.6%
	② 分かりやすい	12.8%	11.4%	9.6%	9.6%	10.9%
	③ 将来のためになる	9.6%	11.3%	12.2%	9.6%	8.1%
	④ 生活の中で役立つ	11.2%	11.0%	14.5%	10.2%	7.6%
	⑤ 考えるのが好き	13.1%	13.4%	12.1%	10.8%	12.6%
	⑥ 得意	13.0%	11.8%	10.2%	8.6%	8.1%
嫌いな理由	⑦ 楽しくない	3.5%	3.8%	4.4%	4.7%	4.2%
	⑧ 分かりにくい	5.6%	5.3%	5.4%	8.5%	7.7%
	⑨ 将来のためにならない	0.1%	0.0%	0.1%	0.2%	0.5%
	⑩ 生活の中で役立たない	0.1%	0.1%	0.1%	0.4%	0.6%
	⑪ 考えるのがめんどろ	2.7%	3.1%	3.9%	3.7%	3.6%
	⑫ 不得意	7.8%	9.9%	11.6%	17.3%	18.3%
	⑬ その他・不明	3.5%	3.0%	2.6%	3.2%	3.2%

「大好き」「好き」の児童生徒の割合



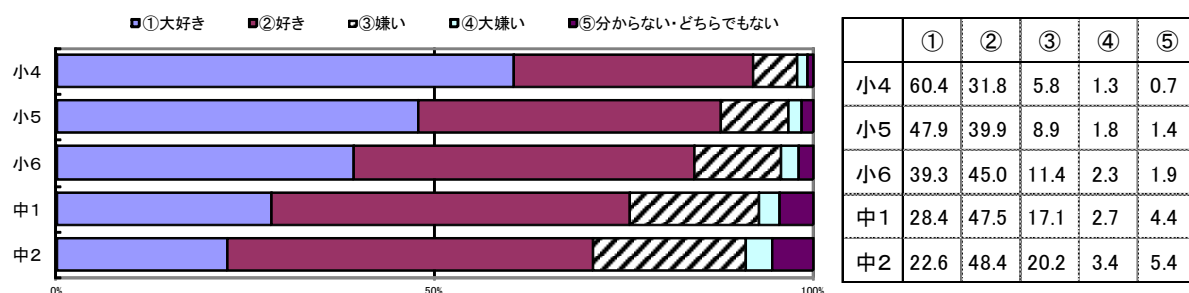
学年が上がるにつれて、肯定的な回答の割合が低くなるとともに「不得意」が増加する。

小学校第6学年と中学校第1学年は10.8ポイントの差があり、例年のとおりで改善の傾向は見られない。また、中学校第1学年では、「不得意」「分かりにくい」が高い数値となっており、小学校から中学校にかけて難易度が増し、児童生徒の負担感が増すことにも原因があると考えられる。

中学校第2学年について昨年度と比較すると、肯定的な回答の割合が3.1ポイント高くなった。

算数・数学を好きな児童生徒は、「考えるのが好き」と答える割合が10%以上で、他教科より高い傾向がある。

理科

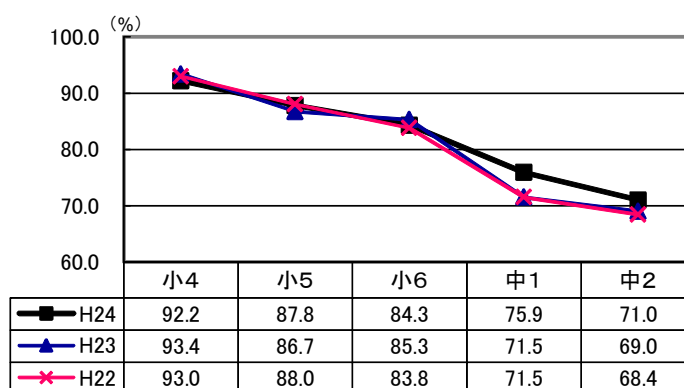


好きな理由・嫌いな理由

％は全児童生徒に対する割合

	理科	小4	小5	小6	中1	中2
好きな理由	① 楽しい	45.0%	41.4%	42.3%	42.8%	35.5%
	② 分かりやすい	9.9%	11.9%	9.9%	9.1%	10.2%
	③ 将来のためになる	5.2%	5.7%	5.3%	3.7%	4.9%
	④ 生活の中で役立つ	9.3%	8.2%	8.4%	6.4%	5.7%
	⑤ 考えるのが好き	10.6%	9.8%	9.1%	7.4%	7.4%
	⑥ 得意	10.0%	9.1%	7.9%	6.9%	7.7%
嫌いな理由	⑦ 楽しくない	1.6%	2.5%	3.4%	2.8%	3.8%
	⑧ 分かりにくい	1.7%	2.3%	3.2%	5.2%	6.2%
	⑨ 将来のためにならない	0.1%	0.3%	0.5%	0.9%	0.8%
	⑩ 生活の中で役立たない	0.2%	0.3%	0.4%	0.8%	1.0%
	⑪ 考えるのがめんどろ	0.5%	0.7%	1.0%	1.2%	1.6%
	⑫ 不得意	2.3%	4.2%	4.6%	8.9%	10.4%
	⑬ その他・不明	3.3%	3.5%	4.1%	3.8%	4.8%

「大好き」「好き」の児童生徒の割合



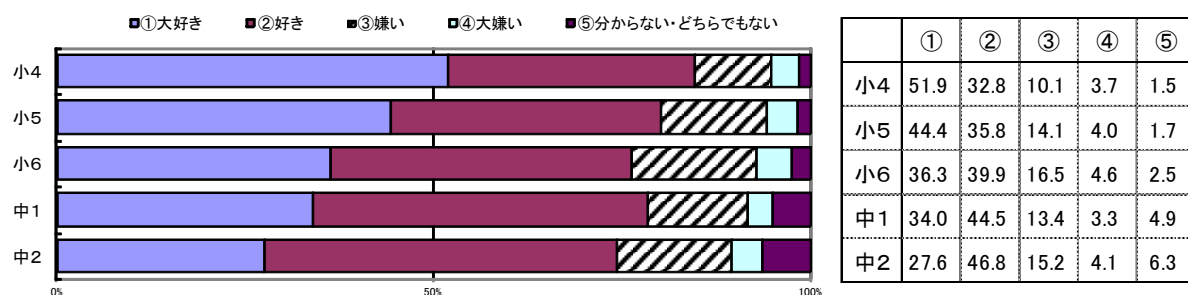
学年が上がるにつれて、肯定的な回答の割合は低くなるとともに「不得意」が増加する。

小学校第6学年と中学校第1学年は8.4ポイントの差があり、例年のとおりで改善の傾向は見られない。

中学校第1学年について昨年度と比較すると、肯定的な回答の割合が4.4ポイント高くなった。

理科を好きな理由として、小学校6学年から中学校第1学年にかけて「楽しい」が40%以上、中学校第2学年で35.5%と高い数値を示している。

音楽

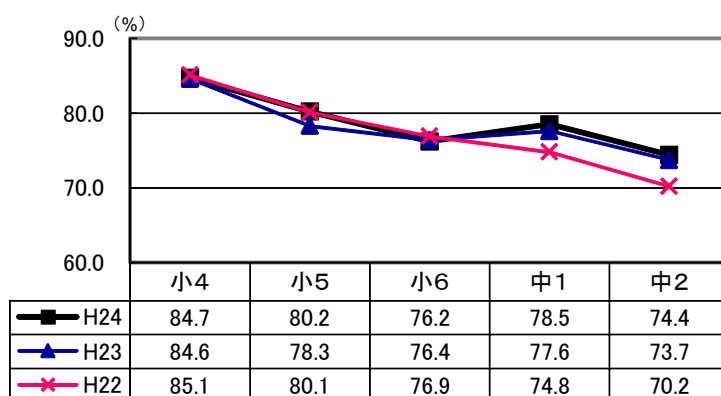


好きな理由・嫌いな理由

%は全児童生徒に対する割合

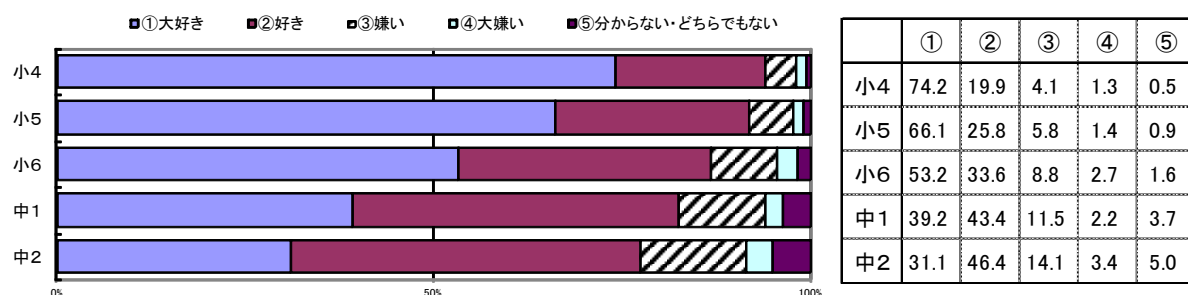
音楽		小4	小5	小6	中1	中2
好きな理由	① 楽しい	50.7%	52.5%	51.9%	61.2%	59.8%
	② 分かりやすい	8.0%	5.7%	4.9%	4.6%	3.5%
	③ 将来のためになる	2.9%	2.2%	1.7%	1.6%	1.5%
	④ 生活の中で役立つ	1.9%	1.6%	1.4%	1.2%	1.1%
	⑤ 考えるのがすき	1.6%	0.9%	0.6%	0.6%	0.6%
	⑥ 得意	15.9%	13.7%	12.3%	8.6%	7.5%
嫌いな理由	⑦ 楽しくない	2.9%	3.0%	4.1%	4.0%	5.7%
	⑧ 分かりにくい	2.2%	2.3%	1.9%	0.9%	1.1%
	⑨ 将来のためにならない	0.6%	1.2%	1.8%	2.2%	2.5%
	⑩ 生活の中で役立たない	0.6%	0.8%	1.5%	1.9%	2.1%
	⑪ 考えるのがめんどろ	0.3%	0.3%	0.2%	0.4%	0.4%
	⑫ 不得意	6.1%	9.9%	11.4%	7.2%	7.5%
	⑬ その他・不明	6.1%	5.9%	6.4%	5.6%	6.7%

「大好き」「好き」の児童生徒の割合



肯定的な回答の割合は、全ての学年で高い数値を示している。学年による数値の変動はあまり見られないが、小学校第4学年の数値が他の学年に比べて最も高くなっている。これはH22から同じ傾向である。好きな理由として、全ての学年の半数以上が「楽しい」と回答しており、特に中学校でその傾向が強い。

図画工作、美術

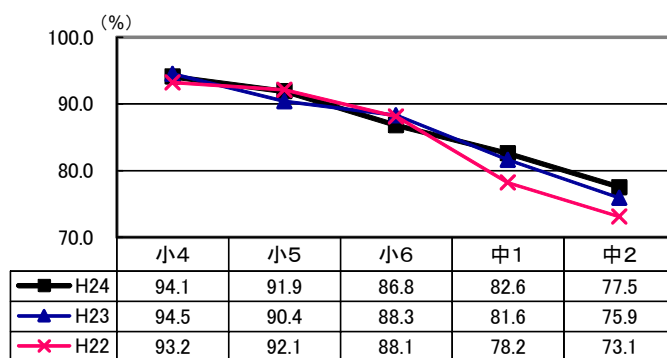


好きな理由・嫌いな理由

%は全児童生徒に対する割合

図画・工作、美術		小4	小5	小6	中1	中2
好きな理由	① 楽しい	61.5%	66.0%	64.9%	65.1%	63.5%
	② 分かりやすい	2.9%	2.4%	1.7%	2.6%	2.4%
	③ 将来のためになる	2.9%	1.6%	2.0%	1.4%	1.2%
	④ 生活の中で役立つ	2.7%	2.2%	2.6%	1.8%	1.2%
	⑤ 考えるのが好き	6.1%	5.0%	4.0%	2.9%	2.5%
	⑥ 得意	15.9%	12.9%	9.9%	8.0%	6.5%
嫌いな理由	⑦ 楽しくない	1.2%	1.4%	2.2%	2.7%	4.1%
	⑧ 分かりにくい	0.4%	0.3%	0.3%	0.5%	0.6%
	⑨ 将来のためにならない	0.2%	0.4%	1.0%	1.3%	2.0%
	⑩ 生活の中で役立たない	0.1%	0.3%	0.4%	1.2%	1.6%
	⑪ 考えるのがめんどろ	0.4%	0.4%	0.6%	0.5%	0.6%
	⑫ 不得意	2.8%	4.1%	6.5%	7.4%	8.3%
	⑬ その他・不明	2.9%	3.0%	3.8%	4.5%	5.5%

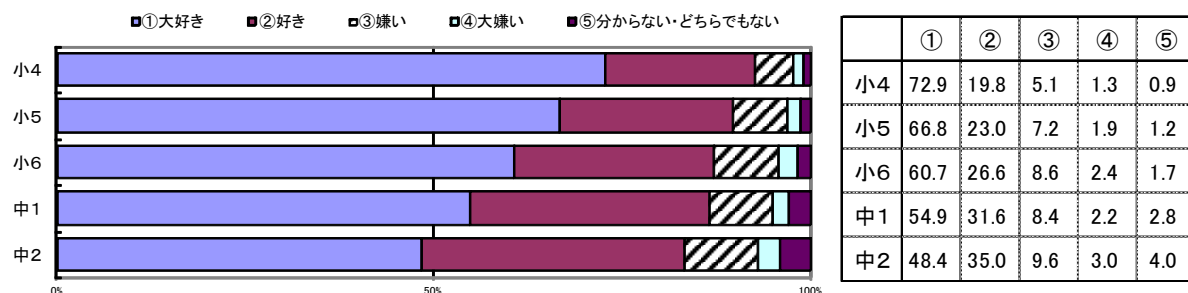
「大好き」「好き」の児童生徒の割合



肯定的な回答の割合は、全ての学年で高い数値を示しているが、学年が上がるにつれて低くなるとともに「不得意」が増加する。H22からと同様に、小学校第4学年の数値が他の学年に比べて最も高くなっている。好きな理由として、全ての学年の60%以上が「楽しい」と感じており、学年間に差は見られない。

また、本年度は中学校の肯定的な回答の割合が微増しており、H22からの比較では最も高い数値となっている。

体育、保健体育

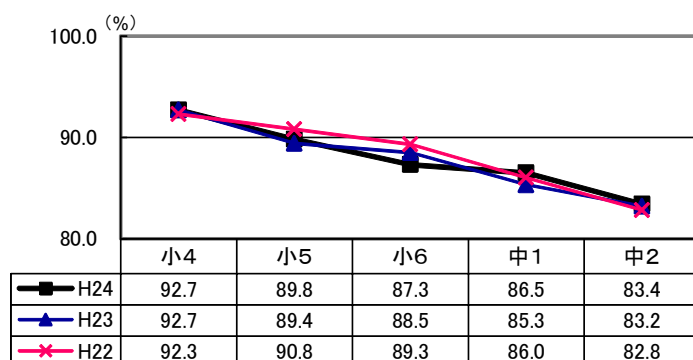


好きな理由・嫌いな理由

%は全児童生徒に対する割合

体育、保健体育		小4	小5	小6	中1	中2
好きな理由	① 楽しい	53.8%	56.9%	59.3%	64.7%	66.4%
	② 分かりやすい	2.3%	1.7%	1.4%	1.4%	1.4%
	③ 将来のためになる	5.3%	4.4%	3.6%	2.0%	2.0%
	④ 生活の中で役立つ	4.5%	2.6%	2.0%	2.6%	2.6%
	⑤ 考えるのがすき	0.6%	0.4%	0.3%	0.3%	0.2%
	⑥ 得意	23.4%	20.8%	18.3%	15.1%	11.6%
嫌いな理由	⑦ 楽しくない	1.1%	1.2%	1.6%	1.4%	2.5%
	⑧ 分かりにくい	0.1%	0.2%	0.2%	0.1%	0.2%
	⑨ 将来のためにならない	0.1%	0.2%	0.4%	0.4%	0.5%
	⑩ 生活の中で役立たない	0.2%	0.2%	0.3%	0.2%	0.3%
	⑪ 考えるのがめんどろ	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.2%
	⑫ 不得意	4.3%	6.6%	8.1%	8.2%	8.7%
	⑬ その他・不明	4.4%	4.6%	4.3%	3.5%	3.5%

「大好き」「好き」の児童生徒の割合

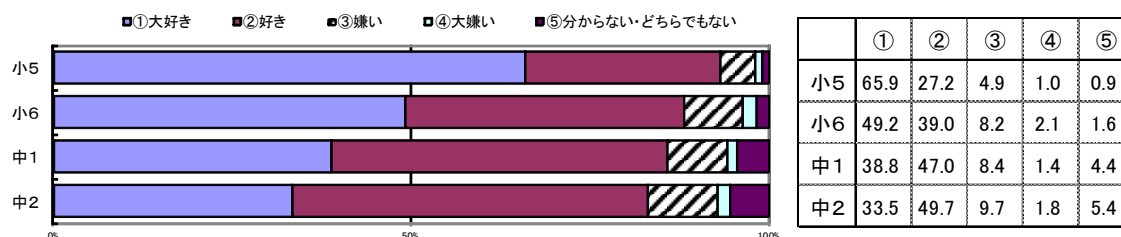


肯定的な回答の割合は、全ての学年で高い数値を示しており、児童生徒が好きな教科とする割合が最も高いことが分かる。

学年による数値の変動はあまり見られないが、小学校第4学年の数値が他の学年に比べて最も高くなっている。これはH22から同じ傾向である。

好きな理由として、「楽しい」が最も多く、全児童生徒の60%以上となっており、「得意」と感じている児童生徒の割合も、他教科に比べて高い。

家庭、技術・家庭

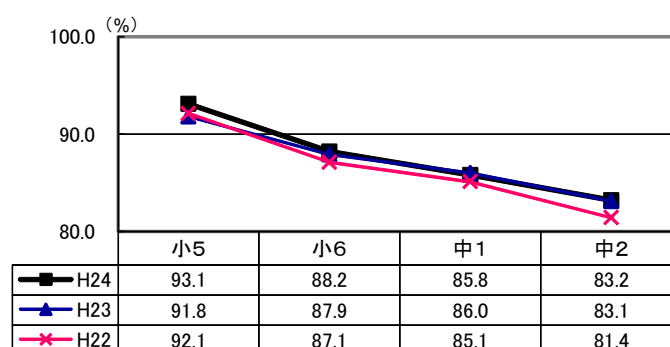


好きな理由・嫌いな理由

%は全児童生徒に対する割合

家庭、技術・家庭		小5	小6	中1	中2
好きな理由	① 楽しい	35.5%	31.8%	43.7%	46.6%
	② 分かりやすい	3.2%	2.3%	3.6%	2.7%
	③ 将来のためになる	13.8%	13.5%	9.5%	8.0%
	④ 生活の中で役立つ	30.0%	31.9%	23.6%	21.4%
	⑤ 考えるのが好き	0.6%	0.5%	1.6%	1.0%
	⑥ 得意	9.6%	7.8%	5.6%	5.6%
嫌いな理由	⑦ 楽しくない	1.0%	2.1%	3.0%	3.5%
	⑧ 分かりにくい	0.8%	0.9%	0.9%	1.2%
	⑨ 将来のためにならない	0.2%	0.2%	0.4%	0.4%
	⑩ 生活の中で役立つ	0.1%	0.1%	0.2%	0.2%
	⑪ 考えるのがめんどろ	0.2%	0.3%	0.6%	0.8%
	⑫ 不得意	3.1%	6.1%	4.6%	5.2%
	⑬ その他・不明	1.7%	2.5%	2.8%	3.4%

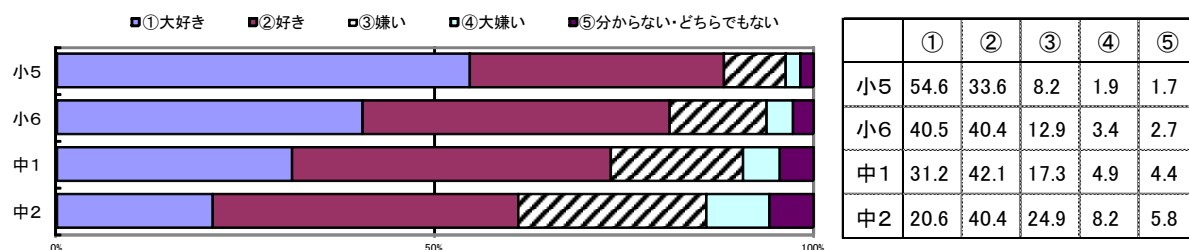
「大好き」「好き」の児童生徒の割合



肯定的な回答の割合は、全ての学年で高い数値を示しており、学年による数値の変動もあまり見られない。小学校第5学年の数値が他の学年に比べて最も高くなっており、学年があがるにつれて、肯定的な回答の割合は低くなる。これはH22から同じ傾向である。

好きな理由として特徴的であるのは、「生活の中で役立つ」、「将来のためになる」と答えている児童生徒が多いことである。日常生活を営む上での必要な知識やスキルを学んでいるという認識が現れている。

英語（小学校外国語活動、中学校外国語）

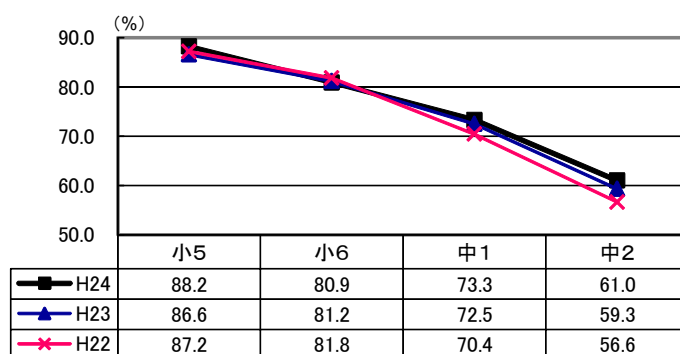


好きな理由・嫌いな理由

%は全児童生徒に対する割合

外国語活動、外国語(英語)		小5	小6	中1	中2
好きな理由	① 楽しい	44.3%	37.9%	24.1%	18.8%
	② 分かりやすい	6.9%	5.9%	8.7%	6.5%
	③ 将来のためになる	19.6%	21.4%	21.9%	20.2%
	④ 生活の中で役立つ	8.0%	8.6%	8.4%	7.9%
	⑤ 考えるのが好き	2.6%	1.6%	2.0%	2.3%
	⑥ 得意	5.5%	4.9%	9.1%	6.7%
嫌いな理由	⑦ 楽しくない	1.8%	3.3%	3.2%	4.5%
	⑧ 分かりにくい	3.2%	5.0%	5.9%	9.6%
	⑨ 将来のためにならない	0.1%	0.2%	0.7%	0.8%
	⑩ 生活の中で役立たない	0.2%	0.3%	0.8%	1.2%
	⑪ 考えるのがめんどろ	0.6%	0.5%	1.1%	1.6%
	⑫ 不得意	3.9%	6.4%	10.7%	16.3%
	⑬ その他・不明	3.5%	3.9%	3.6%	3.6%

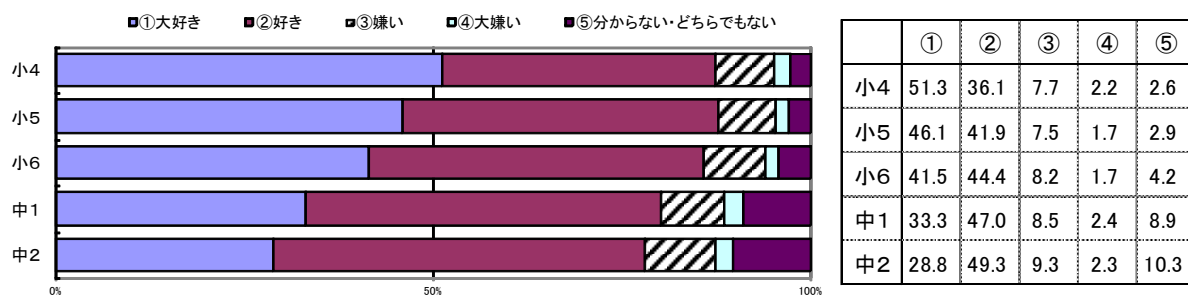
「大好き」「好き」の児童生徒の割合



学年が上がるにつれて、肯定的な回答の割合はどんどん低くなっていくとともに、「不得意」が増加し、「楽しい」が減少する。特に例年、中学校第1学年から中学校第2学年にかけて肯定的な回答が最も減少し、改善の傾向は見られない。

好きな理由として、全ての学年で「将来のためになる」が20%前後と他の理由より高く、外国語を学ぶことの必要性を感じている児童生徒が多いことが分かる。

総合的な学習の時間

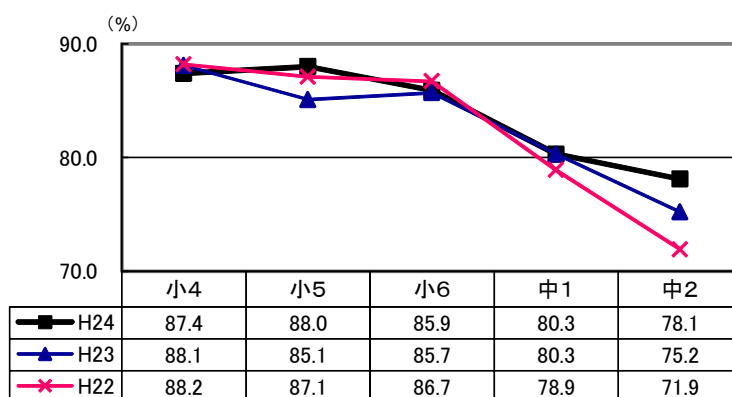


好きな理由・嫌いな理由

%は全児童生徒に対する割合

総合的な学習の時間		小4	小5	小6	中1	中2
好きな理由	① 楽しい	33.7%	37.9%	39.4%	39.3%	41.9%
	② 分かりやすい	8.1%	8.3%	5.4%	3.1%	2.3%
	③ 将来のためになる	11.2%	10.9%	15.1%	17.3%	19.1%
	④ 生活の中で役立つ	15.1%	12.2%	11.6%	11.8%	9.2%
	⑤ 考えるのが好き	10.6%	10.5%	8.1%	6.8%	4.9%
	⑥ 得意	4.9%	3.2%	2.3%	1.3%	0.7%
嫌いな理由	⑦ 楽しくない	2.9%	3.1%	3.5%	4.5%	4.9%
	⑧ 分かりにくい	1.7%	1.6%	1.4%	0.7%	0.6%
	⑨ 将来のためにならない	0.1%	0.2%	0.3%	0.4%	0.5%
	⑩ 生活の中で役立たない	0.2%	0.3%	0.3%	0.6%	0.7%
	⑪ 考えるのがめんどろ	1.5%	1.4%	2.1%	2.7%	2.9%
	⑫ 不得意	2.8%	1.9%	1.9%	1.8%	1.7%
	⑬ その他・不明	7.2%	8.4%	8.8%	9.6%	10.6%

「大好き」「好き」の児童生徒の割合



肯定的な回答の割合は、全ての学年で高い数値を示しており、学年による数値の変動もあまり見られない。小学校第4学年の数値が他の学年に比べて最も高くなっており、学年があがるにつれて、肯定的な回答の割合は低くなる。これはH22から同じ傾向である。

好きな理由は「楽しい」が最も多いが「生活の中で役立つ」、「将来のためになる」などの割合も多く、日常生活に、関連する内容が多く扱われていることがうかがえる。

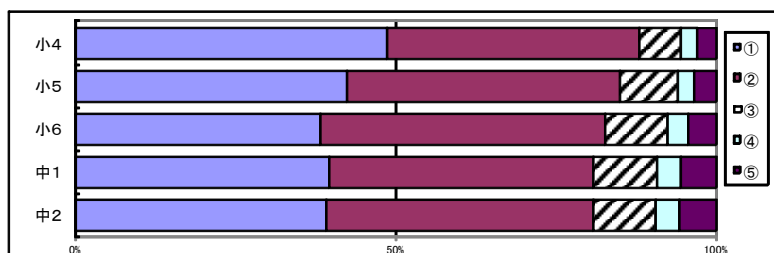
また、本年度は中学校第2学年の肯定的な回答の割合が2.9ポイント増加しており、H22からの比較では最も高い数値となっている。

肯定的な回答の割合は、昨年度と同様、高い数値を示している。過年度と比較して、中学校における増加傾向が見られる。

⑧ 読書について

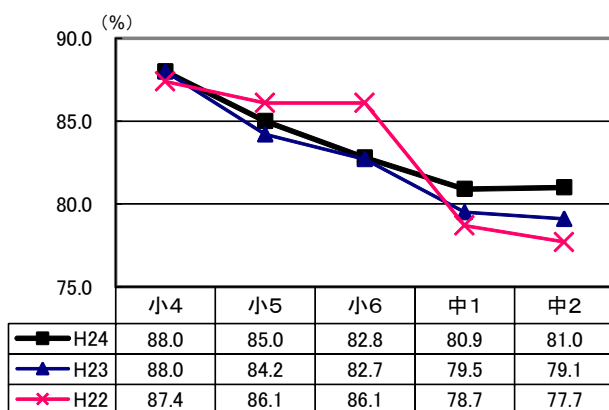
6-1 読書は好きだ

①つよくそう思う ②そう思う ③そう思わない ④まったくそう思わない ⑤分からない・どちらでもない



	①	②	③	④	⑤
小4	48.7	39.3	6.5	2.5	3.0
小5	42.4	42.6	9.0	2.7	3.3
小6	38.2	44.6	9.6	3.4	4.2
中1	39.6	41.3	9.9	3.7	5.4
中2	39.2	41.8	9.7	3.6	5.7

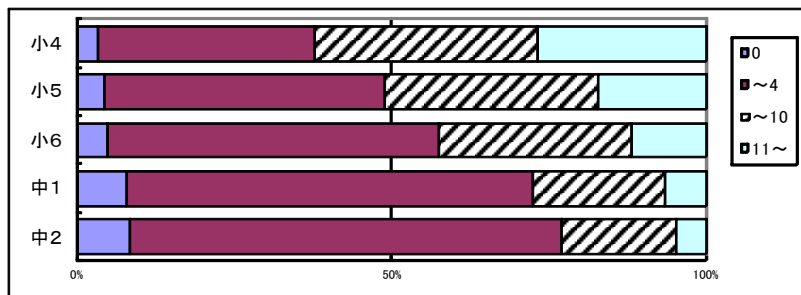
「つよくそう思う」「そう思う」の割合



全ての学年で80%以上の児童生徒が肯定的な回答をしており、本県児童生徒の「読書好き」がうかがわれる。

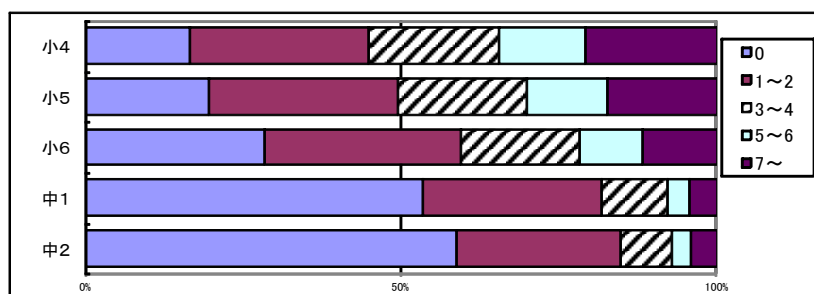
1か月に読む本の冊数について、全ての学年で90%以上の児童生徒が1冊以上の本を読んでいる。特に、小学校では児童の40%以上が1か月に5冊以上の本を読んでおり、読書習慣の定着がうかがえる。図書館の利用回数は学年進捗とともに減る傾向があり、特に中学生になると半数以上が月に1度も図書館を利用していない。

6-2 1か月に何冊くらい本を読みますか（教科書・学習参考書・マンガ・雑誌や付録は入りません）



冊／月	0	~4	~10	11~
小4	3.3	34.5	35.4	26.7
小5	4.4	44.6	33.9	17.0
小6	5.0	52.6	30.7	11.7
中1	8.0	64.4	21.0	6.5
中2	8.6	68.5	18.3	4.7

6-3 1か月に何回くらい図書館を利用しますか



回／月	0	1~2	3~4	5~6	7~
小4	16.5	28.2	20.5	13.7	20.5
小5	19.6	29.9	20.4	12.7	17.1
小6	28.5	31.1	18.8	9.8	11.6
中1	53.6	28.2	10.6	3.4	4.1
中2	58.9	26.0	8.2	3.0	3.8

4 結 果 と 考 察

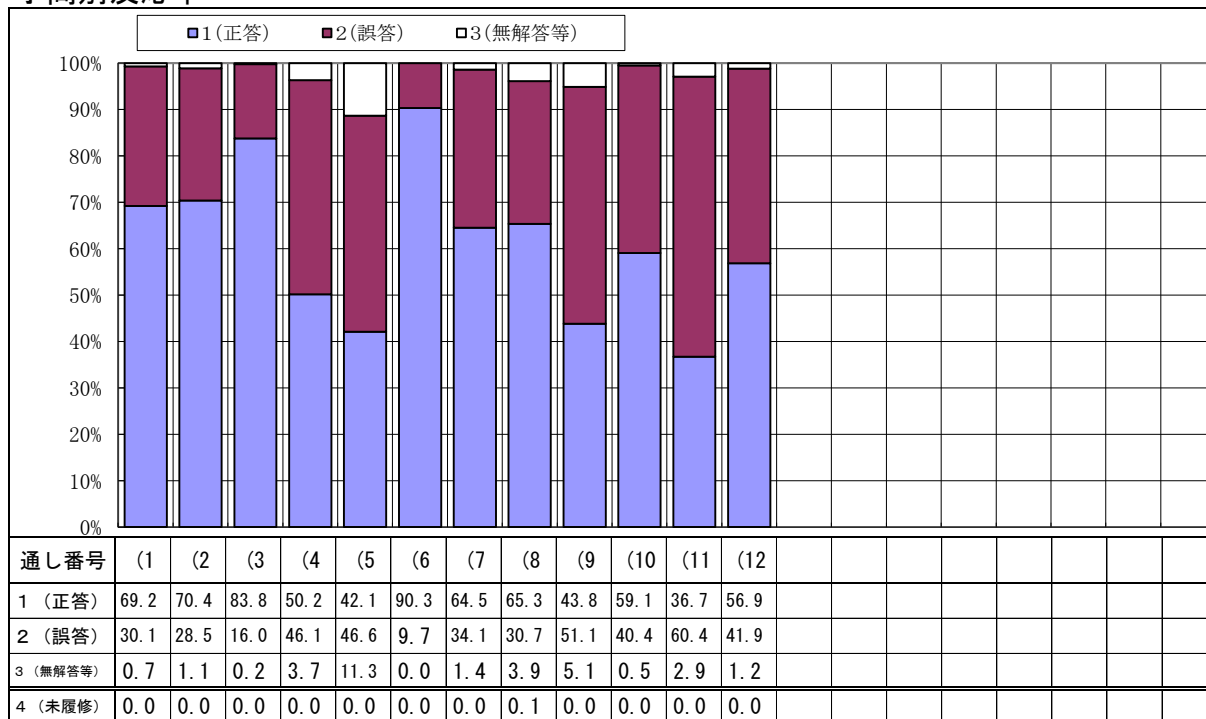
平成24年度小学校学習状況調査 第4学年 国語 評価規準と評価の観点

学 年	領 域	内 容	評 価 規 準	通 し 番 号	観 点		
					書 く 能 力	読 む 能 力	知 識 ・ 理 解 ・ 技 能
小 学 校	書 く こ と	イ(3・4年)	・自分の考えが明確になるように、文章構成に注意して書いている。	12)	○		
		ウ(3・4年)	・目的や必要に応じて、書こうとすることの中心を明確にし、理由や事例を挙げて書いている。		○		
	読 む こ と	エ(3・4年)	・目的や必要に応じて、文章の要点や大事な語句に注意して読んでいる。	7)		○	
		ウ(3・4年)	・叙述を基に、登場人物の性格や気持ちを想像しながら読んでいる。	8)		○	
				9)		○	
		ウ(3・4年)	・登場人物の行動や会話に即しながら、性格や気持ちを捉えて読んでいる。	10)		○	
		エ(3・4年)	・考えや感想をまとめるために、文章の細かい点に注意して要約している。	11)		○	
	第 4 学 年	(1)ウ(イ) (3・4年)	・第4学年までに配当されている漢字について、文や文章の中で正しく読んでいる。	1)			○
				2)			○
				3)			○
			・第3学年までに配当されている漢字について、文や文章の中で正しく書いている。	4)			○
				5)			○
		(1)イ(キ) (3・4年)	・修飾と被修飾との関係について正しく理解している。	6)			○

通し 番号	出 題 内 容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0%50%100%
(1)	漢字の読み (かた)	69.2%	75.0%	
(2)	漢字の読み (お)	70.4%	75.0%	
(3)	漢字の読み (選択肢一ぶさほう)	83.8%	85.0%	
(4)	漢字の書き (整列)	50.2%	75.0%	
(5)	漢字の書き (反らす)	42.1%	75.0%	
(6)	修飾・被修飾 (選択肢)	90.3%	80.0%	
(7)	内容理解 (抜き出し)	64.5%	70.0%	
(8)	内容理解 (抜き出し)	65.3%	70.0%	
(9)	内容理解 (抜き出し)	43.8%	65.0%	
(1 0)	内容理解 (選択肢)	59.1%	65.0%	
(1 1)	内容理解 (抜き出し)	36.7%	60.0%	
(1 2)	データを基に提案の文を書く	56.9%	70.0%	

小学校 4年 国語科

小問別反応率



小問別通過率度数分布表 (236校)

は全県平均通過率

通し番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	平均 通過率
100%	26	8	26	5	7	53	17	14	2	5	3	9	
90～100%	12	17	44	7	10	99	8	12	2	3		10	2
80～90%	39	42	109	13	10	65	22	24	5	17	3	19	10
70～80%	50	58	37	25	12	15	45	51	14	24	7	33	42
60～70%	57	46	9	19	24	4	58	58	20	68	14	42	70
50～60%	27	30	10	37	29		52	51	44	64	20	50	91
40～50%	15	18	1	41	33		19	16	57	35	40	35	21
30～40%	4	8		41	26		10	4	54	13	73	21	
20～30%	5	6		31	41		3	4	28	7	53	9	
10～20%	1	2		13	26		1	1	6		16	5	
0～10%		1		4	18		1	1	4		7	3	

小学校4年 国語 調査結果の考察

(1) 設定通過率との比較

※表中の数値は設問数

分類 設定通過率の	観 点 別			計
	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	
+10% より高い	0	0	1	1
±10% の範囲内	0	3	3	6
-10% より低い	1	2	2	5
計	1	5	6	12

(2) 考察

① 全体について

ア 設定通過率の「±10%の範囲内」または「+10%より高い」ところにあるのが、12問中7問であり、基礎・基本となる指導事項の定着を一層図ることが必要である。

イ 観点別では、「書くこと」に課題が見られる。

② 成果

ア 本県の課題である「修飾・被修飾の関係の理解」について、定着が図られている。

イ 「言語事項」では、漢字の読みがおおむね良好である。

③ 課題

ア 「言語事項」では、日常生活の中で用いている言葉を漢字で書くことに課題がある。

イ 「読むこと」では、人物像や情景を捉えるために表現の細かい点に注意して読む力を伸ばしていく必要がある。

ウ 「書くこと」では、目的や相手に応じて、資料の事例を挙げながら自分の考えを書く力を付けていく必要がある。

(3) 今後の指導

ア 「読むこと」では、条件に応じてまとめるなどの言語活動を設定し、場面と場面を関係付けながら登場人物同士の関係や役割を捉える指導の充実を図る。

- ・場面と場面とを比べたり関係付けたりして、登場人物同士の関係や場面の様子の変化に着目して読む楽しさを味わわせ、読書活動につなげる。
- ・読み取ったことをどんな型でどう表現するのか、提示されている例文等を基に条件を確認する活動を取り入れ、効果的に表現する意識を高める。
- ・要約する目的を明確にし、分量、文章の構成、表現の生かし方などを考え、要点や細かい点に注意しながら要約する経験を積み重ねていく。

イ 「書くこと」では、収集した資料等を使って説明する文章を書くなどの言語活動を設定し、相手や目的を意識しながら、自分の考えを理由や事例を挙げて書く力を付ける指導の充実を図る。

- ・具体的な生活の中で必要となる報告、説明、案内などの題材を取り上げ、児童が課題意識をもって取り組めるように工夫する。
- ・累加や並列などの接続関係、結論とその根拠といった配列関係など段落相互の関係を、実際の文章構成に即して取り上げて指導する。

場面B
…友江のために風を作る父について、友江が思ったことを中心に話している。

場面A
…友江が母から聞いたことを中心に話している。

11) ポスターの④には、場面をくくっために、次のように場面Aと場面Bを短くまとめた文を書きます。□に当てはまる言葉を書きなさい。

12) 三月の四年二組のお楽しみ会で、地いきのおじいさんやおばあさんといっしょに歌う曲を選び、クラスに提案することになりました。あなたなら、どの曲をどんな理由で提案しますか。次のアンケートの結果をもとに、あとの〈注意〉にしたがって書きなさい。

平成24年度小学校学習状況調査 第5学年 国語 評価規準と評価の観点

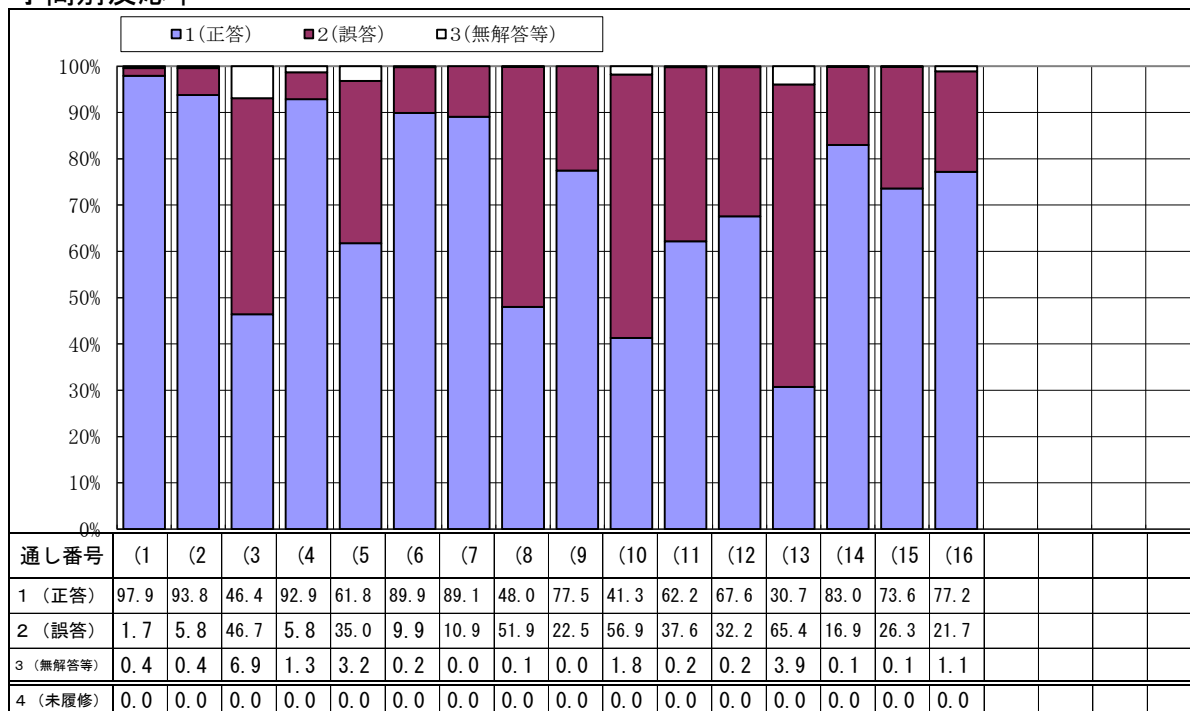
学 年	領 域	内 容	評 価 規 準	通 し 番 号	観 点			
					話 す 能 力 聞 く 能 力	書 く 能 力	読 む 能 力	言語 に 理 解 い て 技 の 能
小 学 校 第 5 学 年	聞話 くす ことと	エ(5・6年)	・話し手の意図をとらえながら、反応を示したり、内容を深めたりして聞いている。	14)	○			
		イ(5・6年)	・事柄が明確に伝わるように、話の構成を工夫している。	15)	○			
	こ書 とく	ウ(5・6年)	・表から読み取った事実と自分の感想・意見を区別して詳しく書いている。	16)		○		
	読 む こ と	イ(3・4年)	・中心となる語や文をとらえて読んでいる。	10)			○	
		イ(3・4年)	・段落の内容を押さえ、段落相互の関係を考えて読んでいる。	12)			○	
		ウ(5・6年)	・事実と意見との関係などについて筆者の表現の意図や思考を想定しながら文章全体の構成を把握している。	11)			○	
		ウ(5・6年)	・文章の内容を的確に押さえて要旨をまとめている。	13)			○	
	伝 統 的 な 言 語 文 化 と 国 語 の 特 質 に 関 す る 事 項	(1)ウ(ア) (5・6年)	・第5学年までに配当されている漢字を、文や文章の中で正しく読んでいる。	1) 2)				○
			・第4学年までに配当されている漢字を、文や文章の中で正しく書いている。	3) 4)				○
		(1)イ(エ) (5・6年)	・和語、漢語、外来語について関心をもって区別している。	5)				○
		(1)イ(カ) (3・4年)	・漢和辞典を利用して漢字を調べる方法を理解している。 ※旧学習指導要領では、3・4年の言語事項の(1)エ(イ)	6)				○
		(1)ア(ア) (5・6年)	・親しみやすい古文について内容の大体を知っている。	7)				○
		(1)イ(キ) (3・4年)	・文の中での修飾と被修飾との関係について理解している。 ※旧学習指導要領では、3・4年の言語事項の(1)オ(ア)	8)				○
		(2)ウ (5・6年)	・毛筆の穂先の動きと点画のつながりを意識して書いている。	9)				○

通し 番号	出 題 内 容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0% 50% 100%
(1)	漢字の読み (率いるーひきいる)	97.9%	80.0%	
(2)	漢字の読み (所属ーしょぞく)	93.8%	80.0%	
(3)	漢字の書き (家屋)	46.4%	70.0%	
(4)	漢字の書き (連れて)	92.9%	70.0%	
(5)	和語・漢語・外来語	61.8%	70.0%	
(6)	漢字辞典の使い方 (選択肢)	89.9%	60.0%	
(7)	古文の暗唱	89.1%	70.0%	
(8)	修飾・被修飾との関係	48.0%	80.0%	
(9)	毛筆の穂先の動き	77.5%	75.0%	
(1 0)	中心となる語	41.3%	60.0%	
(1 1)	書き手の意図 (選択)	62.2%	70.0%	
(1 2)	文の構成 (選択)	67.6%	75.0%	
(1 3)	文章の要旨 (記述)	30.7%	60.0%	
(1 4)	話し手の意図	83.0%	75.0%	
(1 5)	話の構成	73.6%	75.0%	
(1 6)	事実と意見	77.2%	70.0%	

※|——| は設定通過率±10%を示している。

小学校 5年 国語科

小問別反応率



小問別通過率度数分布表 (236校)

は全県平均通過率

通し番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	平均 通過率
100%	149	66	6	88	10	53	76	4	16	4	8	6	2	22	11	25	
90～100%	79	121	13	96	6	84	73	2	25	1	6	4	1	43	11	37	
80～90%	7	41	10	39	24	78	46	11	74	7	13	24	5	94	50	57	27
70～80%	1	5	16	9	36	13	28	16	67	23	41	65	9	57	84	44	116
60～70%		3	31	4	49	6	10	31	39	35	76	81	11	15	58	36	84
50～60%			34		63	2	3	45	10	45	59	43	16	4	17	20	9
40～50%			30		34			60	2	26	22	10	11	1	5	8	
30～40%			35		11			45		24	9	2	42			6	
20～30%			32		2			15	2	32	2	1	77			2	
10～20%			17					4	1	27			46			1	
0～10%			12		1			3		12			16				

小学校5年 国語 調査結果の考察

(1) 設定通過率との比較

※表中の数値は設問数

分類 設定通過率の	観 点 別				計
	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	
+10% より高い	0	0	0	5	5
±10% の範囲内	2	1	2	2	7
-10% より低い	0	0	2	2	4
計	2	1	4	9	16

(2) 考察

① 全体について

- ア 「話すこと・聞くこと」「書くこと」についての学習状況はおおむね良好である。
- イ 「言語事項」については前年度の課題であった「漢字辞典の使い方」「毛筆の穂先の動き」について指導の成果が見られる。

② 成果

- ア 「言語事項」では、漢字の読み、漢字辞典の使い方、毛筆の穂先の動きについてはおおむね良好である。
- イ 「話すこと・聞くこと」では、話し手の意図を捉えることが、おおむね良好である。

③ 課題

- ア 「読むこと」では、内容を的確に押さえ、指定された条件に合わせてまとめる力を向上させる必要がある。
- イ 「言語事項」では、修飾と被修飾の関係についての理解が十分ではない。

(3) 今後の指導

- ア 「読むこと」では、文章の重要な点を表現に即して的確に押さえ、求められている条件に合わせてまとめる力を高めたい。
 - ・内容を的確に押さえるために、文章に書かれている話題、理由や根拠となっている内容、構成の仕方や叙述などについて注意して読むことを指導する。
 - ・文章で取り上げられている内容の中心や書き手の考えの中心となる事柄を捉えた上で、重要な文や語句を見付ける学習を繰り返し指導する。
 - ・単に書き抜くだけでなく、求められている文字数や表現の仕方などの条件に合わせてまとめられるように、重要な文や語句から適切な言葉を選んで用いたり、書き換えたりする学習を取り入れる。

13) この文章を次のように要約しました。にふさわしい内容を、本文中の言葉を使ってあとの解答らん二十字以内で書きなさい。

映像はわたしたちのくらしを豊かに広げてくれたが、よく考えずに映像に接していると、本当の映像の意味を味わえないことがあるので、わたしたちは映像の特色を知り

- イ 「言語事項」では、修飾と被修飾の関係など、文の構成についての指導を充実させたい。

- ・伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項、中学年の(1)イ(き)「修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な理解をもつこと。」と、高学年の(1)イ(き)「文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。」との系統性を踏まえて、文の中での語句の係り方や照応の仕方に気付くことについて、各領域の学習の適切な場面を捉えて効果的に指導する。
- ・修飾と被修飾の関係だけでなく、主語と述語の関係など文の構成と合わせて指導する。
- ・「書くこと」(1)の「イ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。」と関連付けて指導することも効果的である。

8) 次の文の「窓から」は、どの言葉にくわしくしていますか。ア、エから一つ選び、に記号書きなさい。

わたしのほほをなでた。窓から入る涼しい風が、

小4との共通問題

平成24年度小学校学習状況調査 第6学年 国語 評価規準と評価の観点

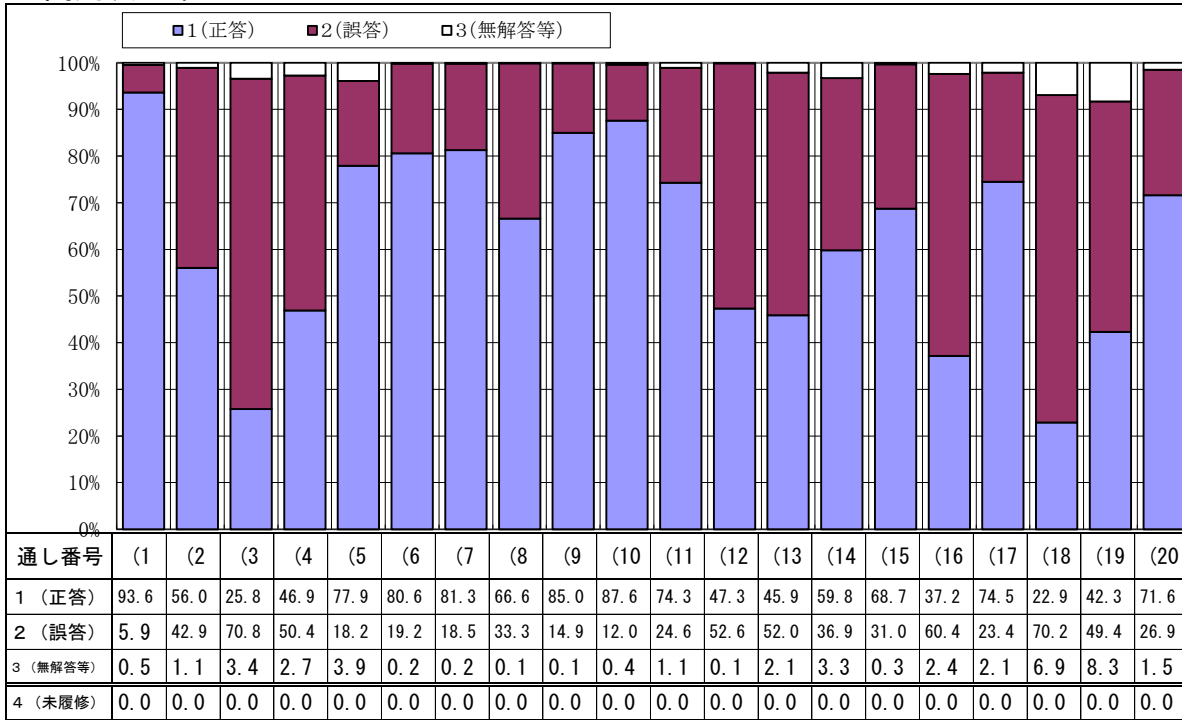
学 年	領 域	内 容	評 価 規 準	通 し 番 号	観 点			
					話 す 能 力 聞 く 能 力	書 く 能 力	読 む 能 力	知 識 ・ 理 解 の 技 能
小 学 校 第 6 学 年	聞話 くす ことと	オ (5・6年)	・お互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合っている。	12)	○			
	書 く こ と	ア (5・6年)	・考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理している。	20)		○		
		イ (5・6年)	・自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えている。			○		
		ウ (5・6年)	・事実と感想、意見などとを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしている。			○		
	読 む こ と	エ (5・6年)	・登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえている。 ・優れた叙述について自分の考えをまとめている。	13)			○	
				14)			○	
				15)			○	
				19)			○	
				16)			○	
				17)			○	
				18)			○	
	国伝 語統 の的 特 質 言 に語 関文 す化 ると 事 項	(1) ウ (ア) (5・6年)	・第6学年までに配当されている漢字を文や文章の中で正しく読んでいる。	1)				○
		(1) ウ (ア) (5・6年)	・第5学年までに配当されている漢字を文や文章の中で正しく書いている。	2)				○
		(1) イ (ウ) (5・6年)	・送り仮名に注意して漢字を正しく書いている。	3)				○
		(1) イ (ウ) (5・6年)	・送り仮名に注意して漢字を正しく書いている。	4)				○
		(1) イ (カ) (5・6年)	・文脈に即して和語を適切な漢語に書き換える。	5)				○
		(1) イ (カ) (5・6年)	・文脈に即して和語を適切な漢語に書き換える。	9)				○
		(1) イ (エ) (5・6年)	・語句の構成、変化などについての理解を深めている。	8)				○
		(1) イ (カ) (5・6年)	・語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもっている。	7)				○
		(1) イ (キ) (5・6年)	・文や文章にはいろいろな構成があることについて理解している。	6)				○
		(1) イ (ク) (5・6年)	・日常よく使われている敬語の使い方に慣れている。	10)				○
				11)				○

通し 番号	出 題 内 容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0% 50% 100%
(1)	漢字の読み（直ちーただち）	93.6%	80.0%	
(2)	漢字の読み（風上一かざかみ）	56.0%	80.0%	
(3)	漢字の書き（細心）	25.8%	65.0%	
(4)	漢字の書き（試みる）	46.9%	75.0%	
(5)	漢字の書き・正しい送り仮名（営む）	77.9%	70.0%	
(6)	文の構成（記述）	80.6%	70.0%	
(7)	慣用的な表現（選択肢）	81.3%	75.0%	
(8)	三字熟語（選択肢）	66.6%	70.0%	
(9)	適切な漢語の選択	85.0%	80.0%	
(1 0)	敬語（記述・短答式）	87.6%	70.0%	
(1 1)	敬語（記述・短答式）	74.3%	70.0%	
(1 2)	計画的な話し合い（記述）	47.3%	70.0%	
(1 3)	内容の理解（記述・短答式）	45.9%	70.0%	
(1 4)	内容の理解（記述）	59.8%	65.0%	
(1 5)	内容の理解（選択肢）	68.7%	75.0%	
(1 6)	内容の理解（記述・短答式）	37.2%	65.0%	
(1 7)	内容の理解（抜き出し）	74.5%	60.0%	
(1 8)	内容の理解（抜き出し）	22.9%	65.0%	
(1 9)	内容の理解（記述）	42.3%	60.0%	
(2 0)	作文（意見）	71.6%	70.0%	

※ ―― は設定通過率±10%を示している。

小学校 6年 国語科

小問別反応率



小問別通過率度数分布表 (236校)

は全県平均通過率

通し番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	平均 通過率
100%	72	6	3	6	29	28	16	7	24	45	19	3	5	8	10	4	12		1	22	
90～100%	107	12	5	12	34	40	26		53	76	17		4	6	4	3	13		2	30	
80～90%	45	18	10	17	71	71	107	29	104	86	66	3	7	19	29	7	68	1	9	40	9
70～80%	10	24	6	20	47	59	60	63	41	22	70	7	17	39	63	10	68	4	11	50	39
60～70%	1	30	5	16	27	22	24	77	10	4	35	21	29	44	83	21	46	6	23	34	95
50～60%	1	64	10	30	23	10	3	38	3	2	21	67	43	59	34	25	24	12	35	40	87
40～50%		45	10	30	2			12	1		7	84	32	34	9	37	4	7	46	13	6
30～40%		30	19	47	3	4		8			1	31	51	17	2	44	1	33	53	6	
20～30%		4	42	31		2		2		1		19	33	5	2	37		70	39	1	
10～20%		2	56	17								1	11	5		32		75	10		
0～10%		1	70	10									4			16		28	7		

小学校6年 国語 調査結果の考察

(1) 設定通過率との比較

※表中の数値は設問数

分類 設定通過率の	観 点 別				計
	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の 特質に関する事項	
+10% より高い	0	0	1	3	4
±10% の範囲内	0	1	2	5	8
-10% より低い	1	0	4	3	8
計	1	1	7	11	20

(2) 考察

① 全体について

ア 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、問題によって正答率にばらつきが見られた。

イ 「話すこと・聞くこと」と「読むこと」に課題が見られる。

② 成果

ア 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、文の構成理解及び敬語による適切な表現について、指導の成果が見られた。

イ 「読むこと」では、描写を手がかりにして場面の様子を想像することについて、指導の成果が表れつつある。

③ 課題

ア 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、文脈に即して同音異字の漢字を書く力や、日常的に用いられている漢字を読む力が十分に身に付いていない。

イ 「話すこと・聞くこと」では、話合いを円滑に進めるための司会の役割についての理解が不十分である。

ウ 「読むこと」では、登場人物が置かれた状況や立場を多面的に理解する力や、比喻表現が意味する内容を適切に解釈する力を付ける必要がある。

(3) 今後の指導

ア 「読むこと」の文学的文章の指導においては、各場面における優れた叙述に着目して読む学習の他に、物語全体を読み通して文章の内容や構成の効果を捉え、自分の考えをまとめる学習内容を工夫したい。

- ・直接的に描写されない人物の心情や状況を多様に想像し、妥当な解釈を導くために話し合う場を設定する。
- ・優れた描写の効果について説明する必要があるような、単元を貫く言語活動を設定する。

16) 「約束したように」という走の走りについてどのようか。次の文の□に適切な言葉を考えて書きなさい。

13) 思いもつかない行動とありますが、洋次たちは、この時と赤ちゃんがどうすると思っていたのか想像して、十五字以内で□の中書きなさい。

イ 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の指導では、他の3領域と関連付けて指導し、活用することを通して知識・理解の定着を図りたい。

- ・同音異義の熟語の書きについては、文脈に応じて書き分ける場面を設け、適切に用いることを意識させる。

ウ 「話すこと・聞くこと」の指導では、話し手の立場や意図を適宜明確にし、計画的に話し合う技能の向上を図りたい。

- ・話の要点をまとめ、互いの立場の相違を明確に捉えたり、話合いの方向性について提案したりすることを意識した話合いの場面を設ける。

12) 木村さんが所属する図書委員会で、「学校みんなにもっと学校図書館を活用してもらうために工夫したいこと」という議題で話し合いをしました。次は、話し合いの様子の一部です。これを読んで司会者の進め方のよいところとして最もふさわしい答えをア、イ、エの中から一つ選んで記号を書きなさい。

3) 次の①、②の□——部を漢字に直して、□の中に書きなさい。
① さいしんの注意をはらう。

平成24年度中学校学習状況調査 第1学年 国語 評価規準と評価の観点

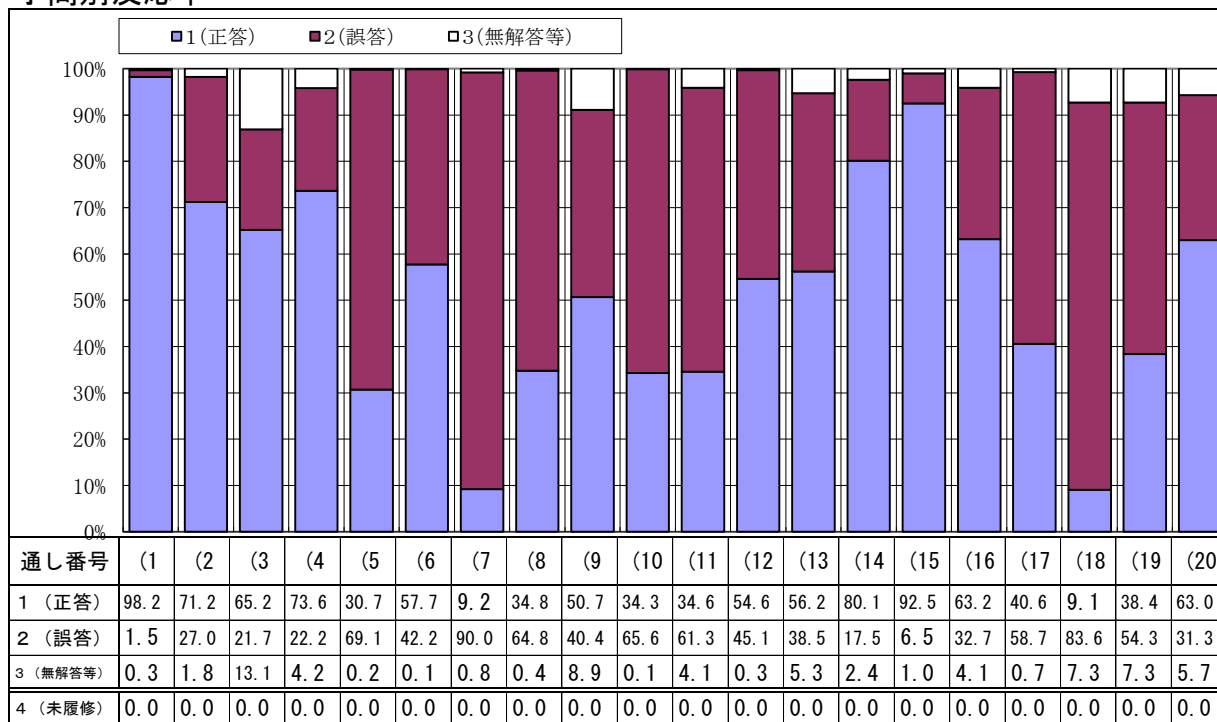
学 年	領 域	内 容	評 価 規 準	通 し 番 号	観 点			
					聞 話 く す こ こ と と	書 く 能 力	読 む 能 力	知 言 語 ・ に 理 解 い て 技 の 能
中 学 校 第 1 学 年	聞 話 く す こ こ と と	(1) オ(中1)	・話合い方向を捉えて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして自分の考えをまとめることができる。	12)	○			
		(1) オ(小5・6)	・互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話合いを進めることができる。	13)	○			
	こ 書 と く	(1) ウ(中1)	・伝えたい事柄について、根拠を明確にして自分の考えを書いている。	20)		○		
	読 む こ と	(1) ア(中1)	・文脈の中における語句の意味を正確にとらえ理解している。	14)			○	
		(1) ウ(小5・6)	・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえることができる。	15)			○	
		(1) イ(中1)	・文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見を読み分け、目的に応じて要約することができる。	16)			○	
		(1) エ(中1)	・文章の構成や展開、表現の特徴をとらえ、その工夫や効果について自分の考えをもつことができる。	17)			○	
		(1) カ(中1)	・目的に応じて必要な情報を読み取ることができる。	18)			○	
		(1) オ(中1)	・文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分の考えを広げることができる。	19)			○	
	国 語 統 的 特 質 に 語 関 文 化 と 事 項	(1) ウ(ア)(小5・6)	・学年別配当表に示されている漢字を正しく読んでいる。	1) 2)				○ ○
		(1) ウ(イ)(中1)	・学年別配当表に示されている漢字を正しく書いている。	3) 4)				○ ○
		(1) ウ(イ)(中1)	・学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を文や文章の中で使うことができる。	5)				○
		(1) ウ(イ)(小5・6)	・漢字の由来、特質などについて理解している。	6)				○
		(1) イ(エ)(中1)	・文節や単語の見分け方について理解している。	7)				○
		(1) イ(ウ)(中1)	・四字熟語の意味を理解している。	8)				○
		(1) ア(ア)(中1)	・歴史的仮名遣いを理解している。	9)				○
		(2) イ(中1)	・漢字の行書の基礎的な書き方を理解している。	10)				○
		(1) イ(ク)(小5・6)	・日常よく使われる敬語の使い方を理解している。	11)				○

通し 番号	出 題 内 容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0% 50% 100%
(1)	漢字の読み（源流－げんりゅう）	98.2%	85.0%	
(2)	漢字の読み（奮う－ふるう）	71.2%	80.0%	
(3)	漢字の書き（疑う）	65.2%	75.0%	
(4)	漢字の書き（発展）	73.6%	80.0%	
(5)	同音の漢字・陰（選択肢）	30.7%	70.0%	
(6)	漢字の意味・供（選択肢）	57.7%	65.0%	
(7)	文節・単語の見分け方（短答・完全解答）	9.2%	75.0%	
(8)	四字熟語の意味（選択肢）	34.8%	75.0%	
(9)	歴史的仮名遣いの読み（短答）	50.7%	75.0%	
(1 0)	書写（行書の書き方）	34.3%	65.0%	
(1 1)	敬語の使い方（記述）	34.6%	75.0%	
(1 2)	話題や方向を捉えて話す（選択肢）	54.6%	80.0%	
(1 3)	計画的に話し合いを進める（記述）	56.2%	65.0%	
(1 4)	語句の意味の理解（短答）	80.1%	70.0%	
(1 5)	文章の内容の理解（抜き出し）	92.5%	70.0%	
(1 6)	文章の要約（記述）	63.2%	65.0%	
(1 7)	表現の効果（選択肢）	40.6%	65.0%	
(1 8)	必要な情報の読み取り（短答）	9.1%	60.0%	
(1 9)	筆者の意図の理解（記述）	38.4%	60.0%	
(2 0)	根拠を明確にして考えを書く（作文）	63.0%	70.0%	

※ ―― は設定通過率±10%を示している。

中学校 1 年 国語科

小問別反応率



小問別通過率度数分布表 (125校)

は全県平均通過率

通し番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	平均 通過率
100%	56	1	3	2		1			1	1		1	1	3	15	1				3	
90～100%	69	7	2	12					3	1			3	13	82	2		1	2	9	
80～90%		27	9	29					5	1	1		10	54	22	6			2	25	
70～80%		37	26	35		11		2	12	2	1	6	13	43	3	29		1	5	17	2
60～70%		28	45	24	1	37	1	6	21	3	5	21	25	7	1	42	2	1	11	27	11
50～60%		20	27	13	12	53	2	4	24	12	8	66	28	4		26	15	2	15	11	74
40～50%		2	10	6	12	21	5	23	27	16	27	28	23		1	14	44		20	16	37
30～40%		2	2	1	44	1	3	40	17	31	39	3	11	1		3	48	2	26	6	1
20～30%			1	2	36		5	33	11	39	30		5				11	2	22	7	
10～20%					18	1	12	13	4	18	11		5				3	27	17	3	
0～10%		1		1	2		97	4		1	3		1		1	2	2	89	5	1	

中学校1年 国語 調査結果の考察

(1) 設定通過率との比較

※表中の数値は設問数

分類 設定通過率の	観 点 別				計
	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	
＋10% より高い	0	0	2	1	3
±10% の範囲内	1	1	1	4	7
－10% より低い	1	0	3	6	10
計	2	1	6	11	20

(2) 考察

① 全体について

- ア 設定通過率の「±10%の範囲内」または「＋10%より高い」ところにあるのが、20問中10問であり、基礎・基本となる指導事項の定着を一層図ることが必要である。
- イ 「読むこと」と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、問題によって正答率にばらつきが見られた。特に、新しい傾向の問題では正答率が低かった。

② 成果

- ア 「読むこと」では、キーワードの抽出や文脈に即した語句の意味の理解が良好である。また、文章から適切な部分を見付け、条件に合わせて要約する問題では指導の成果が見られる。
- イ 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、漢字の読み書きがおおむね良好である。

③ 課題

- ア 「読むこと」では、文章の構成や展開の仕方を捉えることや、その工夫や効果について考えることが十分とはいえない。
- イ 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、正確な知識の獲得が課題である。特に敬語の使い方、文節と単語の見分け方、歴史的仮名遣いについては、確実に身に付けさせる必要がある。

(3) 今後の指導

- ア 「読むこと」の説明的文章の指導においては、文章全体の構成や展開の仕方を捉えさせるとともに、目的に応じて必要な内容を読み取る指導を充実させたい。
- 文章を読んで、目的に応じて必要な情報を抽出し、条件に合わせてまとめる学習活動を取り入れる。その際、主体的な学習が可能になるよう、適切な言語活動を位置付ける。
 - 文章の構成や展開の仕方に着目し、その工夫や効果について話し合い、自分の考えをまとめる学習活動を設定する。
- イ 「言葉の特徴やきまりに関する事項」の指導では、単に知識の理解のみにとどまらず、他の3領域の内容と関連させた指導や実生活での場面を想定した指導を心がけたい。
- 敬語の指導においては、日常生活で敬語を使用する場面を設定し、相手や場面に応じてどんな敬語を用いるべきか考えさせるなど、敬語の役割や必要性を実感できるように指導方法を工夫する。
 - 文法の指導では、自校の指導計画で定めた時間のほか、折に触れて復習する機会を意図的に設定したり、家庭学習と関連させたりするなどして、定着を図るようにする。

16)

「B」に当てはまる内容を、本文中の語句を用いて、**二十字以内**で書きなさい。

段落Ⅱ「B」
段落Ⅲ「B」
なり、しかも上空を吹く風が強くなるから。

11)

次は、中学生のマサミさんの家にお父さんの会社の人が電話がかかってきたとき、敬語の使い方、例にならなくて正しく直しなさい。

平成24年度中学校学習状況調査 第2学年 国語 評価規準と評価の観点

学 年	学 校 第 2 年	領 域	内 容	評 価 規 準	通 し 番 号	観 点			
						話 す 能 力 聞 く 能 力	書 く 能 力	読 む 能 力	知 言 語 ・ に 理 解 い て 技 の 能
中 学 校 第 2 年	聞 話 く す こ こ と	ア（旧中1）	・話し手の意図を考えながら、話の内容を正確に聞き取っている。	1)	○				
				2)	○				
		オ（現中2）	・目的に沿って話し合い、互いの発言を検討している。	3)	○				
	書 く こ と	イ（旧中1）	・伝えたい事実や事柄、課題や自分の考えや気持ちを明確にして書いている。	20)		○			
	読 む こ と	ア（旧中1）	・歴史的仮名遣いを理解し、正しく読んでいる。 ・古文の文脈における語句の意味を正確にとらえ、内容を理解している。	13)			○		
				14)			○		
		イ（現中2）	・描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てている。	16)			○		
				17)			○		
				18)			○		
				19)			○		
		エ（旧中1）	・文章の内容を的確にとらえ、主題を考えている。	15)			○		
学 年	国 語 統 的 特 な 質 言 に 語 関 文 化 事 項	(2)ア（旧中1）	・学年別配当表に示されている漢字及び常用漢字のうち250字から300字までの漢字を正しく読んでいる。	4)				○	
				5)				○	
		(2)イ（旧中1）	・学年別配当表に示されている漢字のうち900字程度について、正しく書いている。 ・文脈に沿って表意文字としての漢字を適切に使っている。	6)				○	
				7)				○	
				9)				○	
		(1)イ（現中2）	・類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解している。	8)				○	
		(1)カ（旧中1）	・文節の文中における成分について正しく理解している。	12)				○	
学 年	国 語 統 的 特 な 質 言 に 語 関 文 化 事 項	(1)ク（現中2）	・日常よく使われている敬語の使い方に慣れている。	11)				○	
				10)				○	

中学校2年 国語科 小問別通過率と設定通過率

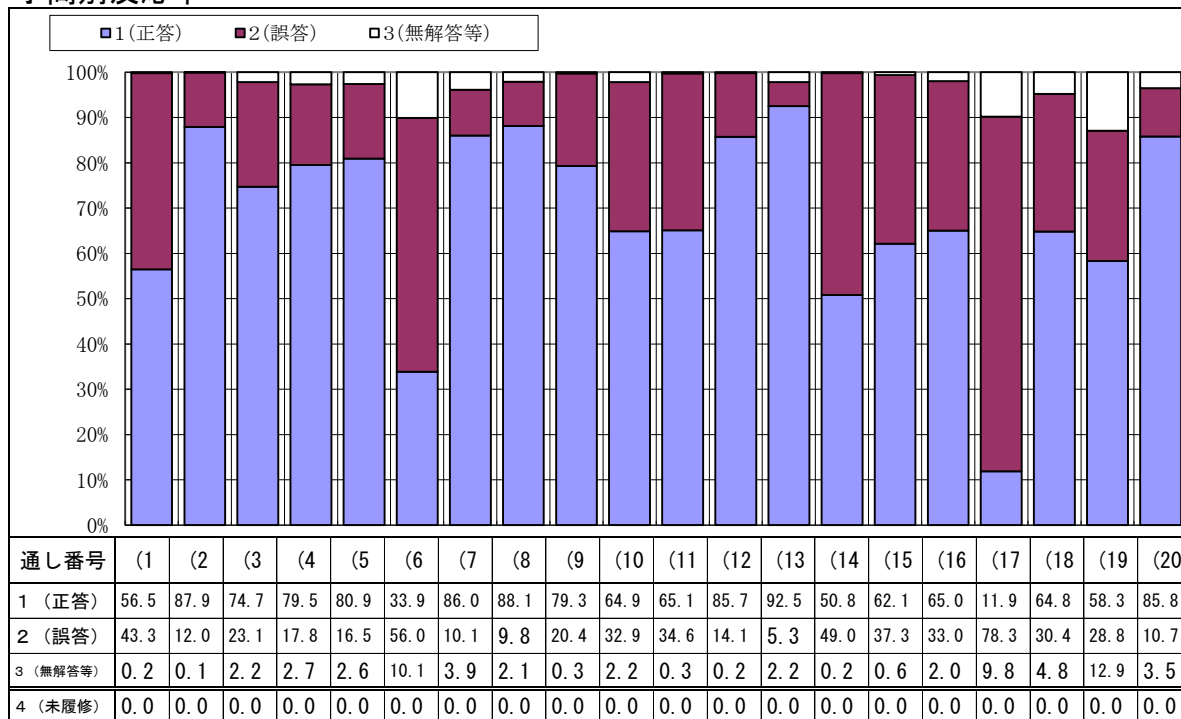
平均通過率 68.7%

通し 番号	出題内容	通過率 (%)	設定 通過率 (%)	0% 50% 100%
(1)	聞き取り（正確な聞き取り）	56.5%	65.0%	
(2)	聞き取り（正確な聞き取り）	87.9%	85.0%	
(3)	聞き取り（話の展開）	74.7%	70.0%	
(4)	漢字の読み（継承－けいしょう）	79.5%	75.0%	
(5)	漢字の読み（駆り－かり）	80.9%	75.0%	
(6)	漢字の書き（功績）	33.9%	65.0%	
(7)	漢字の書き（貴重）	86.0%	80.0%	
(8)	語句の使い方・四字熟語（選択肢）	88.1%	85.0%	
(9)	漢字の書き（治める）	79.3%	75.0%	
(10)	敬語	64.9%	65.0%	
(11)	文の成分（選択肢）	65.1%	70.0%	
(12)	対義語（選択肢）	85.7%	80.0%	
(13)	歴史的仮名遣い（記述）	92.5%	85.0%	
(14)	語句の理解（選択肢）	50.8%	60.0%	
(15)	主題の理解（選択肢）	62.1%	65.0%	
(16)	内容の理解（抜き出し）	65.0%	70.0%	
(17)	描写の効果（抜き出し）	11.9%	60.0%	
(18)	内容の理解（記述）	64.8%	60.0%	
(19)	心情の理解（記述）	58.3%	60.0%	
(20)	作文（紹介）	85.8%	80.0%	

※ ―― は設定通過率±10%を示している。

中学校 2年 国語科

小問別反応率



小問別通過率度数分布表 (125校)

は全県平均通過率

通し番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	平均 通過率
100%		4	6	1	5		6	13	1	1		4	22					3		8	
90～100%	1	46	25	17	13	1	42	47	19	3	2	34	75		1	2		9		45	
80～90%	1	62	30	52	65	1	52	48	43	7	15	64	24	4	3	5		17	5	49	2
70～80%	9	11	21	39	26	5	21	11	50	27	23	18	3	2	20	25		12	8	10	46
60～70%	32	1	20	15	15	1	3	5	11	52	47	3		24	51	56		43	40	8	74
50～60%	54		16	1	1	14		1	1	19	26	2	1	32	34	29	1	28	49	4	2
40～50%	18		5			14				10	8			41	13	7	2	6	19	1	
30～40%	7		1			26				4	2			17	2		1	2	2		
20～30%	2	1	1			43				2	2			4	1		8	2	2		1
10～20%						16											55	1			
0～10%	1					4	1							1		1	58	2			

中学校 2 年 国語 調査結果の考察

(1) 設定通過率との比較

※表中の数値は設問数

分類 設定通過率の	観 点 別				計
	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の 特質に関する事項	
＋10% より高い	0	0	0	0	0
±10% の範囲内	3	1	6	8	18
－10% より低い	0	0	1	1	2
計	3	1	7	9	20

(2) 考察

① 全体について

- ア 「話すこと・聞くこと」「書くこと」についての学習状況はおおむね良好である。
 イ 「読むこと」と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、問題によって正答率にばらつきが見られた。

② 成果

- ア 「話すこと・聞くこと」では、話の構成や展開などに注意して聞き取る問題で、指導の成果が見られる。
 イ 「書くこと」では、伝えたい事実や事柄、課題や自分の考えや気持ちを明確にして書くことに指導の成果が見られる。

③ 課題

- ア 「読むこと」では、古文に関わる問題において、文脈における語句の意味を正確に捉えたり、内容を的確に捉え主題を考えたりすることが十分とはいえない。
 イ 同じく「読むこと」では、文学的文章の問題において、描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容を理解することに課題がある。特に目的や条件に応じて抜き出した、書き換えたりする力を確実に身に付けさせる必要がある。
 ウ 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、これまでの諸調査の結果から正答率が低い傾向にある問題に対しての指導が十分ではない。

(3) 今後の指導

- ア 「読むこと」の文学的文章の指導においては、文章の中の時間的、空間的な場面の展開、登場人物の心情や行動、情景描写などに注意して読み進める指導を充実させたい。

- ・登場人物の言葉や行動が、話の展開や作品全体に表れたものの見方などに、どのように関わっているかを考える学習活動を取り入れる。
- ・目的や条件に応じて必要な内容を読み取ったり、目的や条件に合わせてまとめたりする学習活動を設定する。

- イ 「学年別配当表に示されている漢字を正しく書く」ことの指導では、単なる漢字の繰り返し指導のみではなく、意味や用法を理解しながら書くことができるよう、指導を充実させたい。

- ・文章の中、話すこと・聞くことの学習の中、日常の会話の中でも漢字を書くことについて意識させるようにする。
- ・同音異字、同訓異字の混同により正答率が低くなる傾向がある漢字の書き取り問題に対しては、国語辞典や漢和辞典等を活用し、漢字の形や音の意味を考えさせるなど、漢字への興味・関心を喚起し、持続させるよう指導を行うことが大事である。

17)

さ い。探 して 三 字 で 書 き な
 て は ま る 言 葉 を 文 に 中 か
 ま た 一 B ー な は 当
 に 七 字 で 書 き な い。次 の 表 の 一
 A

7)

④ 大 変 キ チ ョ ウ な
 品 物 が 届 い た。

6)

③ 残 しい コ ウ セ キ を
 彼は 仕事 で 輝 か

平成24年度小学校学習状況調査 第5学年 社会 評価規準と評価の観点

学年	内容	評 価 規 準	通し 番号	観 点		
				思考 判断 表現	技能	知識 理解
第3・4 学年	目標 (3)	・地図帳を活用し, 指定された市の場所を適切に調べている。	(1		○	
	目標 (3)	・地図帳を活用し, 目的とする情報を適切に収集している。	(2		○	
	(1) ア	・基本的な地図記号を正しく理解している。	(3			○
	(1) ア	・地図上での方位と地図記号を合わせて考え, 正しく判断している。	(4	○		
	目標 (3)	・地図上の距離について, 凡例を基に具体的に調べている。	(5		○	
	(6) ア	・秋田県に隣接している県について, 正しく理解している。	(6			○
	(6) イ	・秋田県の主な湖の位置について, 正しく理解している。	(7			○
	(5) イ	・地域に残る年中行事や伝統芸能に関する資料を比較して読み取っている。	(8		○	
	(5) イ	・地域の年中行事を継承していく上での問題点を資料と関連付けて適切に表現している。	(9	○		
	(4) イ	・人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々の工夫や努力について考えている。	(10	○		
	(4) イ	・人々の安全を守るための関係機関の働きの特色について考えている。	(11	○		
第5 学年	(2) ウ	・稲作に従事する人々は農業用機械を使用して, 年間の農作業を進めていることを理解している。	(12			○
	(2) イ	・稲作と気候条件とのかかわりについて, 資料を適切に読み取っている。	(13		○	
	目標 (3)	・漁獲量のグラフの変化の様子や傾向を適切に読み取っている。	(14		○	
	目標 (3)	・漁獲量のグラフから増減の変化について適切に読み取っている。	(15		○	
	(2) ウ	・食料生産に従事している人々の工夫や努力について, 適切に判断している。	(16	○		
	(1) イ, エ	・自然環境とその地域に住む人々のくふうについて, 適切に判断している。	(17	○		
	(1) ア	・主な国の名称と位置を正しく理解している。	(18			○
	(1) ア	・主な海洋の位置と名称を正しく理解している。	(19			○
	(1) ア	・日本の位置に関する基礎的な知識を活用して, 適切に文章に表現している。	(20	○		

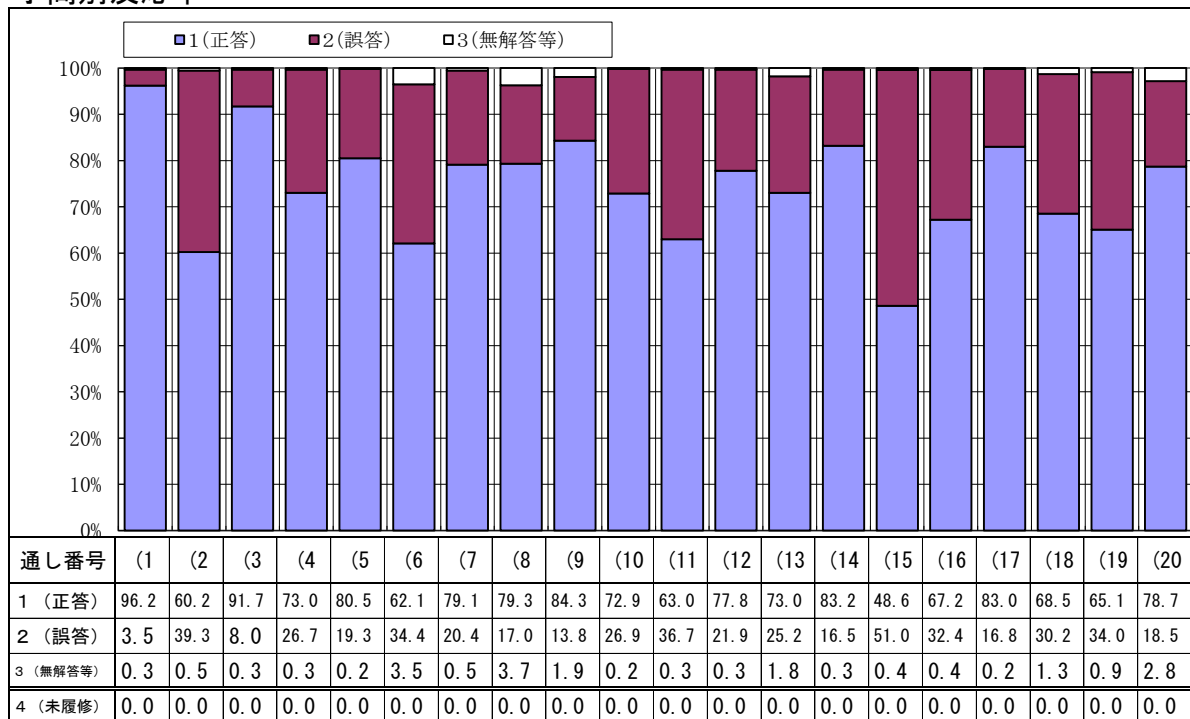
・内容は「小学校学習指導要領 平成20年3月告示」による。

通し 番号	出 題 内 容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0% 50% 100%
(1)	地図帳の活用	96.2%	90.0%	
(2)	地図帳の索引の活用	60.2%	65.0%	
(3)	基本的な地図記号	91.7%	85.0%	
(4)	地図上での方位	73.0%	70.0%	
(5)	地図上での距離	80.5%	75.0%	
(6)	秋田県に隣接する県	62.1%	65.0%	
(7)	秋田県の子な湖の位置	79.1%	75.0%	
(8)	引き継がれてきた年中行事	79.3%	75.0%	
(9)	引き継がれてきた年中行事	84.3%	75.0%	
(1 0)	人々の安全を守るための関係機関の働き	72.9%	70.0%	
(1 1)	人々の安全を守るための関係機関の特色	63.0%	65.0%	
(1 2)	稲作に従事する人々の工夫	77.8%	80.0%	
(1 3)	稲作と自然条件との関連	73.0%	70.0%	
(1 4)	漁獲量のグラフの変化の傾向の読み取り	83.3%	75.0%	
(1 5)	漁獲量のグラフの増減の割合の読み取り	48.6%	65.0%	
(1 6)	食料生産に従事している人々の工夫や努力	67.2%	65.0%	
(1 7)	自然条件と人々の工夫や努力	83.0%	75.0%	
(1 8)	主な国の名称と位置	68.5%	65.0%	
(1 9)	主な海洋の名称と位置	65.1%	65.0%	
(2 0)	日本の位置に関する表現	78.7%	70.0%	

※ ―― は設定通過率±10%を示している。

小学校 5年 社会科

小問別反応率



小問別通過率度数分布表 (236校)

は全県平均通過率

通し番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	平均 通過率
100%	122	11	61	12	19	6	27	26	28	8	7	35	15	25		7	30	16	10	35	
90～100%	92	9	107	14	31	7	32	28	46	16	3	45	18	43	1	14	39	19	12	38	3
80～90%	19	24	57	53	99	32	69	78	107	65	22	68	49	99	5	38	91	47	47	66	68
70～80%	1	38	8	65	56	54	56	69	36	55	40	47	80	52	15	49	58	53	49	47	126
60～70%	2	47	3	57	24	47	36	30	15	59	83	27	52	10	32	61	14	40	51	28	34
50～60%		50		24	6	46	11	4	3	26	47	12	17	5	66	49	4	37	38	16	4
40～50%		36		4	1	21	4	1	1	4	23	1	4	1	57	15		18	13	4	1
30～40%		12		6		15	1			1	10	1	1		39	2		5	7	1	
20～30%		7		1		6				2				1	17	1		1	7	1	
10～20%		1				2					1				2				2		
0～10%		1													2						

小学校5年 社会 調査結果の考察

(1) 設定通過率との比較

※表中の数値は設問数

分類 設定通過率の	観 点 別			内 容 別			計
	思考・判断・表現	技能	知識・理解	共通問題	地理的内容	3・4年	
＋10% より高い	0	0	0	0	0	0	0
±10% の範囲内	7	6	6	6	9	4	19
－10% より低い	0	1	0	0	1	0	1
計	7	7	6	6	10	4	20

(2) 考察

① 全体について

ア 全体の95%の問題が設定通過率の「±10%の範囲内」で、学習状況はおおむね良好である。

② 成果

ア 表、グラフ、主題図、写真、文章資料など、複数の様々な資料を比較・関連させて考える力が身に付いてきている。

イ 地図を活用して、必要な情報を収集する技能が身に付いてきている。

③ 課題

ア 地図を活用する力やグラフの変化の様子を読み取る力を、段階的に難易度を上げて身に付けさせる必要がある。

イ 本県の山や湖などの名称や位置を基に、本県に隣接している県の名称や位置を考察する力が不十分である。

(3) 今後の指導

グラフの変化の様子や傾向を適切に読み取り、変化や傾向の原因について予想したり追究したりできる力を高めるために、グラフの読み取りを段階的に指導する。

○ポイント [(14 (15を例として)]

資料(グラフ)から読み取れることを児童に発言させ、その特徴について共有化を図る。読み取ったことを基に学習問題をつくらせる問題解決的な学習を通して、グラフの読み取り方を段階的に指導する。

○具体例

①資料名、縦軸・横軸が表すもの、単位、出典等を確認する。【基本的な読み取り】

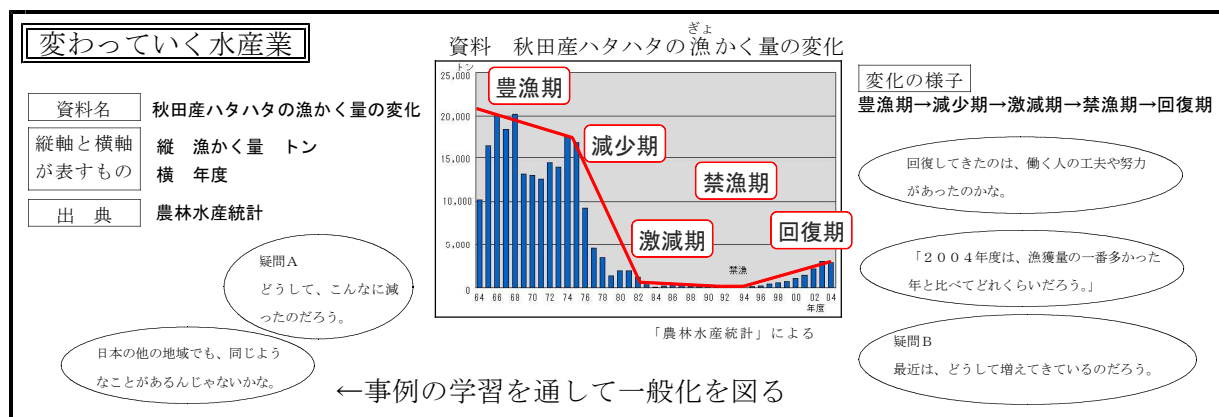
②大まかな変化の様子や時期ごとの傾向を捉えさせる。【大まかな読み取り】

例)「多い時期と少ない時期がある」「最近はずっと増えている」

③児童が読み取って気付いたことを基に、疑問を発言させる。…疑問A、Bなど

④疑問を基に、グラフを見直す。【必要な情報の読み取り】

例)「どれくらい減っているのだろうか」「最も多い年度と比べると、どれくらいまで回復しているのだろうか」



⑤資料の読み取りを基に、工夫や努力に結び付く学習問題を設定する。

例)「漁師の人たちは、どうやってここまで漁かく量を回復させたのだろうか」

⑥学習問題設定後の主な学習活動

・予想 ・予想に基づいた調査活動 ・事実を根拠に説明 ・全体で共有化し、まとめる

⑦学習問題に対する結論を表現させることで、学んだことを再構築させる。

平成24年度小学校学習状況調査 第6学年 社会 評価規準と評価の観点

学 年	内 容	評 価 規 準	通 し 番 号	観 点		
				思考 判断 表現	技能	知識 理解
第 5 学 年 （ 第 3 ・ 4 学 年 の 内 容 を 含 む ）	※目標 (3)	・地図帳を活用し、指定された市の場所を適切に調べている。	(1)		○	
	※目標 (3)	・地図帳を活用し、目的とする情報を適切に収集している。	(2)		○	
	※ (6)ア	・都道府県の名称や位置を理解している。	(3)			○
	(3) イ	・大工場の特徴について、資料を適切に読み取り、関連付けてまとめている。	(4)	○		
	(1) ア	・主な海洋の位置を正しく理解している。	(5)			○
	(1) ア	・日本の位置に関する基礎的な知識を活用して、適切に文章に表現している。	(6)	○		
	※ (1)ア	・地図上での方位について、正しく理解している。	(7)			○
	※目標 (3)	・地図上の距離について、凡例を基に具体的に調べている。	(8)		○	
	(4) イ	・インターネットの利便性を理解している。	(9)			○
	(4) イ	・インターネットの有効的な活用について、適切に判断し、表現している。	(10)	○		
第 6 学 年	(1) イ	・飛鳥時代に活躍した人物や大化の改新を行った人物を理解している。	(11)			○
	(1) イ	・飛鳥時代の日本と中国との関係を理解している。	(12)			○
	(1) イ	・平安時代の貴族の暮らしについて理解している。	(13)			○
	(1) イ	・平安時代の日本風の文化について理解している。	(14)			○
	(1) エ	・今日の生活文化に直結する要素をもつ室町文化の特徴について適切に判断し、表現している。	(15)	○		
	(1) ウ	・鎌倉幕府を開いた武士について理解している。	(16)			○
	(1) ウ	・幕府と御家人の関係について、資料を用いて考察し、適切に表現している。	(17)	○		
	(1) ウ	・元との戦いが幕府と御家人の関係に与えた影響について、適切に判断している。	(18)	○		
	(1) オ	・参勤交代の目的を理解している。	(19)			○
	(1) オ	・鎖国を進める中、二つの国に貿易を許した理由を、資料を用いて考察し、適切に表現している。	(20)	○		

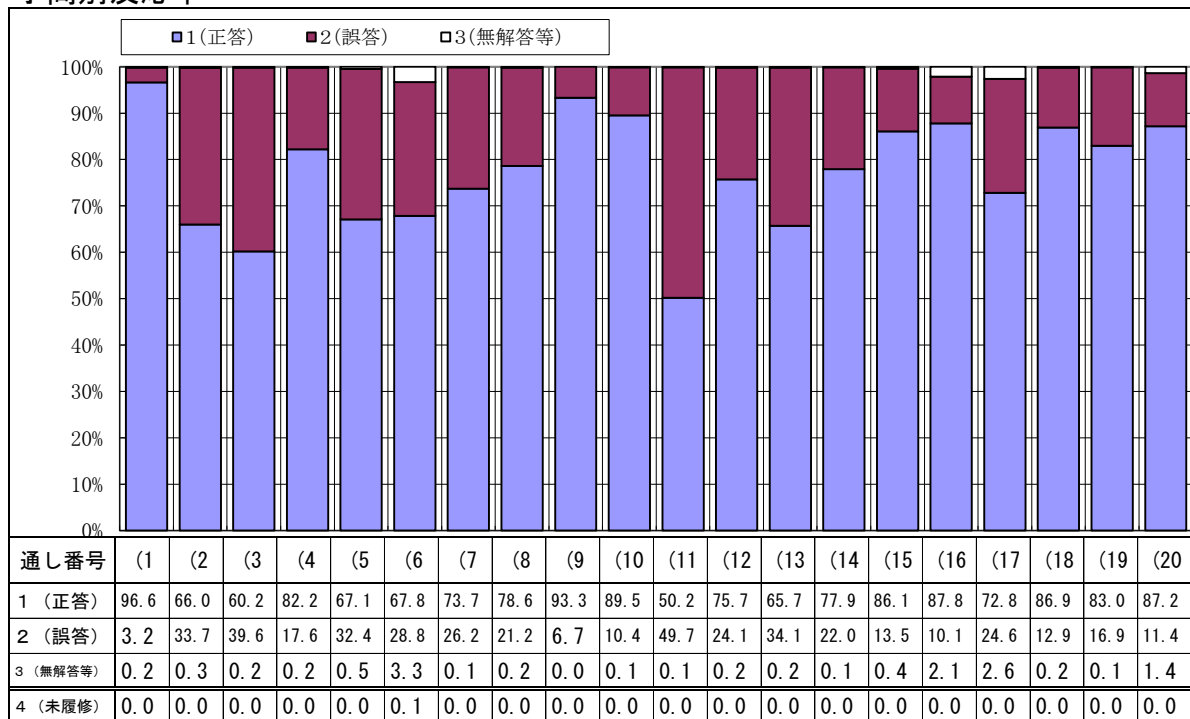
- ・内容は「小学校学習指導要領 平成20年3月告示」による。
- ・※は第3・4学年の範囲である。

通し 番号	出 題 内 容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0% 50% 100%
(1)	地図帳の活用	96.6%	90.0%	
(2)	地図帳の索引の活用	66.0%	65.0%	
(3)	都道府県の名称と位置	60.2%	60.0%	
(4)	大工場の特徴	82.2%	75.0%	
(5)	主な海洋の位置	67.1%	65.0%	
(6)	日本の位置に関する表現	67.8%	65.0%	
(7)	地図上での方位	73.7%	75.0%	
(8)	地図上での距離	78.6%	70.0%	
(9)	インターネットの利便性の理解	93.3%	85.0%	
(1 0)	インターネット利用時の注意点	89.5%	80.0%	
(1 1)	飛鳥時代に活躍した人物の理解	50.2%	60.0%	
(1 2)	飛鳥時代の日本と中国の関係の理解	75.7%	70.0%	
(1 3)	平安時代の貴族のくらし	65.7%	60.0%	
(1 4)	平安時代の日本風の文化の理解	77.9%	70.0%	
(1 5)	室町文化の特徴	86.1%	80.0%	
(1 6)	鎌倉幕府を開いた人物	87.8%	80.0%	
(1 7)	幕府と御家人の関係	72.8%	70.0%	
(1 8)	元との戦いの影響	86.9%	80.0%	
(1 9)	参勤交代の目的	83.0%	80.0%	
(2 0)	鎖国とキリスト教の関連の表現	87.2%	80.0%	

※「——」は設定通過率±10%を示している。

小学校 6年 社会科

小問別反応率



※1～3は、4（未履修）を除いた解答類型1～3の合計に対する割合

※4（未履修）は、全体に対する割合

小問別通過率度数分布表（236校）

は全県平均通過率

通し番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	平均 通過率
100%	121	11	3	29	14	15	9	21	74	49	1	24	9	19	42	55	18	39	39	58	
90～100%	98	16	4	48	19	19	25	32	109	82	2	22	2	32	60	80	37	66	53	74	16
80～90%	16	22	20	75	20	37	60	71	44	76	14	62	35	70	89	54	52	87	76	62	86
70～80%	1	53	35	53	49	43	67	72	9	23	20	56	55	65	28	27	50	32	36	25	105
60～70%		62	63	25	67	58	49	30		6	37	43	62	34	15	15	44	9	25	11	26
50～60%		43	68	3	41	37	18	8			44	21	45	11	2	5	15	2	5	5	3
40～50%		17	32	3	17	15	6	2			52	5	22	3			13	1	2	1	
30～40%		8	9		6	10	1				37	3	3	2			3				
20～30%		1	2		2	2	1				25		3				2				
10～20%		1									3										
0～10%		2			1						1						2				

小学校 6 年 社会科 調査結果の考察

(1) 設定通過率との比較

※表中の数値は設問数

分類 設定通過率の	観 点 別			内 容 別			計
	思考・判断	技能・表現	知識・理解	共通問題	地理的分野	歴史的分野	
+10% より高い	0	0	0	0	0	0	0
±10% の範囲内	7	3	10	6	4	10	20
-10% より低い	0	0	0	0	0	0	0
計	7	3	10	6	4	10	20

(2) 考察

① 全体について

ア 全ての問題が設定通過率の「±10%の範囲内」で、学習状況はおおむね良好である。

② 成果

ア 経年比較しているほとんどの問題において通過率の上昇が見られ、指導の改善が図られている。

イ 複数の資料を比較・関連付けながら思考・判断したり、分かったことや考えたことを自分の言葉で表現したりすることについては指導の成果が表れてきている。

③ 課題

ア 歴史上の人物の働きや業績、歴史的事象の意味についての理解が不十分なところがある。

イ 地図帳の索引を活用する力が不十分である。

ウ 47都道府県の名称と位置についての理解が不十分である。

(3) 今後の指導

歴史上の人物の働きや業績について、関わりの深い人物や代表的な文化遺産と関連させて調べさせるなど、歴史に対する興味・関心を高めながら理解を深める学習活動の充実を図る。

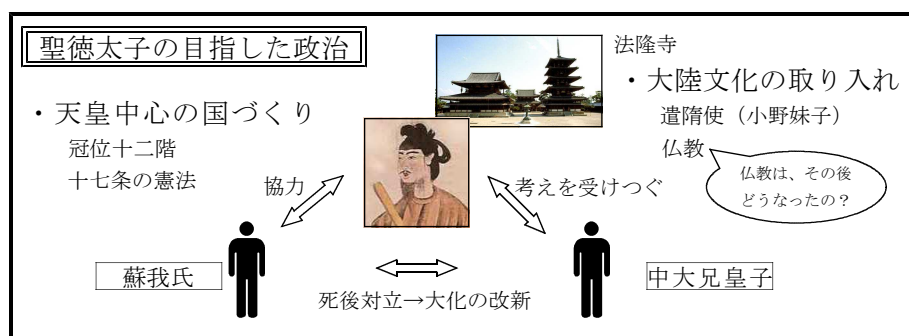
○ポイント [(11)を例として]

①学習問題を設けて歴史上の人物の理解を深める手立て

②関わりの深い人物や代表的な文化遺産と関連を図りながら、調べたことを表現する(説明・論述など)活動の重視

○具体例

①「聖徳太子の目指した政治は、どのように成し遂げたのか」など、児童の問題意識に沿った学習問題を設定する。



②調べて分かったことをまとめ、小グループや全体で共有する中で、関係が深い人物や文化遺産を関連付け、より深く理解できるように整理する。

③学習の過程で出てきた地名を地図上で確認するなどし、47都道府県の名称と位置の定着を図る。

④学習問題に対する結論をまとめさせ、歴史新聞や劇などで表現させることで、学んだことを再構築させる。

・調べたことや社会的事象の意味について広い視野から考えたことを、根拠や解釈を示しながら図や文章などで表現し説明することができるようすることが大切である。

・問題解決的な学習などを一層充実させることや、観察・調査や資料活用を通して必要な情報を入手し的確に記録する学習、それらを比較・関連付け・総合しながら再構成することにより、考えを深めていく学習の充実を図りたい。

・歴史学習においても、地図や統計資料などに都道府県の名称が見られた場合は、その都府、位置を地図帳で確認したり、学習した事柄を白地図に整理したりすることが大切である。

平成24年度中学校学習状況調査 第1学年 社会 評価規準と評価の観点

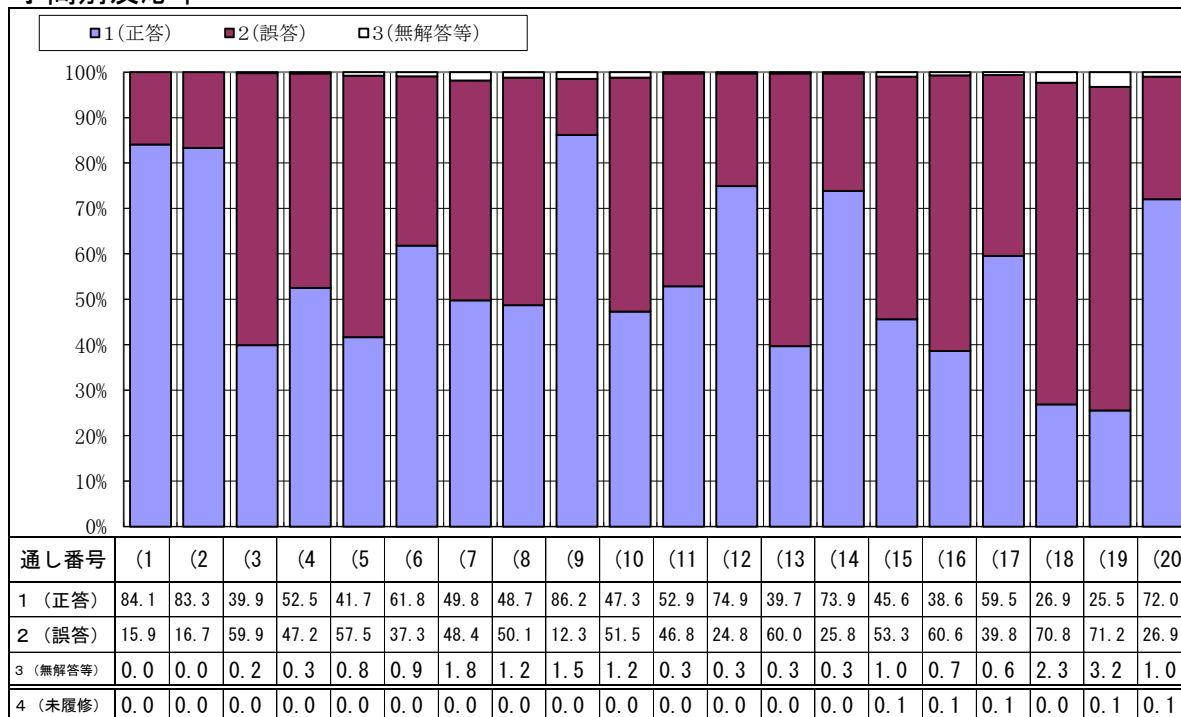
学年・分野	内 容	評 価 規 準	通し 番号	観 点		
				思考 判断 表現	技能	知識 理解
小学校 第6学年	(2)	・日本国憲法の基本的な考え方について、身近な生活と結び付けて理解している。	(1)	○		
	(2)	・国民の祝日に関心をもち、文化の日の意義について、天皇の地位や国事行為と結び付けて考察し、適切に表現している。	(2)	○		
	(3)	・国会と裁判所のそれぞれの仕事や関連について理解している。	(3)			○
	(3)	・国際連合や世界における我が国の役割などについて、資料から読み取っている。	(4)		○	
中学校 地理的 分野	(1) ア	・緯度と経度を理解し、地球儀の模式図に東京とワシントンの位置を適切にあてはめている。	(5)		○	
	(1) ア	・地球儀を活用し、大まかな世界地図を描き、大陸と大洋の位置関係を考察し、適切に表現している。	(6)	○		
		・都道府県の位置と名称を理解している。 ※平成11年版小学校学習指導要領社会編第4章2の2(2)	(7)			○
	(1) ウ	・六つの州の地図、特色、属する国の特色を結び付けて考察し、表に適切に表現している。	(8)	○		
	(1) ウ	・資料を読み取り、学習問題をつくっている。	(9)	○		
	(1) ウ	・世界の諸地域の地理的事象を基にして、適切に考察している。	(10)	○		
小学校 第6学年	(1) ク	・我が国で初めての近代憲法である大日本帝国憲法が公布される前後の出来事を考察し、適切に表現している。	(11)	○		
	(1) ク	・幕末に結ばれた不平等条約が改正されるまでの出来事を考察し、適切に表現している。	(12)	○		
	(1) ケ	・戦後、我が国が民主的な国家として出発する過程を考察し、適切に表現している。	(13)	○		
	(1) ケ	・オリンピックの開催などについて調べたことを基に、そのころの様子を理解している。	(14)			○
中学校 歴史的 分野	(1) ア	・年表と地図を関連付けて考察し、政治の中心地について適切に表現している。	(15)	○		
	(2) ウ	・平城京に政治の中心地があった時期が国際的な要素をもった文化が栄えたところであることを理解している。	(16)			○
	(2)	・日本の古代国家のおこりについて、中国の歴史書に書かれた日本の様子と結び付けて考察し、適切に表現している。	(17)	○		
	(1) ア	・年代と世紀、紀元前と紀元後の関係を理解している。	(18)			○
	(2) イ	・貴族の政治の特色について、藤原氏の系図を読み取って考察し、適切に表現している。	(19)	○		
	(2) ウ	・仏教の伝来とその影響について、文化の国風化が進んだころの建物と結び付けて考察し、適切に表現している。	(20)	○		

通し 番号	出 題 内 容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0% 50% 100%
(1)	日本国憲法の三大原則と身近な社会生活	84.1%	85.0%	
(2)	国民の祝日、天皇の地位	83.3%	90.0%	
(3)	国会、内閣、裁判所の仕事と関係	39.9%	65.0%	
(4)	国際連合に関する資料の読み取り	52.5%	60.0%	
(5)	地球儀の活用と首都の位置	41.7%	60.0%	
(6)	地球儀の活用と大陸と海洋の分布	61.8%	65.0%	
(7)	都道府県の位置と名称の理解：青森県から石川県へ	49.8%	70.0%	
(8)	世界の諸地域「六つの州と主な国の特色」の考察	48.7%	70.0%	
(9)	世界の諸地域「六つの州と主な国の特色」の考察	86.2%	90.0%	
(10)	世界の諸地域に関する地理的事象の考察	47.3%	60.0%	
(11)	大日本帝国憲法の発布と国会開設	52.9%	70.0%	
(12)	不平等条約改正に至るまでのできごと	74.9%	80.0%	
(13)	戦後の日本の独立（サンフランシスコ講和条約）	39.7%	60.0%	
(14)	戦後の日本の様子（東京オリンピック）	73.9%	75.0%	
(15)	政治の中心地の移り変わり	45.6%	65.0%	
(16)	平城京に政治の中心地があった頃の文化	38.7%	75.0%	
(17)	国家が形成されていく過程のあらまし	59.6%	65.0%	
(18)	紀元前と紀元後及び年代と世紀の関係	26.9%	65.0%	
(19)	系図の読み取りと藤原氏の全盛	25.5%	60.0%	
(20)	平等院鳳凰堂と浄土信仰	72.1%	70.0%	

※「——」 は設定通過率±10%を示している。

中学校 1 年 社会科

小問別反応率



※ 1～3 は、4 (未履修) を除いた解答類型 1～3 の合計に対する割合

※ 4 (未履修) は、全体に対する割合

小問別通過率度数分布表 (125校)

は全県平均通過率

通し番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	平均 通過率
100%		6				2	1		7	1	1	1	1	2				1		4	
90～100%	26	31	1			1	1		31			3		11	1					6	
80～90%	69	49	1	3	3	14	6	3	72	1	2	29	2	35	7		7			26	
70～80%	22	25	2	4	5	24	7	3	13	2	8	66	7	34	9	2	20	2		45	4
60～70%	5	11	7	26	11	26	21	16	2	12	24	17	8	24	20	12	37	2	3	26	30
50～60%	2	3	15	48	27	35	28	34		28	47	7	20	14	23	14	34	4	5	10	67
40～50%			36	29	26	14	36	35		52	28	2	19	3	20	27	19	8	12	5	21
30～40%			40	13	21	5	18	25		25	14		31	1	25	42	4	21	17	1	3
20～30%			18		21	3	3	4		3	1		24		13	22	2	49	43	1	
10～20%			4	1	9		2	4		1			10		3	4		33	34		
0～10%	1		1	1	2	1	2	1					3	1	3	1	1	4	10		

中学校 1 年 社会 調査結果の考察

(1) 設定通過率との比較

※表中の数値は設問数

分類 設定通過率の	観 点 別			内 容 別			計
	思考・判断・表現	技能	知識・理解	小学校	地理的分野	歴史的分野	
＋10% より高い	0	0	0	0	0	0	0
±10% の範囲内	8	1	1	6	2	2	10
－10% より低い	5	1	4	3	3	4	10
計	13	2	5	9	5	6	20

(2) 考察

① 全体について

ア 新学習指導要領の全面实施を踏まえ、今年度は20問中、新問を9問、新問に準ずる問題を4問出題した。また、選択肢を増やした問題や完全正答とする問題を増やしている。その結果、設定通過率から「－10%より低い」問題が10問、その内「－20%より低い」問題が7問あり、平均通過率が55.3と例年を大きく下回った。

イ 観点「思考・判断・表現」や「知識・理解」であっても、全ての問題が資料を活用して答える問題となっている。資料を読み取り活用する技能が基盤であることに留意して指導する必要がある。

② 成果

ア 経年比較しているほとんどの問題において通過率の上昇が見られ、指導の改善が図られている。

イ 出題範囲が小学校第6学年後半である問題の通過率が、9問中6問で「±10%の範囲内」であり、学習内容が徐々に定着してきている。

③ 課題

ア 資料から読み取ったことを既習知識と結び付けて考える力が不十分である。

イ 複数の資料を比較、関連付け、総合して思考・判断・表現する力を一層高める必要がある。

(3) 今後の指導

資料から問題をつくり、資料を基に解決する問題解決的な学習に一層取り組み、既習知識を活用し、複数の資料を比較、関連付け、総合して考える力を高める指導の充実を図る。

○ポイント〔(10)を例として〕

資料から問題をつくり、資料を基に解決する問題解決的な学習の流れを踏まえ、資料、学習問題予想、結果を関連付けて考察する。

○具体例

「資料1を基に問題をつくり、予想を立て、資料2を基に解決した」という流れを把握する

資料1

	5歳未満児の死亡率 (%)	平均寿命(歳)
ヨーロッパ州にある国	1 0.4	79
	2 0.4	80
	3 0.6	74
アフリカ州にある国	4 10.8	55
	5 13.8	54
	6 6.2	54

問題 「なぜ (6) 州の国々は (1) 州の国々に比べて、5歳未満児の死亡率が高く、平均寿命が短いのだろうか」

予想 「経済的な貧しさや医療の未発達だが、その原因ではないだろうか」

資料2

	人口1000人あたりの医師数 (人)	一人あたりの国民総所得(ドル)
ヨーロッパ州にある国	1	2
	2	3
	3	4
アフリカ州にある国	4	5
	5	6
	6	7

- ① (6)と(1)にあてはまる州名を書きなさい。(9)
- ② 予想が正しかったことが分かるように、資料2を完成させたい。資料2の①～④に、⑦～⑩から、適切なものをつづつ選んで記号を書きなさい。(10)

⑦	⑧	⑨	⑩
1 360	3.4	38 780	0.01
2 070	3.5	36 850	0.4
5 581	3.1	19 090	0.8

- この問題は、通し番号 (9) の問題において、資料1の表を読み取り、学習問題をつくらせて予想を立て、その予想が正しかったことが分かるように、資料2の表を完成させるという思考を必要とする。授業の中で、日常的に「資料から学習課題をつくり、資料を基に解決する問題解決的な学習」を行うことが大切である。
- 資料2の表の項目と矛盾しないように、資料2の表に数字を当てはめる資料活用の技能も高めたい。資料2の「人口1000人あたりの医師数」の項目に、1000人を超える数字が入ることはない、と判断することが大切である。

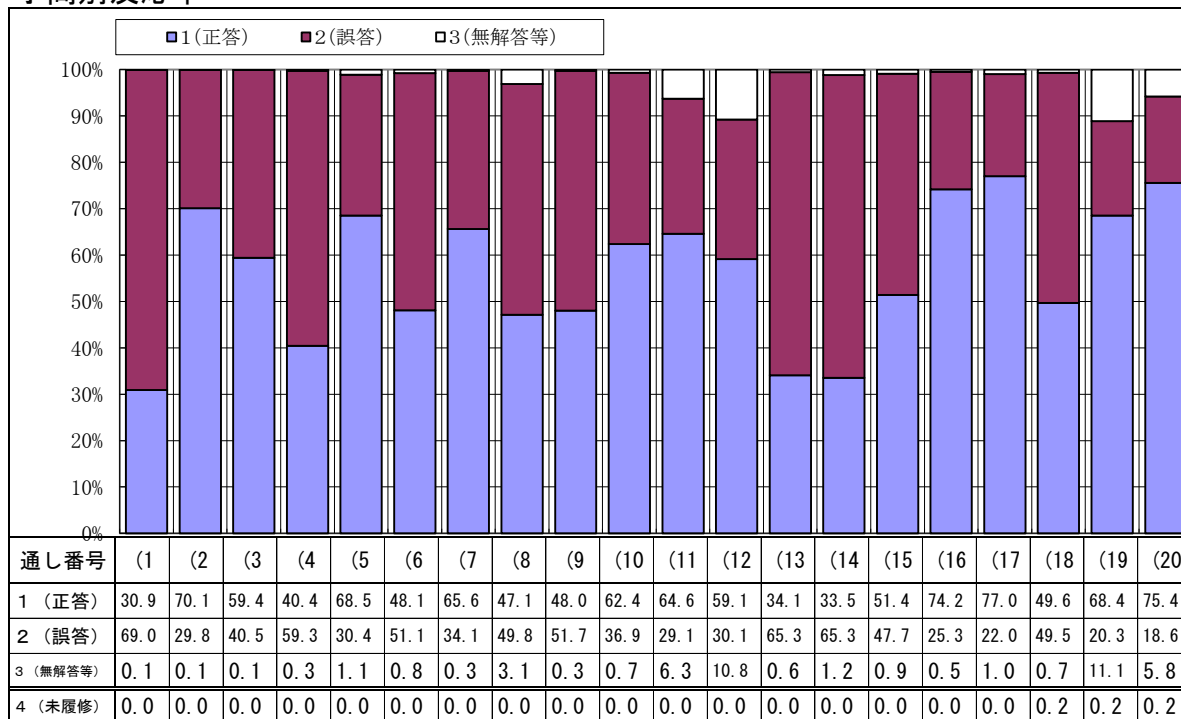
分野	平成10年版の内容	平成20年版の内容	評価規準	通し番号	観 点		
					思考判断表現	技能	知識理解
地理的分野	(1)ア	(1)ア	・地球儀を活用し、六大陸の大まかな位置関係をとらえている。	(1)		○	
		(1)イ	・地球儀を活用し、歴史学習と関連付けて世界の主な宗教の分布を理解している。	(2)			○
	(1)イ	(2)ア	・地球儀を活用し、わが国の位置と領域について、地球規模でとらえ適切に表現している。	(3)	○		
	(1)ア	(2)ア	・日付変更線の意味を理解し、東半球と西半球にある地点の時差を計算している。	(4)	○		
		(1)ウ	・地図と広範にみられる特色ある地理的事象を基に、各州の地域的特色を明らかにしている。	(5)			○
		(1)ウ	・地図と広範にみられる特色ある地理的事象を基に、各州の地域的特色を明らかにしている。	(6)			○
	(2)ウ	(1)エ	・統計資料を的確に読み取り、国家規模の地域的特色をとらえている。	(7)		○	
	(2)ウ	(1)エ	・統計資料を的確に読み取り、自分の解釈を加えて論述している。	(8)	○		
	(1)イ	(2)ア	・都道府県の名称と位置、県庁所在地名を七地方に区分して理解している。	(9)			○
	(3)ア	(2)イ	・地図と二つの統計資料を関連付けて考察し、日本における人口集中地域を判断している。	(10)	○		
	(3)ア	(2)イ	・グラフから必要な情報を読み取り、それを根拠に将来の人口構成の課題を説明している。	(11)		○	
	(3)ア	(2)イ	・表の情報を比較して考えたり、調べて分かったことを図に表して説明したりできる。	(12)		○	
歴史的分野	(3)ア	(3)ア	・中世の武家政治と東アジアの国際関係の特色を古代との違いに着目して考察している。	(13)	○		
	(3)イ	(3)イ	・室町時代に生まれた文化の中に現在に結びつくものがあることに気付いている。	(14)			○
	(4)ア	(4)ア	・武家法の歴史を理解し、武士の主従関係の移り変わりをとらえている。	(15)			○
	(4)イ	(4)ア	・織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係に関する資料を分類している。	(16)		○	
	(4)イ	(4)ア	・検地・刀狩によって中世までとは異なる社会が生まれたことを考察している。	(17)	○		
	(4)ウ	(4)イ	・鎖国に至るまでの複数の社会的事象を関連付けて的確に理解している。	(18)			○
	(4)ウ	(4)イ	・グラフから取り出した情報を関連付けて、参勤交代のねらいを考察し、表現している。	(19)	○		
	(4)エ	(4)ウ	・統計資料等から分かったことを関連付けて、考察し、それを論述することができる。	(20)	○		

通し 番号	出 題 内 容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0%50%100%
(1)	六大陸の位置の把握	30.9%	65.0%	
(2)	主な宗教の分布の理解	70.1%	75.0%	
(3)	日本の位置と領域についての考察	59.4%	65.0%	
(4)	時差についての考察	40.4%	65.0%	
(5)	世界の諸地域「六つの州と主な国の特色」の理解	68.5%	75.0%	
(6)	世界の諸地域「六つの州と主な国の特色」の理解	48.1%	70.0%	
(7)	統計資料（アフリカ州）の適切な読み取り	65.6%	75.0%	
(8)	資料の読み取りと論述（予想）	47.1%	60.0%	
(9)	都道府県の名称と位置、県庁所在地名の理解	48.0%	65.0%	
(10)	統計資料を活用した各地方の特色の判断	62.4%	70.0%	
(11)	資料を活用した人口構成の課題についての説明	64.6%	70.0%	
(12)	統計資料を比較したり、説明内容から類推したりして問いを立てる	59.1%	65.0%	
(13)	古代と中世の政治と文化の特色を比較しての考察	34.1%	60.0%	
(14)	室町時代の文化についての理解	33.5%	70.0%	
(15)	武家法の歴史についての理解	51.4%	70.0%	
(16)	織田・豊臣に関する資料の分類	74.2%	80.0%	
(17)	検地と刀狩の共通点に関する考察	77.0%	80.0%	
(18)	鎖国に至る社会的事象の理解	49.7%	65.0%	
(19)	資料を活用した参勤交代のねらいについての考察	68.5%	75.0%	
(20)	江戸時代の農業の発達に関する情報を関連付けた考察と論述	75.6%	80.0%	

※—— は設定通過率±10%を示している。

中学校 2 年 社会科

小問別反応率



※ 1～3は、4（未履修）を除いた解答類型 1～3の合計に対する割合

※ 4（未履修）は、全体に対する割合

小問別通過率度数分布表（125校）

は全県平均通過率

通し番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	平均 通過率
100%					2			1				1				3	3		2	14	
90～100%		5			5		1			2	8	2				9	5		11	22	
80～90%	1	25	4		24	1	4	4	1	5	25	20		1		34	42	3	25	30	
70～80%		40	10	1	36	6	33	4	5	24	20	26	4	2	10	37	55	8	34	23	6
60～70%	2	29	47	7	29	19	49	18	14	45	30	30	2	2	20	33	18	16	21	10	46
50～60%	6	23	48	9	23	33	32	32	29	37	22	16	7	11	46	7		34	16	18	54
40～50%	12	2	13	43	5	36	4	22	45	9	11	8	21	20	24	1	1	36	11	5	18
30～40%	47	1	2	50		19	2	21	22	2	6	10	48	43	18			18	4	2	
20～30%	49			13	1	11		20	8	1	2	4	36	37	4	1	1	9		1	1
10～20%	7			2				2	1		1	7	6	7	2						
0～10%	1		1					1				1	1	2	1			1	1		

中学校 2 年 社会 調査結果の考察

(1) 設定通過率との比較

※表中の数値は設問数

分類 設定通過率の	観 点 別			内 容 別		計
	思考・判断・表現	技能	知識・理解	地理的分野	歴史的分野	
+10% より高い	0	0	0	0	0	0
±10% の範囲内	4	3	2	5	4	9
-10% より低い	4	2	5	7	4	11
計	8	5	7	12	8	20

(2) 考察

① 全体について

新学習指導要領の全面実施を踏まえ、今年度は改訂の要点を踏まえた新問を20問中9問出題した結果、9問中7問が設定通過率を10%以上下回った。その中の5問は、平成24年度の高校入試問題に基づいた問題であり、5問中4問が設定通過率を10%以上下回った。全体の平均通過率は、56.4であり、例年を大きく下回った。

② 成果

ア 経年比較している問題については、ほとんど通過率が上昇している。前年度の結果を踏まえ、通過率の低い単元及び観点について、指導の改善が図られている。

イ 統計資料から複数の情報を読み取り考察する問題について、昨年度より通過率が上昇している。複数の資料を活用し考察させる指導を積極的に授業に取り入れている成果である。

③ 課題

ア 地球儀や地図帳の活用、地誌的な学習の充実、歴史の大きな流れの理解、文化の学習の充実等、地理的分野、歴史的分野の改訂の要点を適切に捉えた指導を充実させる。

イ 本調査、高校入試を一体として捉え、指導を検証改善していく必要がある。本調査、高校入試問題を分析することで、「今求められている授業」について認識し、一層の授業改善を図る必要がある。

(3) 今後の指導

政治の展開、産業の発達、社会の様子、文化の特色などについて、他の時代との共通点や相違点に着目させることや各時代の特色を明らかにした上で、我が国の歴史を大きくとらえさせることを学習の中心として指導する。

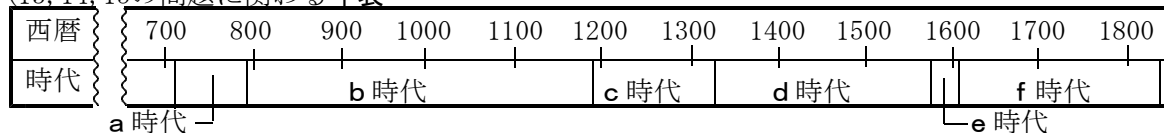
○ポイント [(13を例として)]

- ・古代の文化については、国際的な要素をもった文化が栄え、後に文化の国風化が進んだことを、代表的な事例の学習を通して理解させる。
- ・古代から中世への転換の様子を、古代の天皇や貴族の政治との違いに着目して考察し、自分の言葉で表現できるようにさせる。

○具体例

「人々のくらしの変化とつながり」を表す資料として、**年表を効果的に活用する。**

(13, 14, 15の問題に関わる年表



① 学習指導要領(2)イ、ウ、(3)アの内容に示されているキーワードを年表に書き込む。

(2)イ…律令国家、摂関政治、天皇、貴族 ウ…仏教の伝来、仮名文字の成立、国際的な要素をもった文化、文化の国風化 (3)ア…鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱、元寇、日明貿易、応仁の乱

歴史的事象を年表に書き込むことによって、歴史の流れを捉えることができる。

② 書き込んだ歴史的事象と歴史的事象の間に起きている出来事を確認し、それらの関連を考える。

事象の関連を確認することによって、歴史が人間の営みのつながりであることが実感できる。

③ 「つまり、この時代は」「この時代を代表するものは」など、各時代の特色について、言葉や図などで表したり、互いの意見を交換したりする。

学習している歴史と今がつながっていることを年表で捉えると、自分もその歴史の中にいることが実感できる。

平成24年度小学校学習状況調査 第4学年 算数 評価規準と評価の観点

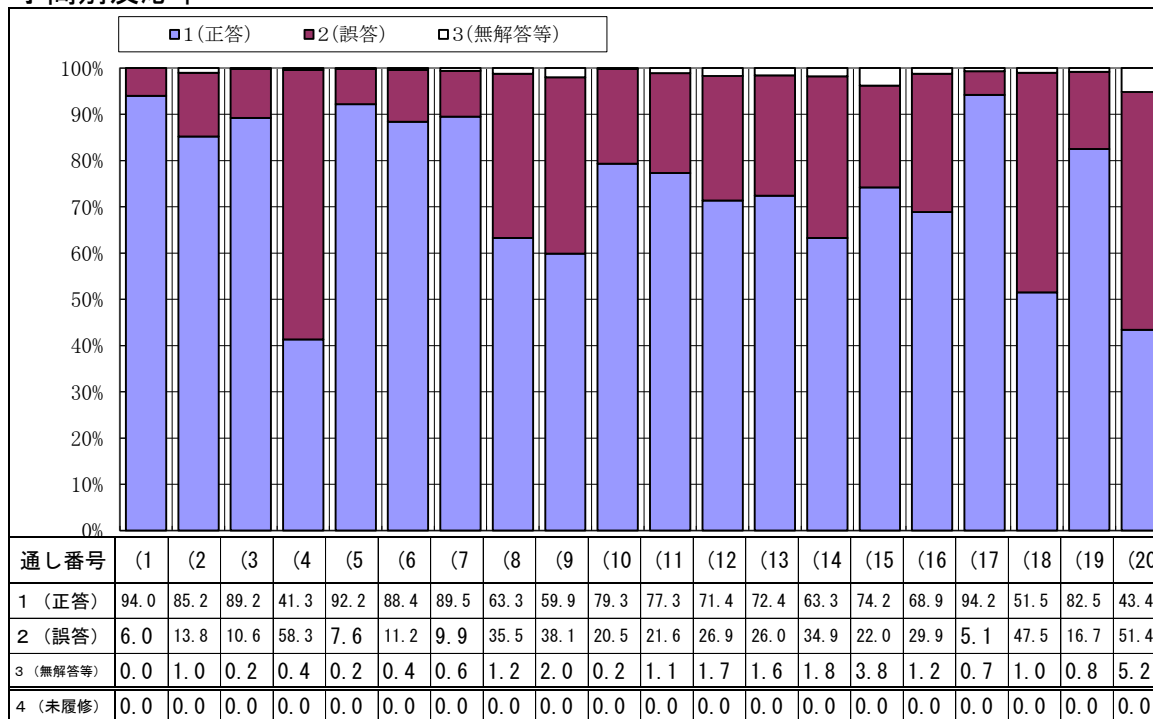
学 年	領 域	内 容	評 価 規 準	通 し 番 号	観 点		
					考 え 方	技 能	知 識 ・ 理 解
第 3 学 年	A 数と計算	(3)アイウ 乗法	・2位数に2位数をかける計算ができる。	(3)		○	
			・3位数に2位数をかける計算の意味を理解し、乗数の十の位が0の時の計算の仕方について理解している。	(5)			○
		(5)アイ 小数の意味 や表し方	・小数第一位までの小数の減法ができる。	(1)		○	
		(6)アイウ 分数の意味 や表し方	・1より小さい大きさや等分した大きさを、分数を用いて表すことができる。	(4)		○	
			・分数と小数の大きさの関係について理解している。	(8)			○
	B 量と測定	(1)ア 長さについて の理解	・日常生活の場面をもとに、距離について単位の換算をすることができる。	(7)			○
		(2) 目的に応じて の単位	・いろいろなものの重さについて、適切な単位を選ぶことができる。	(10)			○
	C 図形	(1)アイウ 二等辺三角形、正 三角形などの図形	・二等辺三角形を作図することができる。	(17)		○	
			・正三角形の意味や、性質等を理解している。	(16)			○
			・条件より「球の直径」を考え、箱の辺の長さを求めることができる。	(13)		○	
第 4 学 年	D 数量関係	(2)アイ 数量の関係 を表す式	・未知の数量を□を用いて表すと文脈通りに式に表せることや、□にあてはまる数の求め方を理解している。	(11)			○
		(3)ア 表と棒グラフ	・資料を読み取り、棒グラフに表すことができる。	(19)	○		
	A 数と計算	(1)ア 整数の表し方	・億や兆の単位を用いた数を読んだり、書いたりすることができる。	(6)		○	
		(3)アイウエ 整数の除法	・3位数を2位数で割る計算ができる。	(2)		○	
			・被除数を、除数、商、あまりの数から考えている。	(15)			○
			・3位数÷1位数の計算を、被除数や除数、商との関係を基にして考えている。	(12)	○		
			・末尾に0のある数の除法の簡便な方法による計算の仕方を理解している。	(18)			○
			・2数の倍関係を用いた全体量の求め方を図や式、言葉などを用いて説明することができる。	(9)	○		
			・数量の関係を数直線を基にとらえ、□を用いた式に表し、□にあてはまる数の求め方を考えている。	(14)	○		
	D 数量関係	(1)ア 伴って変わる 二つの数量	・変化の様子を表した折れ線グラフから、条件に即したグラフにするための特徴を読み取っている。	(20)	○		

通し 番号	出 題 内 容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0%50%100%
(1)	小数の減法	94.0%	90.0%	
(2)	(3 位数) ÷ (2 位数) の計算	85.2%	80.0%	
(3)	(2 位数) × (2 位数) の計算	89.2%	90.0%	
(4)	量分数の理解, 表現	41.3%	70.0%	
(5)	(2 位数) × (2 位数) の理解	92.2%	80.0%	
(6)	数直線上の大きな数の読み取り	88.4%	80.0%	
(7)	長さについての理解	89.5%	80.0%	
(8)	分数と小数の関係についての理解	63.3%	70.0%	
(9)	2 数の倍概念の理解	59.9%	60.0%	
(1 0)	重さについての豊かな感覚	79.3%	80.0%	
(1 1)	□を用いた式の理解	77.3%	70.0%	
(1 2)	被除数, 除数, 商の関係の理解	71.4%	70.0%	
(1 3)	球の直径の意味	72.4%	70.0%	
(1 4)	基準量の求め方	63.3%	60.0%	
(1 5)	被除数の求め方	74.2%	70.0%	
(1 6)	正三角形の性質	68.9%	70.0%	
(1 7)	二等辺三角形の作図	94.2%	90.0%	
(1 8)	除法の性質についての理解	51.5%	60.0%	
(1 9)	棒グラフの読み取りと理解	82.5%	80.0%	
(2 0)	2つのグラフの読み取りと理解	43.4%	60.0%	

※ ―― は設定通過率±10%を示している。

小学校 4年 算数科

小問別反応率



小問別通過率度数分布表 (236校)

は全県平均通過率

通し番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	平均 通過率
100%	83	48	46	8	61	43	67	9	9	23	27	10	14	19	18	11	99	2	26	1	
90～100%	110	47	88	7	103	72	79	13	5	22	31	10	11	8	20	15	103	3	36	4	6
80～90%	32	82	81	19	59	93	67	31	34	86	66	55	53	44	48	36	25	5	98	9	69
70～80%	10	38	17	19	11	22	20	47	33	64	62	62	65	32	77	58	6	21	59	17	100
60～70%		18	4	25	1	4	3	40	52	32	29	61	58	46	54	60	3	36	14	26	53
50～60%	1	2		31	1	2		44	51	7	11	30	26	36	13	35		64	2	46	8
40～50%				22				30	23	1	3	5	6	32	3	14		54	1	36	
30～40%		1		29				11	18	1	5	1	1	16	3	2		24		30	
20～30%				19				5	7		1	2		3		4		21		30	
10～20%				25				3	1				1			1		3		13	
0～10%				32				3	3		1		1					3		24	

小学校4年 算数 調査結果の考察

(1) 設定通過率との比較

※表中の数値は設問数

分類 設定通過率の	観 点 別			領 域 別				計
	考え方	技能	知識理解	数と計算	量と測定	図 形	数量関係	
+10% より高い	0	0	1	1	0	0	0	1
±10% の範囲内	4	6	7	10	2	2	3	17
-10% より低い	1	1	0	1	0	0	1	2
計	5	7	8	12	2	2	4	20

(2) 考察

① 全体について

ア 基礎的・基本的な学習内容の定着が図られている。

イ 20問中18問が、設定通過率の「±10%の範囲内」または「+10%より高い」ところにあり、学習状況はおおむね良好である。

② 成果

ア 課題となっていた数量の関係を数直線を基に捉え、□を用いた式に表し、□に当てはまる数を求めることについては、通過率が大幅に上昇した。

イ 小数の減法、3位数÷2位数のわり算の計算や2位数×2位数の計算の理解、二等辺三角形の作図については、良好である。

③ 課題

ア 1つのものを等分したときの分割分数と、1mや1Lなどの量を等分したときの量分数の理解と表現について、課題が見られる。

イ 条件に即した折れ線グラフにするための、2つのグラフの読み取りと考察について、課題が見られる。

(3) 今後の指導

ア 具体物を操作したり、数直線図やテープ図を用いたりして、スパイラル的に分数についての理解を深める算数的活動の充実を図る。

1 mより長いテープがあります。このテープを5等分したら、図のようになりました。色をぬった部分の長さは何mですか。答えを分数で の中に書きましょう。

(4)

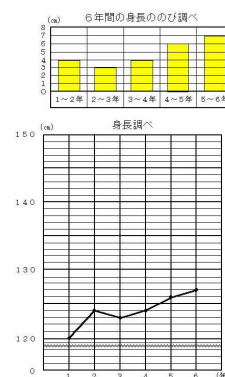
- 1つのものを等分したときの分割分数の意味と、1 mや1 Lなどの量を等分したときの量分数の意味の違いなどを具体物やテープ図などを用いて捉えさせる活動を大切にしたい。
- 端数部分の大きさの表し方については、具体物を用いるなど体験を通した実感を重視し、指導方法の工夫を図りたい。

イ 資料を目的に応じて折れ線グラフを用いて表したり、それを読み取ったり調べたりする活動や説明したりする活動を重視する。

- 資料を目的に応じて折れ線グラフを用いて表したり、それを読み取ったり調べたりする活動や説明したりする活動を計画的に取り入れたい。
- グラフの特徴などについて読み取った理由を数学的な根拠を明らかにして説明する活動を大切にしたい。
- それぞれのグラフの示す具体的な数量や傾向を読み取ったり調べたりすることで、2つのグラフを比較して考察できるようにしたい。

けんたさんが小学校に入学したときの身長は120 cmでした。その後、1年ごとに身長の変化を記録し、下のようなぼうグラフに表しました。このぼうグラフをもとにして、けんたさんは自分の身長を折れ線グラフに表しました。次のけんたさんのかいた折れ線グラフは正しいでしょうか。「正しい」「正しくない」のあてはまるほうに○をつけ、正しくないときは、そのわけも書きましょう。

(20)



平成24年度小学校学習状況調査 第5学年 算数 評価規準と評価の観点

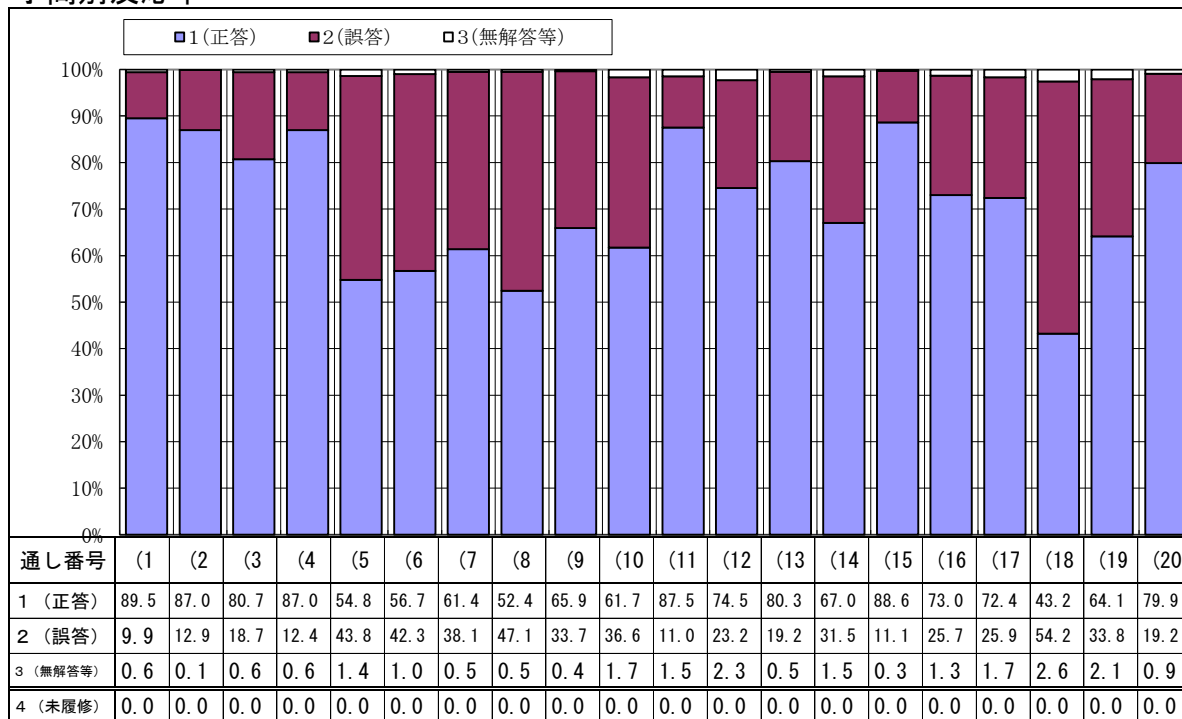
学 年	領 域	内 容	評 価 規 準	通 し 番 号	観 点		
					考 え 方	技 能	知 識・ 理 解
小 学 校 第 4 学 年	A 数 と 計 算	(2)アイウ 概数と四捨五入	・概数を用いて積を見積もることができる。	(5)		○	
		(5)アイウ 小数の仕組みとその計算	・基準量と比較量を判断して倍を求める正しい図を選び、問題場面を式に表すことができる。	(6)	○		
		(6)アイ 同分母分数の加法、減法	・同分母の帯分数－真分数の計算ができる。	(1)		○	
	B 量 と 測 定	(1)アイ 面積の単位と測定	・複合図形の面積を求めることができる。	(12)		○	
		(2)アイ 角の大きさ	・180°より大きい角度の測定の仕方を考え、その測定の仕方を式で表すことができる。	(11)	○		
	C 図 形	(1)アイ 平行四辺形、ひし形、台形	・ひし形の性質を理解している。	(20)			○
		(2)アイ 立方体、直方体などの立体図形	・直方体の見取図をかくことができる。	(9)		○	
	D 数 量 関 係	(1)ア 伴って変わる二つの数量	・伴って変わる二つの数量の関係に着目し、その対応の特徴を見出し、式で表すことができる。	(19)	○		
		(3)ア 四則に関して成り立つ性質	・計算の工夫を読み取り、それを用いて異なる数値の問題を計算することができる。	(10)	○		
		(4)アイ 資料の分類整理	・情報を二次元表に分類整理することができる。	(17)		○	
学 校 第 5 学 年	A 数 と 計 算	(1)アイ 整数の性質	・偶数、奇数の性質を理解している。	(4)			○
			・具体的な場面において、最小公倍数を求めることができる。	(14)		○	
		(3)アイウ 小数の乗法、除法	・1／100の位までの小数どうしの乗法の計算ができる。	(2)		○	
			・余りがある場合の小数の除法の計算ができる。	(3)		○	
			・小数の計算における乗数と積の大きさ、除数と商の大きさの関係を理解している。	(7)			○
	B 量 と 測 定	(2)アイ 体積の単位と測定	・底面が等しい直方体の高さと体積の関係を理解している。	(13)			○
		(4)ア 異種の二つの量の割合	・異種の2量の割合として捉えられる事柄の比べ方を考え、説明することができる。	(18)	○		
	C 図 形	(1)イ 平面図形の性質	・合同な図形の対応する辺の長さや対応する角の大きさが等しいことを理解している。	(15)			○
			・合同な三角形をかき方を考え、説明することができる。	(16)	○		

通し 番号	出 題 内 容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0%50%100%
(1)	同分母の帯分数－真分数	89.5%	80.0%	
(2)	(小数)×(小数)の計算	87.0%	80.0%	
(3)	余りのある(小数)÷(小数)の計算	80.7%	80.0%	
(4)	偶数、奇数の性質	87.0%	80.0%	
(5)	概数を用いた積の見積もり	54.8%	70.0%	
(6)	小数の倍	56.7%	70.0%	
(7)	小数の計算と大きさの関係	61.4%	70.0%	
(8)	小数の除法の意味	52.4%	60.0%	
(9)	直方体の見取図	65.9%	70.0%	
(1 0)	計算の工夫	61.7%	60.0%	
(1 1)	180°より大きい角度の測定の仕方	87.5%	80.0%	
(1 2)	長方形(複合)の面積	74.5%	80.0%	
(1 3)	直方体の高さと体積の関係	80.3%	80.0%	
(1 4)	最小公倍数を適用する場面	67.0%	60.0%	
(1 5)	合同な図形の性質	88.6%	80.0%	
(1 6)	合同な三角形	73.0%	70.0%	
(1 7)	資料の分類・整理	72.4%	70.0%	
(1 8)	単位あたりの量	43.2%	60.0%	
(1 9)	伴って変わる量	64.1%	60.0%	
(2 0)	ひし形の性質	79.9%	80.0%	

※—— は設定通過率±10%を示している。

小学校 5年 算数科

小問別反応率



小問別通過率度数分布表 (236校)

は全県平均通過率

通し番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	平均 通過率
100%	54	44	31	51	7	6	10	3	8	9	42	16	17	10	50	18	17	2	6	27	
90～100%	84	74	54	76	7	1	13		16	11	78	17	47	10	79	24	32	2	10	35	3
80～90%	76	71	74	75	21	15	32	11	39	30	81	61	60	49	82	53	59	5	29	77	51
70～80%	18	29	49	24	23	28	34	23	46	49	27	69	56	49	19	58	53	10	48	63	93
60～70%	1	13	14	7	40	62	55	46	54	49	5	46	41	50	4	49	30	30	64	26	77
50～60%	2	4	12	1	64	64	43	64	47	38	2	24	15	42	1	21	27	45	36	6	11
40～50%	1	1	2	1	41	32	31	49	20	27	1	3		17	1	8	7	51	23	1	
30～40%					24	19	8	30	5	10				7		2	7	48	12	1	1
20～30%					9	6	7	7	1	9				2		1	4	33	6		
10～20%				1		2	2	2		2						1		7	2		
0～10%						1	1	1		2						1		3			

小学校5年 算数 調査結果の考察

(1) 設定通過率との比較

※表中の数値は設問数

分類 設定通過率の	観 点 別			領 域 別				計
	考え方	技能	知識・理解	数と計算	量と測定	図 形	数量関係	
＋10% より高い	0	0	0	0	0	0	0	0
±10% の範囲内	4	7	6	7	3	4	3	17
－10% より低い	2	1	0	2	1	0	0	3
計	6	8	6	9	4	4	3	20

(2) 考察

① 全体について

- ア 20問中17問が設定通過率の「±10%の範囲内」にあり、学習状況はおおむね良好である。
- イ 観点別に見ると「数学的な考え方」にやや課題が見られる。

② 成果

- ア 経年で比較している問題13問中9問において平均通過率が向上し、改善が図られている。
- イ 特に、昨年度の課題の「三角形の合同条件」や「図形の性質」に関する問題では、平均通過率が大きく向上しており、多くの学校で昨年度の平均通過率を上回っている。

③ 課題

- ア 倍を求める問題において、問題文から基準量と比較量を捉えて図に表すことができない。
- イ 異種の2量の割合として捉えられる数量を比べる際、2つの数量の間の比例関係に着目し、一方をそろえて他の量で比較することができない。

(3) 今後の指導

- ア 問題場面と図を関連付ける活動を充実させる。

長さが50cmの黄色のテープと、長さが40cmの緑色のテープがあります。黄色のテープの長さが緑色のテープの長さの何倍になるかを求めるとき、図として正しいのは㉑と㉒のどちらですか。正しい記号を選び、黄色のテープの長さが緑色のテープの長さの何倍になるかを求める式を書きましょう。(6)

- ・問題場면을図に表すことができるようにするためには、問題文から「分かっていること」や「求めること」を読み取り、読み取ったことを図にかき加えていく活動を取り入れることが有効である。
- ・特に、「AはBの何倍」といった表現に着目して、基準量と比較量を的確に捉えさせるとともに、基準量を1にした数直線にかくことができるよう図をかく技能を高めたい。

- イ 問題提示を工夫して学習の見通しをもたせ、その見通しを基に考えを比較検討することができるよう、考えの取り上げ方や発問を工夫する。

2つのテントA、Bがあります。右の表は、それぞれのテントのゆかの面積と、中にいる人の数を表しています。A、Bのテントのうち、こんでいるほうを選び、そう考えたわけを書きましょう。(20)

テント	面積 (m ²)	人の数 (人)
A	10	4
B	15	5

- ・また、「ゆかの面積」または「人の数」のどちらかをそろえてから、もう一方の量で比較するといった学習の見通しをもたせたり、式だけを提示して比べ方を解釈させたり、複数の比べ方を比較させて、より一般的で、能率的な比べ方に気付かせたりすることができるよう、問題提示の仕方、考えの取り上げ方や発問を工夫することが大切である。

平成24年度小学校学習状況調査 第6学年 算数 評価規準と評価の観点

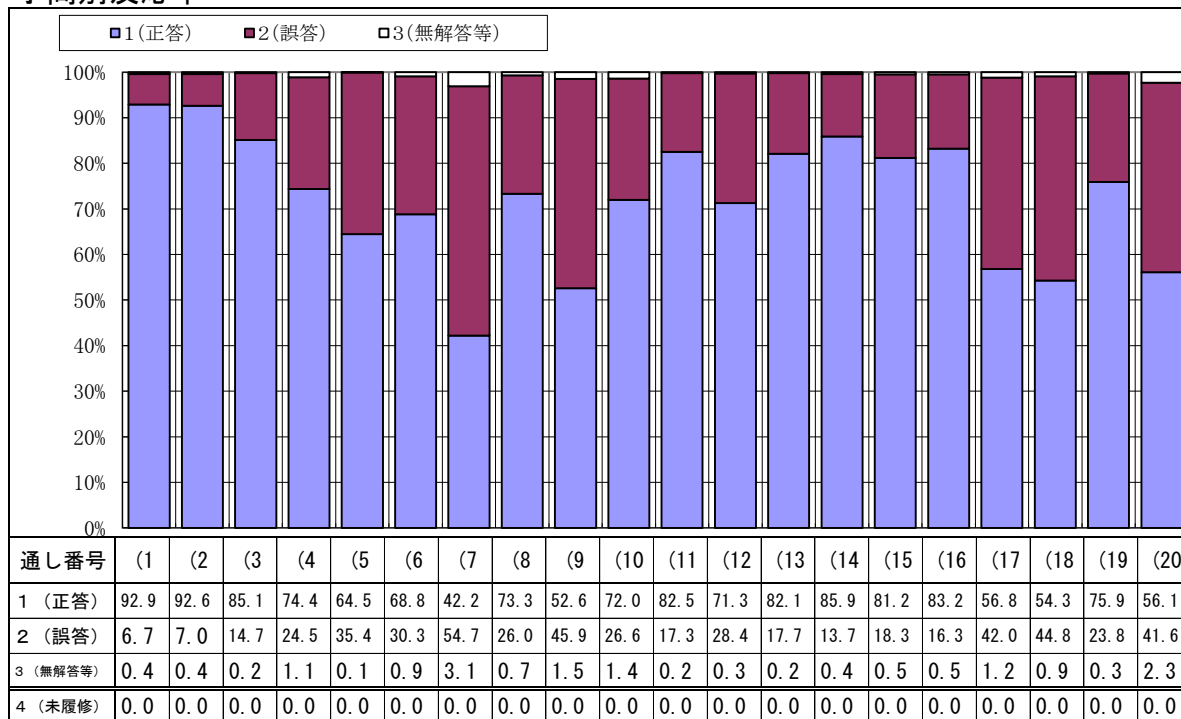
学 年	領 域	内 容	評 価 規 準	通 し 番 号	観 点		
					考 え 方	技 能	知 識 ・ 理 解
小 学 校 第 5 学 年	A 数 と 計 算	(3)ア 小数の乗法，除法	・ 具体的な場面で数量関係を捉えて立式し， 除数が小数となる除法の計算ができる。	(18)	○		
		(4)イウエオ 分数の大小 分数の倍 異分母の分数の 加法，減法	・ 分数の大きさについて理解している。	(3)			○
			・ 示された場面の数量の関係を理解している。	(5)			○
			・ 異分母分数の減法の計算ができる。	(1)		○	
	B 量 と 測 定	(1)ア 図形の面積	・ ひし形の面積を求める式を立てることができる。	(4)			○
			・ 台形と三角形の面積から，必要な部分の長 さを求めることができる。	(8)		○	
		(3)ア 測定値の平均	・ 平均からその集団の個別の値を求めること ができる。	(10)		○	
	C 図 形	(1)アウエ 平面図形の性質	・ 内接する正六角形を基にして円の円周を求 めることができる。	(9)		○	
			・ 多角形の角の大きさの和について，図と式 を関連付けて考えている。	(19)	○		
		(2)ア 立体図形の性質	・ 角柱の展開図を理解している。	(13)			○
小 学 校 第 6 学 年	D 数 量 関 係	(2)数量の関係を表 す式	・ 2つの数量の関係を表す式を選択すること ができる。	(15)			○
		(4)帯グラフ，円グ ラフ	・ 円グラフなどを基に，与えられた考え方が 正しいかどうか説明することができる。	(20)	○		
	A 数 と 計 算	(1)アイ 分数の乗法，除法	・ 分数の乗法が用いられる場面について，数 直線を基に考えることができる。	(6)	○		
			・ 分数の乗法と除法のまじった計算ができる。	(2)		○	
	B 量 と 測 定	(2)ア 円の面積	・ 正方形とおうぎ形の複合図形の面積を求め る式を考えることができる。	(12)	○		
		(4)速さ	・ 具体的な場面で，速さと道のりの関係か ら時間を求めることができる。	(7)	○		
	C 図 形	(1)イ 対称な図形	・ 線対称な図形の対称の軸を理解している。	(11)			○
			・ 点対称な図形をかくことができる。	(16)		○	
	D 数 量 関 係	(3)ア 文字を用いた式	・ 数量の関係を文字を用いて表すことができ る。	(17)		○	
			・ 具体的な場面と，数量の関係を表す文字を 用いた式を関連付けて考えることができる。	(14)	○		

通し 番号	出 題 内 容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0% 50% 100%
(1)	異分母分数の減法	92.9%	80.0%	
(2)	分数の乗法と除法のまじった計算	92.6%	80.0%	
(3)	分数の大きさ	85.1%	80.0%	
(4)	ひし形の面積	74.4%	80.0%	
(5)	数量関係の理解	64.5%	60.0%	
(6)	分数の乗法の場面を数直線に表す	68.8%	70.0%	
(7)	はやさ、道のりから時間を求める	42.2%	70.0%	
(8)	図形の面積の複合問題	73.3%	60.0%	
(9)	正六角形と円の円周	52.6%	80.0%	
(1 0)	測定値の平均	72.0%	70.0%	
(1 1)	線対称な図形の対称の軸	82.5%	80.0%	
(1 2)	複合図形の面積を求める式	71.3%	60.0%	
(1 3)	三角柱の展開図	82.1%	70.0%	
(1 4)	文字を用いた式の読み取り	85.9%	70.0%	
(1 5)	伴って変わる数量の関係を表す式	81.2%	60.0%	
(1 6)	点対称な図形の作図	83.2%	70.0%	
(1 7)	文字を用いた式による表現	56.8%	60.0%	
(1 8)	除数が小数の除法	54.3%	70.0%	
(1 9)	多角形の角の大きさの和	75.9%	70.0%	
(2 0)	グラフの読み取り	56.1%	60.0%	

※ ―― は設定通過率±10%を示している。

小学校 6年 算数科

小問別反応率



※1～3は、4（未履修）を除いた解答類型1～3の合計に対する割合 ※4（未履修）は、全体に対する割合

小問別通過率度数分布表（236校）

は全県平均通過率

通し番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	平均 通過率
100%	79	68	36	13	13	11	3	12	11	12	28	10	18	29	21	32	6	1	24	6	
90～100%	100	116	54	30	12	19		17	6	10	36	8	32	63	39	48	11	4	26	5	5
80～90%	46	44	91	60	34	48	5	56	16	40	92	33	108	97	92	81	23	17	72	8	50
70～80%	7	5	44	56	45	50	9	69	29	79	59	83	61	38	58	54	41	31	48	37	107
60～70%	3	2	9	41	35	49	16	52	35	67	14	60	12	7	20	17	39	44	36	53	63
50～60%	1	1		25	51	32	49	24	53	23	6	28	4	2	6	4	45	65	22	49	10
40～50%			2	10	34	16	54	5	35	4		11	1				31	33	8	46	1
30～40%				1	9	11	53		31		1	3					23	30		17	
20～30%					3		32	1	15								10	7		10	
10～20%							8		5	1							6	3		5	
0～10%							7										1	1			

小学校 6 年 算数 調査結果の考察

(1) 設定通過率との比較

※表中の数値は設問数

分類 設定通過率の	観 点 別			領 域 別				計
	考え方	技能	知識・理解	数と計算	量と測定	図 形	数量関係	
+10% より高い	2	4	2	2	2	2	2	8
±10% の範囲内	3	2	4	3	2	2	2	9
-10% より低い	2	1	0	1	1	1	0	3
計	7	7	6	6	5	5	4	20

(2) 考察

① 全体について

- ア 20問中17問が設定通過率の「±10%の範囲内」または「+10%より高い」ところにあり、学習状況はおおむね良好である。
- イ 観点別に見ると「考え方」や「技能」、領域別に見ると「図形」や「数量関係」にやや課題が見られる。

② 成果

- ア 分数について、異分母分数の減法や乗法と除法が混じった計算などの習熟が図られており、分数の乗法の意味理解についても改善が図られている。
- イ 線対称及び点対称の技能や知識・理解の定着が図られている。
- ウ 具体的な場面と、数量の関係を表す文字を用いた式を関連付けて考えることについて、改善が図られている。

③ 課題

- ア 具体的な場面で、速さと道のりの関係から時間を求めることに課題がある。
- イ 内接する多角形を基にして円の円周を求めることに課題がある。

(3) 今後の指導

- ア 速さと道のり、時間を関連付けて考える学習活動の充実を図る。

時速90km で走る特急電車が120km 進むのに何分かかるでしょうか。答えを求める計算と、答えを の中に書きましょう。(7)

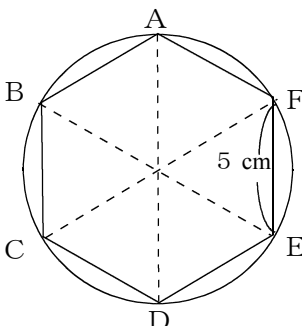
求める計算

答え 分

- ・具体的な場面に当たっては、(道のり) ÷ (速さ) = (時間) という言葉の式を覚えるだけでなく、速さと道のり、時間の関係を数直線や表を用いて考えさせる活動を取り入れ、それらの数量の関係を実感できるようにすることが大切である。
- ・他教科や日常生活で活用できるよう指導したい。

- イ 円に内接する正六角形の辺の長さ半径を関連付けて考える学習活動の充実を図る。

次の図のように、円にぴったり入る正六角形があります。辺 EF の長さが 5 cm のとき、この円の円周の長さは何 cm になりますか。答えを の中に書きましょう。(9)



- ・円周を半径の長さで実際に区切る活動をとおして正六角形がかける理由を考えさせたり、円に内接する正六角形は中心を通る対角線によって6個の合同な正三角形に分割できることを体験させたりすることにより、実感を伴って理解できるよう指導したい。
- ・円と正多角形の関係を、今後の学習に活用できるよう技能的な習熟を図りたい。

平成24年度中学校学習状況調査 第1学年 数学 評価規準と評価の観点

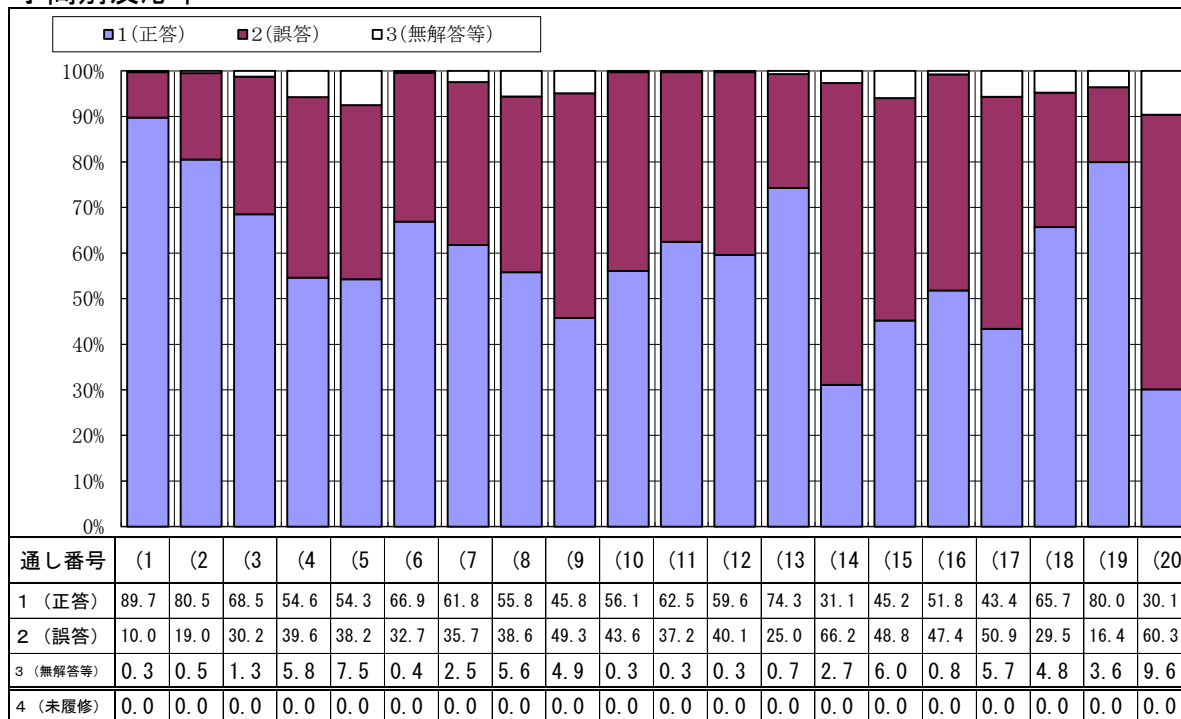
学 年	領 域	内 容	評 価 規 準	通 し 番 号	観 点		
					考 え 方	技 能	知 識 ・ 理 解
小 学 校 第 6 学 年	A 数 と 計 算	(1) アイ 分数の乗法、除法	・ 分数×分数の計算ができる。	(1)		○	
			・ 分数の除法の計算が、どのような場面でどのように用いられるのかを理解している。	(9)			○
	B 量 と 測 定	(3) ア 角柱及び円柱の体積	・ 展開図を基にして、角柱の体積の求め方を考えることができる。	(15)	○		
		(5) メートル法の単位の 仕組み	・ 水の体積と重さの単位の間係を理解している。	(16)			○
	C 図 形	(1) ア 縮図や拡大図	・ 拡大図や縮図の意味を理解している。	(13)			○
			・ 縮図を利用して、実測できないところの長さを求めることができる。	(14)		○	
	D 数 量 関 係	(1) 比	・ 比が分かっている場合に、全体の数量から部分の数量を求めることができる。	(8)		○	
		(2) アウ 比例、反比例	・ 伴って変わる二つの数量の間係について考え、比例と反比例を判断することができる。	(12)	○		
		(5) 起こり得る場合	・ 組み合わせの調べ方について、誤った処理の仕方を指摘することができる。	(19)	○		
中 学 校 第 1 学 年	A 数 と 式	(1) アウ 正の数・負の数	・ 数直線から負の数を読み取ることができる。	(6)		○	
			・ 正の数、負の数の四則計算ができる。	(2)		○	
			・ 数の範囲を自然数から整数に拡張したとき、減法がいつでも可能になることを理解している。	(10)			○
		(2) ウエ 文字と式	・ 1次式の減法の計算ができる。	(3)		○	
			・ 事象の中の数量について、文字を用いて式に表すことを理解している。	(7)			○
			・ 不等号の意味を理解している。	(11)			○
			・ 事象の中の数量間係について考え、文字式と図を関連付けて表現することができる。	(20)	○		
		(3) イウ 一元一次方程式	・ 分数係数の一元一次方程式を解くことができる。	(4)		○	
			・ 一元一次方程式の解を利用して、文字の値を求めることができる。	(5)		○	
			・ 数量の間係を捉え、2通りに表せる数量が分かる。	(17)			○
			・ 一元一次方程式の利用における文章問題の誤りを、適切なものに修正することができる。	(18)	○		

通し 番号	出 題 内 容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0% 50% 100%
(1)	分数×分数の計算	89.7%	90.0%	
(2)	正負の数の四則計算	80.5%	85.0%	
(3)	多項式の減法	68.5%	70.0%	
(4)	分数係数の1次方程式の計算	54.6%	60.0%	
(5)	1次方程式の解を利用した計算	54.3%	60.0%	
(6)	数直線の読み取り	66.9%	70.0%	
(7)	文字を使った数量の表し方	61.8%	60.0%	
(8)	比の利用	55.8%	65.0%	
(9)	分数の除法の演算決定	45.8%	70.0%	
(1 0)	四則計算の可能性	56.1%	70.0%	
(1 1)	不等号の意味	62.5%	90.0%	
(1 2)	比例の識別	59.6%	65.0%	
(1 3)	拡大図や縮図の意味	74.3%	80.0%	
(1 4)	縮尺の利用	31.1%	65.0%	
(1 5)	角柱の体積の求め方	45.2%	70.0%	
(1 6)	水の体積と重さの関係	51.8%	80.0%	
(1 7)	1次方程式の利用	43.4%	60.0%	
(1 8)	1次方程式の問題づくり	65.7%	60.0%	
(1 9)	組み合わせ	80.0%	70.0%	
(2 0)	文字式の読み取り	30.1%	60.0%	

※ ―― は設定通過率±10%を示している。

中学校 1 年 数学科

小問別反応率



小問別通過率度数分布表 (125校)

は全県平均通過率

通し番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	平均 通過率
100%	5	8	5		1	1	3	1		1	1	1	2					1	4		
90～100%	66	23	5	2	1		10	2	1			1	3					2	12		
80～90%	51	49	27	9	3	4	19	3	1	6	8	8	34		1	2	1	10	53		1
70～80%	2	31	31	10	7	35	22	4	10	5	21	19	54	1	1	2	4	24	41	3	14
60～70%		13	28	30	29	58	19	24	14	29	38	37	26	4	10	15	5	54	13	3	33
50～60%	1	1	22	29	41	22	24	57	29	58	36	37	3	6	20	48	22	29	2	6	69
40～50%			5	27	35	4	20	25	31	19	16	16	1	10	51	39	46	3		14	7
30～40%				10	8	1	5	5	23	4	3	2		37	29	15	30	1		30	1
20～30%			1	6			2	3	11	2	2	2	1	52	9	3	14			41	
10～20%								1	4			2		13	3		2	1		23	
0～10%			1	2			1		1	1			1	2	1	1	1			5	

中学校 1 年 数学 調査結果の考察

(1) 設定通過率との比較

※表中の数値は設問数

分類 設定通過率の	観 点 別			領 域 別				計
	見方・考え方	技 能	知識・理解	数と計算 数と式	量と測定	図 形	数量関係	
+10% より高い	0	0	0	0 0	0	0	0	0
±10% の範囲内	3	7	2	1 7	0	1	3	10
-10% より低い	2	1	5	1 4	2	1	0	10
計	5	8	7	2 11	2	2	3	20

(2) 考察

① 全体について

- ア 設定通過率の-10%より低い問題は、昨年度と同様に8問であった。
- イ 設定通過率の-10%より低い問題が小6範囲で9問中6問あり、小学校の学習内容の定着が図られていない。特に、新課程により小6に移行した内容についての課題が顕著である。

② 成果

- ア 分数係数の1次方程式の計算（中2との共通問題）については、改善が図られつつある。
- イ テープ図を用いた分割分数の問題（小4～中1の共通問題）では、改善が図られつつある。

③ 課題

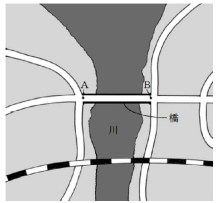
- ア 実測できないところの長さを縮図を利用して求めることに課題が見られる。
- イ 事象の中の数量関係について考え、文字式と図を関連付けて表現することに課題が見られる。

(3) 今後の指導

- ア 縮図や拡大図が日常生活に活用されていることに着目させ、その有用性を実感させる。

- ・縮図や拡大図がコピー機、地図、設計図、顕微鏡による図、写真、映画などに活用されていることに着目させたり、実測では求められない長さを求めさせたりすることを通して、縮図や拡大図についての有用性を実感させたい。
- ・縮図や拡大図を生活に活用する際には、単位換算が必要になることが多い。計算技能の習熟に偏ることなく、求めた長さを見当付けた長さと比較し、答えを見直す場を設定するなど、量感を育みながら学習できるようにすることも大切にしたい。
- ・縮図や拡大図は新課程により中2から小6へ移行した学習内容である。比例式や図形の学習と関連付けながら、効果的な学び直しの機会を年間指導計画に位置付けたい。

次の図は、川にかかっている橋の $\frac{1}{50000}$ の縮図です。ABの長さを定規で測り、実際の橋の長さは何mであるかを求めなさい。（14）

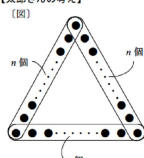


- イ 考えを式や図で表現する活動や図を解釈し言葉や式で表したりする活動の双方を重視する。

- ・文字式は、表現の違いだけではなく、基石の個数を求める考え方の違いを表現しているとみることができる。文字式には自分の思考過程を表現し他者に的確に伝達できるというよさがあることを実感させることが重要である。
- ・立式の場面では、基石の増え方にきまりがあることに気付けるよう、図をかかせて基石の増え方を把握させたり、図から基石のまとまりを見付けさせたりすることを大切にしたい。
- ・考えを共有する際には、基石を線で囲んだ図から式に表す活動や式を読み取り図に表す活動の双方を取り入れ、文字式の意味理解の確実な定着を図りたい。考えを説明する際には、言葉や式のみならず図と関連付けて説明することの意識付けを図ることも大切である。

太郎さんの考えを参考にして、別の求め方が分かるように図の基石を囲み、その説明を言葉や式を使ってかきなさい。（20）

【太郎さんの考え】



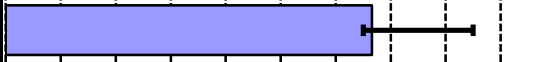
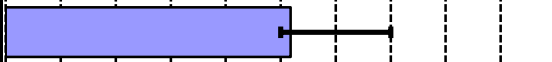
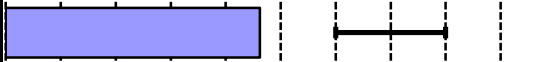
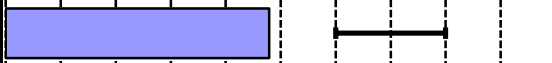
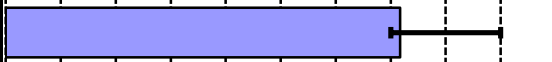
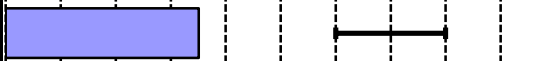
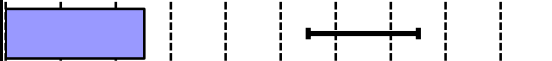
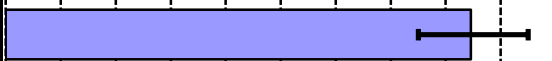
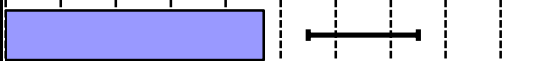
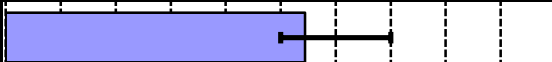
【説明】

左の図で囲んだように、1辺にはn個の基石があります。正三角形は3辺あるので、 $n \times 3 = 3n$ また、3つの角の基石を2回数えたので、その分を引かないといけません。だから、基石は全部で $(3n - 3)$ 個となります。

太郎さん

平成24年度中学校学習状況調査 第2学年 数学 評価規準と評価の観点

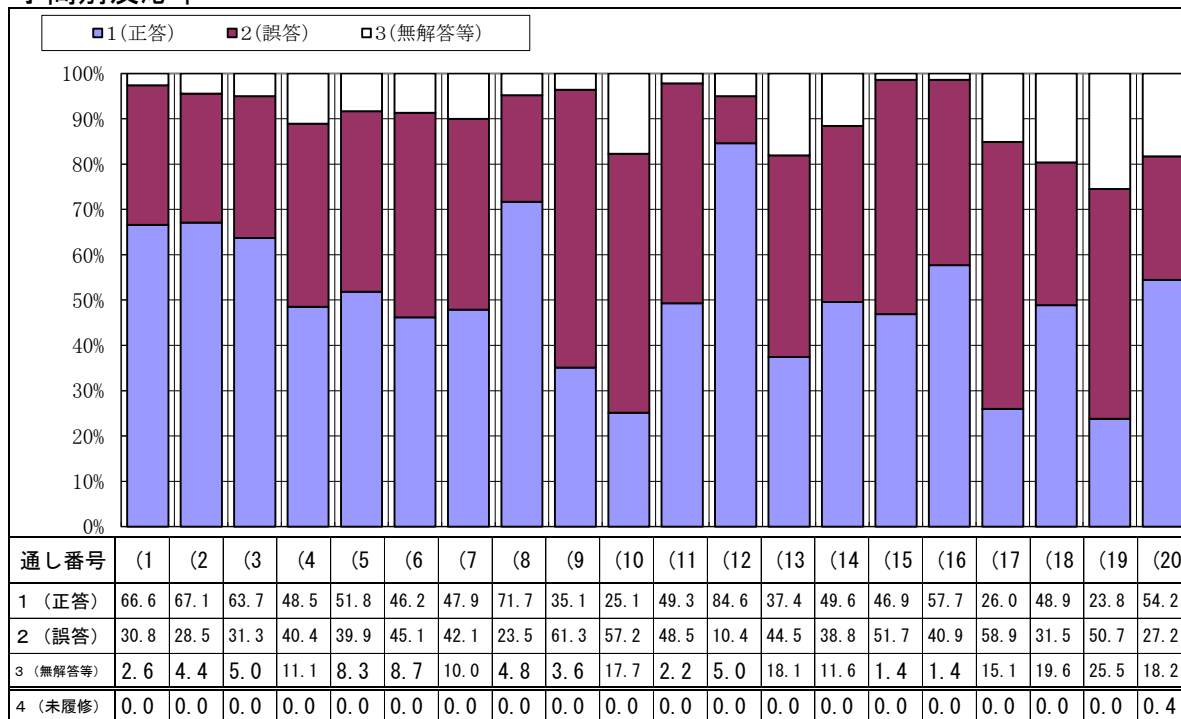
学 年	領 域	内 容	評 価 規 準	通 し 番 号	観 点		
					考 え 方	技 能	知 識・ 理 解
中 学 校 第 1 学 年	A 数 と 式	(2) イウエ 文字と式	・代入して式の値を求めることができる。	(1)		○	
			・一次式の減法の計算をすることができる。	(3)		○	
			・文字を用いて除法の関係を式で表せることを理解している。	(5)			○
		(3) ウ 一元一次方程式	・簡単な一元一次方程式を解くことができる。	(4)		○	
			・問題の中の数量やその関係を文字を用いた式で表すことができる。	(12)		○	
	B 図 形	(1) アイ 平面図形	・回転移動の回転角の意味を理解している。	(9)			○
			・折り目の線が線分の垂直二等分線になることを捉え、正しく作図することができる。	(14)	○		
		(2) イウ 空間図形	・投影図から当てはまる立体を判断し、その立体の体積を求めることができる。	(7)		○	
			・円錐の展開図から、底面の円周の長さを求めることができる。	(13)		○	
	C 関 数	(1) イエ 比例・反比例	・反比例の関係を読み取り、対応する値を求めることができる。	(8)			○
	D 資 料 の 活 用	(1) ア 資料の散らばりと代表値	・代表値の一つである中央値の意味を理解している。	(15)			○
中 学 校 第 2 学 年	A 数 と 式	(1) イウ 式の計算	・等式を目的に応じて変形することができる。	(6)		○	
			・連続する3つの奇数の和が3の倍数になることを、文字を用いた式を使って説明することができる。	(10)	○		
		(2) イウ 連立方程式	・連立方程式を解くことができる。	(2)		○	
			・具体的な事象の中の数量の関係を捉え、連立二元一次方程式をつくることができる。	(17)	○		
	B 図 形	(2) アイウ 合同と図形の性質	・三角形の合同条件を理解している。	(16)			○
			・与えられた証明の方針を読み取り、それに基づいて証明することができる。	(20)	○		
	C 関 数	(1) イエ 一次関数	・一次関数について、表とグラフを相互に関連付けて理解している。	(11)			○
			・事象を数学的に解釈し、グラフと対応させて、時速の求め方を説明することができる。	(18)	○		
			・伴って変わる2つの数量の関係を考察し、その変化や対応の様子を捉えグラフに表すことができる。	(19)	○		

通し 番号	出 題 内 容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0% 50% 100%
(1)	代入と式の値	66.6%	75.0%	
(2)	連立方程式の解き方	67.1%	75.0%	
(3)	多項式の減法	63.7%	70.0%	
(4)	一次方程式の解き方 (分数の形)	48.5%	70.0%	
(5)	文字を使った式	51.8%	60.0%	
(6)	等式変形	46.2%	70.0%	
(7)	投影図から円柱の体積を求める	47.9%	70.0%	
(8)	反比例の意味理解	71.7%	80.0%	
(9)	回転移動の意味理解	35.1%	70.0%	
(1 0)	文字を用いた説明	25.2%	65.0%	
(1 1)	一次関数の意味理解	49.3%	70.0%	
(1 2)	一次方程式の立式	84.6%	85.0%	
(1 3)	おうぎ形の弧の長さ	37.4%	70.0%	
(1 4)	基本の作図	49.6%	70.0%	
(1 5)	資料の活用 (中央値の意味理解)	46.9%	65.0%	
(1 6)	三角形の合同条件	57.7%	65.0%	
(1 7)	連立方程式の利用	26.0%	70.0%	
(1 8)	一次関数の利用 (時速を求める)	48.9%	70.0%	
(1 9)	一次関数の利用 (動点の問題)	23.8%	70.0%	
(2 0)	三角形の合同条件を用いた証明	54.4%	60.0%	

※ ―― は設定通過率±10%を示している。

中学校 2年 数学科

小問別反応率



※1～3は、4（未履修）を除いた解答類型1～3の合計に対する割合

※4（未履修）は、全体に対する割合

小問別通過率度数分布表（125校）

は全県平均通過率

通し番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	平均 通過率
100%								2				7									
90～100%	1	1	4					10				22			2	1					
80～90%	9	12	9	3		1	2	35	2		1	66	1	6	3	4				9	
70～80%	33	40	33	9	9	2	6	30	1	1	1	27		12	6	15	1	5		15	2
60～70%	54	50	38	18	25	16	17	32	1	6	17	2	9	22	10	35	1	19	2	28	12
50～60%	20	19	32	21	46	29	34	11	5	15	40		17	25	30	39	3	37		31	56
40～50%	6	2	8	49	33	38	44	3	21	4	42		32	23	31	25	8	45	3	21	51
30～40%	1			17	10	34	17	1	50	14	19		29	20	27	5	23	15	18	13	3
20～30%		1	1	7	1	4	3	1	39	26	3	1	32	12	14	1	46	3	53	5	
10～20%						1	1		6	40	1		4	3	2		39		37	1	1
0～10%	1			1	1		1			19	1		1	2			4	1	12	1	

中学校2年 数学 調査結果の考察

(1) 設定通過率との比較

※表中の数値は設問数

分類 設定通過率の	観 点 別			領 域 別				計
	見方・考え方	技能	知識・理解	数と式	図形	関数	資料の活用	
+10% より高い	0	0	0	0	0	0	0	0
±10% の範囲内	1	4	3	5	2	1	0	8
-10% より低い	5	4	3	4	4	3	1	12
計	6	8	6	9	6	4	1	20

(2) 考察

① 全体について

- ア 20問中12問が設定通過率の「-10%より低い」ところにあり、基礎的・基本的な学習内容の定着が図られていない。
- イ 観点別に見ると「見方・考え方」や「技能」、領域別に見ると「数と式」や「図形」に課題が見られる。

② 成果

- ア 数量を文字で表すことについては、よくできている。
- イ 証明を記述することについて、改善が図られている。

③ 課題

- ア 一次関数について表と式とグラフを相互に関連付けて捉えることに課題が見られる。
- イ 三角形の合同条件を根拠として利用することに課題が見られる。

(3) 今後の指導

- ア 一次関数について、表・式・グラフを関連付けた学習の充実を図る。

(1) 次の表は、ある1次関数について、 x の値と y の値の関係を表したものです。次のア～オの1次関数のグラフの中から、表にあてはまるものを1つ選んで、その記号を書きなさい。

x	...	-2	-1	...	3	5	...
y	...	-11	-8	...	4	10	...

ア

イ

ウ

エ

オ

(11)

- 一次関数 $y = ax + b$ の直線の傾き a の値は、 x の値が1増加したとき、対応する y の値がどれだけ増加したかを表していること、切片 b の値は $x = 0$ のときの y の値であることを、表・式・グラフと関連付けて確実に理解できるようにする。
- 一次関数の式を基にグラフをかいたり、表やグラフから式を求めたりする中で相互の関連付けを確認したり、説明したりするなどの活動を意図的に設定し、習熟を図りたい。

- イ 三角形の合同条件への意味理解を図るための活動の充実を図る。

(1) 次の三角形と合同な三角形を、下のア～エの中から1つ選び、その記号を書きなさい。

ア

イ

ウ

エ

(16)

- 三角形の合同条件を指導するときには、合同な図形をかく活動を通して、三つの辺や三つの角（計6要素）のうち、三つの要素が必要であることを実感させたい。
- 二つの三角形が合同かどうかを判断するために、辺や角の相等関係を記号や印をつかって表したり、相等関係が二つ分かっているときに、合同になるために必要な残りの一つの相等関係を指摘したりする活動を通して、意味理解を図りたい。

平成24年度小学校学習状況調査 第4学年 理科 評価規準と評価の観点

学 年	領 域	内 容	評 価 規 準	通し 番号	観 点		
					思考 表現	技能	知識 理解
第 3 学 年	A	(4)イ	・磁石同士の間を空けても、引き付けたりしりぞけたりする力が働いている現象を比較して、考察している。	(1)	○		
		(2)イ	・ゴムの伸びと車が動いた距離の関係を基に、ゴムの力を調節する方法を考察し、考えを表現している。	(2)	○		
		(1)イ	・物は、体積が同じでも重さが違うことがあることを理解している。	(3)			○
	B	(2)ア	・虫眼鏡を適切に使って、生物の観察をしている。	(5)		○	
		(3)ア	・日陰の位置の変化と太陽の動きを比較して考察し、考えを表現している。	(6)	○		
		(3)ア	・方位磁針を使い、日陰の位置の変化と太陽の動きを観察している。	(7)		○	
第 4 学 年	A	(3)ア	・乾電池2個を直列につないで回路をつくっている。	(8)		○	
		(3)イ	・光電池に当てる光の強さを変えたときの回路を流れる電流の強さと、その働きを関係付けて考察している。	(9)	○		
	B	(2)イ	・植物の成長の変化と気温の変化を比較して考察し、考えを表現している。	(4)	○		
		(1)イ	・人が体を動かすことができるのは、関節や筋肉の働きによることを理解している。	(10)			○
		(3)ア	・折れ線グラフの値から天気と気温の変化を関係付けて考察し、考えを表現している。	(11)	○		
		(4)ア	・月は1日のうちでも時刻によって位置が変わることを理解している。	(12)			○

※領域のAは「物質・エネルギー」、Bは「生命・地球」を示している。

小学校 4 年 理科 小問別通過率と設定通過率

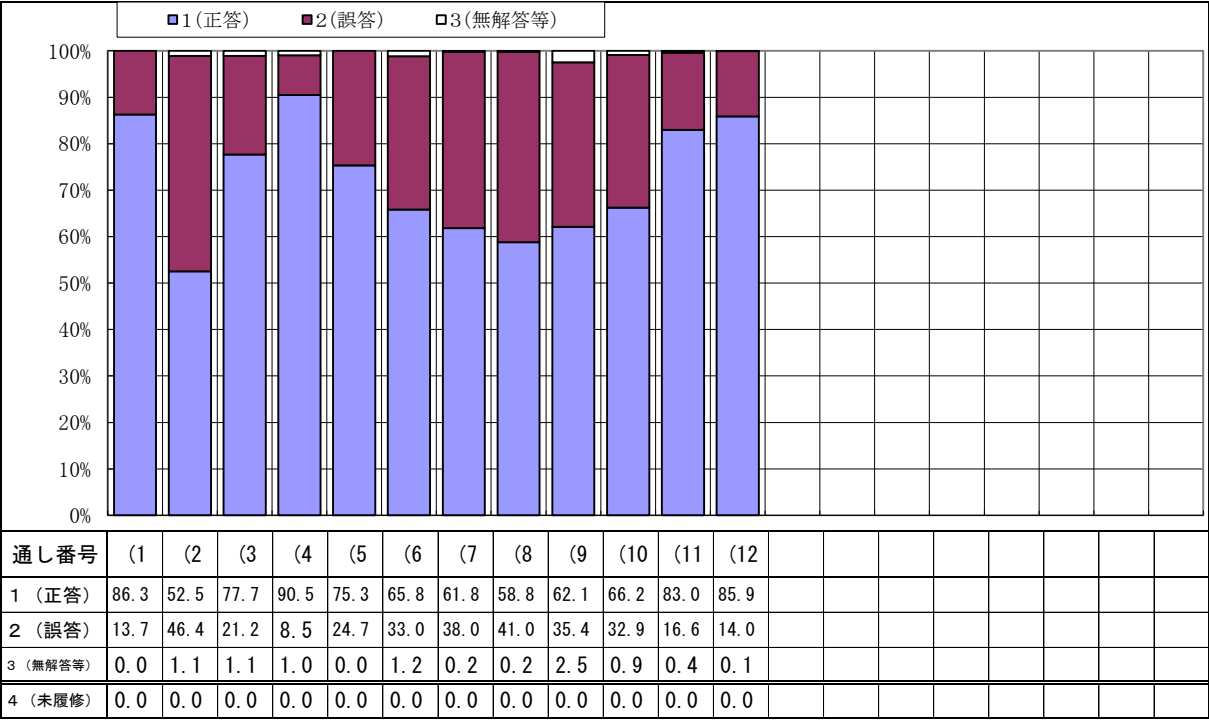
平均通過率 72.2%

通し 番号	出 題 内 容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0% 50% 100%
(1)	磁石の性質	86.3%	85.0%	
(2)	ゴムの働き	52.5%	60.0%	
(3)	物と重さ	77.7%	70.0%	
(4)	季節の変化と植物の成長	90.5%	85.0%	
(5)	虫眼鏡の使い方	75.3%	75.0%	
(6)	太陽の位置とかげのようす	65.8%	70.0%	
(7)	方位磁針の使い方	61.8%	70.0%	
(8)	電気の働き	58.8%	65.0%	
(9)	光電池の働き	62.1%	70.0%	
(1 0)	関節の働き	66.2%	70.0%	
(1 1)	天気と 1 日の気温の変化	83.0%	80.0%	
(1 2)	月の動き方	85.9%	80.0%	

※「——」 は設定通過率±10%を示している。

小学校 4年 理科

小問別反応率



小問別通過率度数分布表 (236校)

は全県平均通過率

通し番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	平均 通過率
100%	55	16	32	76	25	14	10	18	9	13	58	60	
90～100%	66	4	28	88	23	22	8	20	10	17	64	62	14
80～90%	71	25	63	52	62	46	37	22	29	35	55	53	52
70～80%	23	32	64	10	48	31	31	40	44	41	26	43	94
60～70%	14	28	31	6	45	38	49	25	46	59	17	15	54
50～60%	5	31	13	4	25	30	46	40	44	39	6	3	19
40～50%	2	24	2		5	18	31	31	22	19	4		2
30～40%		28	2		3	21	14	23	16	10	2		1
20～30%		26	1			8	8	13	6	2	1		
10～20%		15				6	1	1	6				
0～10%		7				2	1	3	4	1	3		

小学校4年 理科 調査結果の考察

(1) 設定通過率との比較

※表中の数値は設問数

分類 設定通過率の	観 点 別			領 域 別		計
	科学的思考・観	技 能	知識・理解	物質・エネルギー	生命・地球	
＋10% より高い	0	0	0	0	0	0
±10% の範囲内	6	3	3	5	7	12
－10% より低い	0	0	0	0	0	0
計	6	3	3	5	7	12

(2) 考察

① 全体について

ア 全ての問題が設定通過率の「±10%の範囲内」にあり、学習状況はおおむね良好である。

② 成果

ア 観察・実験の結果から考察したことを文で表現する設問は、昨年度の課題であったが、いずれも県平均通過率が上がり指導の改善が図られている。[通し番号(4、(11)]

イ 虫眼鏡の操作については、平成22年度から継続して出題しており、小学校4～6年の共通問題でもある。昨年度よりも県平均通過率が上がり指導の改善が図られている。

③ 課題

ア 電気の働きに関する設問は、いずれも設定通過率を下回っている。乾電池のつなぎ方について適切に図に表したり、光電池に当てる光の強さと回路に流れる電流の強さを関係付けて考察し表現したりすることができるように、指導の手立てを工夫する必要がある。[通し番号(8、(9)]

イ 方位磁針の適切な操作についての技能を確実に習得できるように、初出時の指導の徹底はもちろん、機会を捉えた指導を継続し、定着を図ることが必要である。

(3) 今後の指導

ア 予想や仮説及び考察したことを論理的に説明させるとともに、自分の考えや集団の考えを共有させる指導の手立てを工夫する。

- ・根拠のある予想や仮説をもたせるとともに、電気用図記号（回路図記号）を用いて表現させ、説明するときを使用させる。
- ・実験の結果を「直列つなぎ」「並列つなぎ」というキーワードを使って考察させ、表現させる時間を確保する。
- ・要因を段階的に整理して、考察の視点を明確にする。

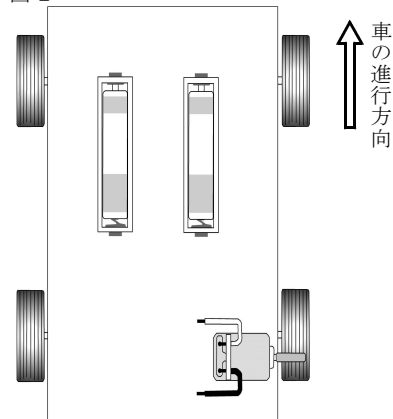
例：「車の速さ」の変化を、「電流の強さ」（要因）を視点として説明させる。次に、「電流の強さ」の変化を、「電池のつなぎ方」（要因）を視点として説明させる。

- ・子どもが考えた2つの乾電池のいろいろなつなぎ方について、考察したことを基に「直列つなぎ」と「並列つなぎ」に分類・整理させる。
- ・子どもの発言を基に、発見したことや疑問に思ったことを、グループや学級全体で話し合い検討する活動を設定する。

【参考 通し番号(8)】

一郎さんは、図1のようなかん電池1個とモーターを使って電気のはたらきで走る車をつくりました。図1の車よりも速く走らせるには、かん電池2個とモーターをどう線でどのようにつなぐとよいですか。車の進行方向を考え、下の図2に線でかきなさい。

図2



平成24年度小学校学習状況調査 第5学年 理科 評価規準と評価の観点

学 年	領 域	内 容	評 価 規 準	通し 番号	観 点		
					思考 表現	技能	知識 理解
第 4 学 年	A	(2)ア	・空気や水は、温めたり冷やしたりすると、その体積が変わることを理解している。	(1)			○
		(1)アイ	・閉じ込めた空気や水の体積変化と空気や水の性質を関係付けて考察し、考えを表現している。	(2)	○		
		(2)イ	・金属は熱せられた部分から順に温まることを理解している。	(3)			○
		(2)イ	・水の温まり方の特徴について、温度変化の様子と関係付けて考察している。	(4)	○		
		(2)ウ	・水を熱したときに出てくるあわは、水蒸気であることを理解している。	(5)			○
		(2)ウ	・加熱器具を安全に操作し、水の状態変化を調べる実験をしている。	(6)		○	
		(2)ア	・金属の温度変化によって起こる現象を体積変化と関係付けて考察し、考えを表現している。	(7)	○		
		(2)ウ	・水の温度が下がり、氷になり始めてから全て氷になるまでの時間をグラフから読み取っている。	(8)	○		
		(2)ウ	・水が氷になると体積が増えることを理解している。	(9)			○
	B	(2)イ	・季節による植物の成長の変化を理解している。	(12)			○
第 5 学 年	B	(1)ア	・種子に含まれている養分を、ヨウ素液などを適切に使って観察している。	(10)		○	
		(1)ウ	・植物の成長について、条件に着目して観察や実験を計画している。	(11)		○	
		(2)ア	・魚の発生や成長の変化を理解している。	(13)			○
		(2)ア	・生まれたばかりの魚の成長に関わる条件を理解している。	(14)			○
		(1)エ	・顕微鏡を適切な手順で操作し、花粉を観察している。	(15)		○	
		(1)エ	・花粉の特徴を捉えるために、顕微鏡を適切に操作し、観察している。	(16)		○	
		(1)エ	・植物の結実までの過程と花のつくりを関係付けて考察し、考えを表現している。	(17)	○		
		(4)ア	・気象情報を集めるため、温度計を適切に操作し、観察している。	(18)		○	
		(4)アイ	・雲の動きと雨量情報を関係付けて捉え、考察している。	(19)	○		
第3 学年	B	(2)ア	・虫眼鏡を適切に使って、生物の観察をしている。	(20)		○	

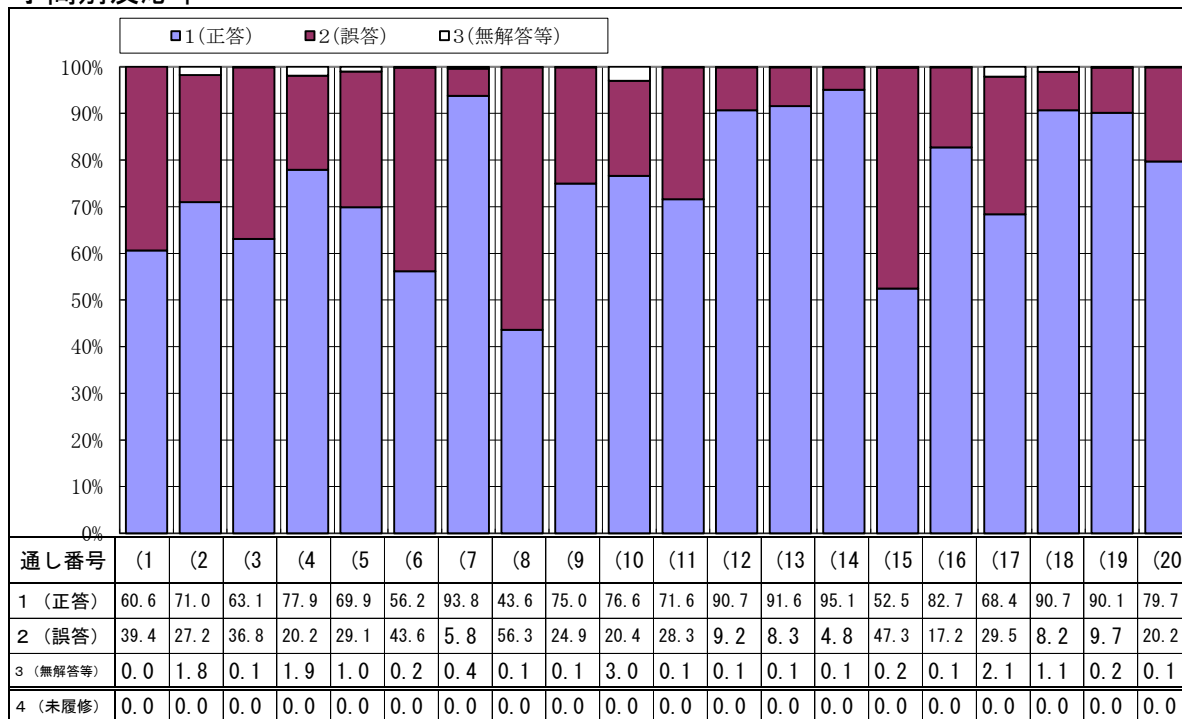
※領域のAは「物質・エネルギー」、Bは「生命・地球」を示している。

通し 番号	出 題 内 容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0% 50% 100%
(1)	空気と水の温度による体積変化	60.6%	65.0%	
(2)	閉じこめた空気や水に力を加えたときの性質	71.0%	70.0%	
(3)	金属の温まり方	63.1%	70.0%	
(4)	水の温まり方の違い	77.9%	75.0%	
(5)	水の状態変化	69.9%	70.0%	
(6)	水を熱するときの適切な操作	56.2%	60.0%	
(7)	金属をあたためたときの性質	93.8%	85.0%	
(8)	水が状態変化したときの温度変化	43.6%	60.0%	
(9)	水が状態変化したときの体積変化	75.0%	75.0%	
(1 0)	インゲンマメの発芽と養分	76.6%	75.0%	
(1 1)	インゲンマメの成長に必要な条件を調べる実験計画	71.6%	70.0%	
(1 2)	季節による植物の成長の変化	90.7%	85.0%	
(1 3)	メダカの成長	91.6%	85.0%	
(1 4)	生まれたてのメダカの養分	95.1%	85.0%	
(1 5)	顕微鏡の操作手順	52.5%	60.0%	
(1 6)	顕微鏡の適切な操作	82.7%	80.0%	
(1 7)	受粉と結実	68.4%	70.0%	
(1 8)	気温測定のための温度計の適切な操作	90.7%	85.0%	
(1 9)	気象情報の活用	90.1%	80.0%	
(2 0)	虫眼鏡の使い方	79.7%	75.0%	

※「——」は設定通過率±10%を示している。

小学校 5年 理科

小問別反応率



小問別通過率度数分布表 (236校)

は全県平均通過率

通し番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	平均 通過率
100%	7	12	11	28	16	13	86	4	20	28	9	61	58	92	9	28	19	54	52	21	
90～100%	7	19	15	35	15	20	113	4	39	35	16	94	98	116	3	46	37	90	89	38	10
80～90%	33	55	29	67	44	21	30	19	55	61	50	64	72	23	17	87	48	69	83	84	74
70～80%	41	64	43	55	61	21	6	16	59	51	61	9	6	3	34	49	38	17	9	45	106
60～70%	51	40	44	26	63	26	1	20	28	29	56	6	1	2	29	16	26	4	3	32	40
50～60%	56	26	42	17	20	39		50	20	17	33	2			58	8	22			10	5
40～50%	18	15	24	7	8	51		37	7	8	8				34	2	20	2		2	1
30～40%	13	3	18		7	15		34	6	5	2				23		11			1	
20～30%	7	2	8	1	2	18		25	2	1	1		1		21		6			3	
10～20%	2		1			5		17		1					6		8				
0～10%	1		1			7		10							2		1				

小学校 5 年 理科 調査結果の考察

(1) 設定通過率との比較

※表中の数値は設問数

分類 設定通過率の	観 点 別			領 域 別		計
	科学的思考・表現	技 能	知識・理解	物質・エネルギー	生命・地球	
+10% より高い	1	0	1	0	2	2
±10% の範囲内	4	7	6	8	9	17
-10% より低い	1	0	0	1	0	1
計	6	7	7	9	11	20

(2) 考察

① 全体について

- ア 20問中19問が設定通過率の「+10%より高い」または「±10%の範囲内」にあり、学習状況はおおむね良好である。
- イ 「科学的な思考・表現」の設問のうち、解答を文で記述する設問の通過率の平均は77.8で、昨年の61.8を大きく上回り、指導の改善が図られている。

② 成果

- ア 「知識・理解」の設問は、通過率の平均が76.0であり、学習内容の定着が図られている。
- イ 通し番号(2や(4、(17のように、問題文中の条件に従って解答を文で記述する設問の通過率の平均は72.4であり、指導の改善が図られている。

③ 課題

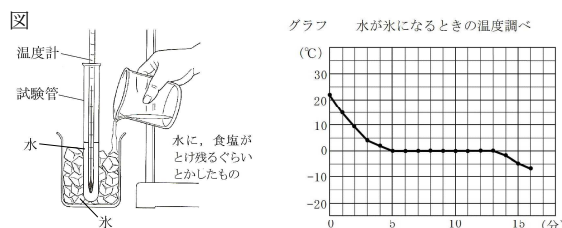
- ア 実験の結果である温度変化のグラフと水の状態を関係付けて考察することに課題がある〔通し番号(8)〕。温度変化をグラフに記録させるだけでなく、温度の変化に合わせて水の状態の変化をじっくり観察させるなど、指導の手立てを工夫する必要がある。
- イ 顕微鏡を正しい手順で操作することに課題がある〔通し番号(15)〕。観察・実験に用いる器具の基本操作については、機会を捉えて繰り返し指導し、定着を図ることが必要である。

(3) 今後の指導

- ア 観察・実験の結果をグラフで表し、その結果を基に考察する学習活動において、指導の手立てを工夫する。

〔参考 通し番号(8)〕

図のように、試験管の中の水が氷になるときの温度について調べました。グラフは、このときの温度の変わり方を記録したものです。



- ・観察・実験の結果のみの記録にならないよう、温度変化と物質の状態を関係付けて記録できるよう指導する。

※指導の例

「試験管の中の水の様子は、時間が経つとどのように変化するかを観察して記録しよう」

「温度の変化の仕方が変わったとき、試験管の中の水の様子がどうなっているか記録しよう」 など

- ・観察・実験の結果をグラフで表した後、学級全体で確認し、実験の結果の意味を捉え、的確な考察につなげる視点を明確にして発問する。

※視点の例

「温度が変化せずグラフが平らになっているところでは、水はどんな状態か」

「温度の変化の仕方について、各グループの結果に共通していることは何か」

「温度の変化の仕方には、きまりがあるか」 など

平成24年度小学校学習状況調査 第6学年 理科 評価規準と評価の観点

学 年	領 域	内 容	評 価 規 準	通 し 番 号	観 点		
					思考 表現	技能	知識 理解
第 5 学 年	A	(2)ア	・振り子の運動の変化とその要因について予想したことを基に、条件に着目して実験を計画し、表現している。	(1)	○		
		(2)ア	・振り子の運動の周期を決める要因を理解している。	(2)			○
		(1)ア	・器具を適切に操作して、正しい方法で水をはかり取っている。	(5)		○	
		(1)イ	・物が溶ける量を、水の温度や水の量と関係付けて考察している。	(6)	○		
		(3)イ	・電磁石の強さの変化とその要因について予想したことを基に、条件に着目して実験を計画し、表現している。	(9)	○		
		(3)ア	・電磁石の特徴を日常生活の中で用いられているものに当てはめて考察し、考えを表現している。	(10)	○		
	B	(3)イ	・川の上流と下流によって川原の石の大きさや形に違いがあることを理解している。	(3)			○
		(3)イ	・流れる水の速さと土地の変化を関係付けて考察し、考えを表現している。	(4)	○		
		(2)ウ	・胎児が母体内で成長していく過程を理解している。	(7)			○
		(2)ウ	・胎児は母親からへそのおを通して養分をもらっていることを理解している。	(8)			○
第 6 学 年	A	(1)ア	・物の燃焼と空気の変化を関係付けながら、物の燃焼の仕組みについて推論し、考えを表現している。	(13)	○		
		(1)ア	・モデル図の気体の粒の個数の変化と、物が燃えるとき酸素が使われ二酸化炭素ができることを関係付けて理解している。	(14)			○
	B	(1)エ	・体内には、生命を維持するための様々な臓器があることを理解している。	(11)			○
		(1)イ	・だ液の働きによってでんぷんが変化することを理解している。	(12)			○
		(2)イ	・植物に着色した水を吸わせ、水の行方について適切に調べ、その過程や結果を記録している。	(15)		○	
		(2)イ	・根、茎及び葉には決まった水の通り道があることを理解している。	(16)			○
		(3)ア	・実験結果から、植物は日光が当たると二酸化炭素を取り入れ、酸素を出していることを推論し、考えを表現している。	(17)	○		
		(5)ア	・月の輝いている側に太陽があることを理解している。	(19)			○
		(5)ア	・方位磁針を適切に使って、月の方位を調べている。	(20)		○	
		(2)ア	・虫眼鏡を適切に使って、生物の観察をしている。	(18)		○	
第3 学年	B	(2)ア	・虫眼鏡を適切に使って、生物の観察をしている。	(18)		○	

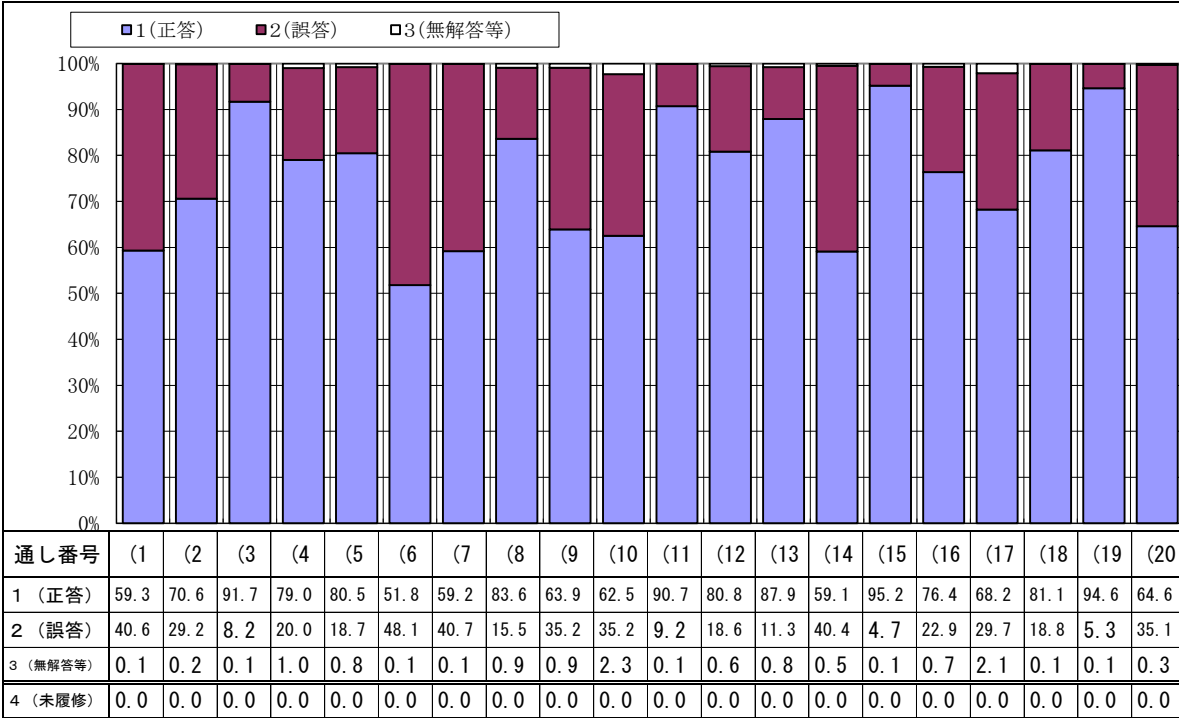
※領域のAは「物質・エネルギー」、Bは「生命・地球」を示している。

通し 番号	出 題 内 容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0% 50% 100%
(1)	振り子の規則性を調べる実験の計画	59.3%	65.0%	
(2)	振り子の規則性	70.6%	70.0%	
(3)	川の流域と川原の石の変化	91.7%	85.0%	
(4)	流れる水の速さと働きの関係	79.0%	80.0%	
(5)	メスシリンダーの目盛りの読み取り	80.5%	80.0%	
(6)	物の溶け方の規則性	51.8%	60.0%	
(7)	人の発生の仕方	59.2%	65.0%	
(8)	母体内での人の養分の取り方	83.6%	85.0%	
(9)	電磁石の働きを調べるための条件設定	63.9%	70.0%	
(1 0)	身の回りにある電磁石の特徴を利用した物	62.5%	65.0%	
(1 1)	体内の様々な臓器	90.7%	85.0%	
(1 2)	だ液の働き	80.8%	75.0%	
(1 3)	物の燃焼の仕組み	87.9%	80.0%	
(1 4)	物の燃焼と空気の変化	59.1%	65.0%	
(1 5)	植物の体内の水の通り道を調べる方法	95.2%	85.0%	
(1 6)	植物の体内の水の行方	76.4%	80.0%	
(1 7)	生き物と空気とのかかわり	68.2%	70.0%	
(1 8)	虫眼鏡の使い方	81.1%	75.0%	
(1 9)	月の形の変化	94.6%	85.0%	
(2 0)	方位磁針の使い方	64.6%	70.0%	

※ は設定通過率±10%を示している。

小学校 6年 理科

小問別反応率



小問別通過率度数分布表 (236校)

は全県平均通過率

通し番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	平均 通過率
100%	9	17	71	21	40	8	6	45	15	10	53	27	55	8	84	22	10	20	85	14	
90～100%	19	20	93	43	70	4	3	49	26	13	96	39	88	4	128	29	6	45	110	15	8
80～90%	33	60	60	72	44	12	12	82	61	30	72	80	63	22	19	76	42	77	36	37	77
70～80%	31	57	11	61	37	29	28	32	42	46	11	52	17	28	5	56	59	53	5	39	109
60～70%	39	40		25	19	31	61	17	18	51	3	24	5	66		35	63	25		43	38
50～60%	35	19	1	11	9	58	81	10	15	48	1	12	7	52		14	31	13		46	3
40～50%	31	13		3	7	41	32	1	7	30		1		36		3	14	2		21	1
30～40%	28	8			6	36	10		7	7			1	12		1	7	1		16	
20～30%	8	2			4	14	1		15			1		6			4			4	
10～20%	3					3	2		13	1				2						1	
0～10%									17												

小学校 6 年 理科 調査結果の考察

(1) 設定通過率との比較

※表中の数値は設問数

分類 設定通過率の	観 点 別			領 域 別		計
	科学的思考・観	技 能	知識・理解	物質・エネルギー	生命・地球	
+10% より高い	0	1	0	0	1	1
±10% の範囲内	7	3	9	8	1 1	1 9
-10% より低い	0	0	0	0	0	0
計	7	4	9	8	1 2	2 0

(2) 考察

① 全体について

ア 全ての設問が設定通過率の「+10%より高い」または「±10%の範囲内」にあり、学習状況はおおむね良好である。

② 成果

ア 昨年度の課題として出題した通し番号(2と(12は、昨年度の通過率を約22ポイント上回っており、指導の改善が図られている。

③ 課題

ア 通し番号(6や(14のように、観察・実験の結果を図やグラフに整理して考察する設問の通過率が低い。特に(6については、指導の手立てを見直し、一層の定着を図る必要がある。

イ 自然の事物・現象の変化とその要因について予想したことを基に、条件に着目して実験を計画する設問の通過率が低い。表などを用い、条件制御の観点を明確にして実験を計画することができるよう、指導の工夫改善を図る必要がある。

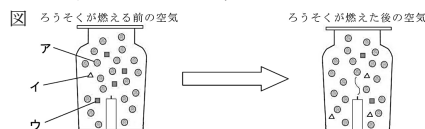
(3) 今後の指導

ア 観察・実験の結果を表やグラフなどに表し、それらを用いて科学的な言葉や概念を使用し考えたり説明したりする学習活動において、指導の手立てを工夫する。

【参考 通し番号(14】

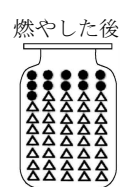
図は集気びんの中の空気の様子を表したもので、●, △, ○は空気中の酸素、二酸化炭素、ちっ素のいずれかを示しています。ろうそくが燃えた後の集気びんに石灰水を入れてよくふると、白くにごりました。このような変化が起きたのは、ア～ウのどの気体が関係していますか。

1つ選んで、記号と気体の名前をそれぞれ□の中に書きなさい。



(例1) わたしは物が燃えると集気びんの中の酸素は全てなくなっていると考えました。

○：酸素、△：ちっ素
●：二酸化炭素



- ・モデル図などを用いて自分の考えを顕在化させ、空気の質的な変化に意識が向くように視点を明確にして話し合わせ、実験の前に見通しをもたせる。(例1)
- ・気体検知管を使った実験の結果を表などに整理し、結果から情報を読み取らせたり、結果を根拠に考えさせたりする問いかけをし、的確な考察につながるようにする。

① 結果から情報を読み取らせる問いかけの例

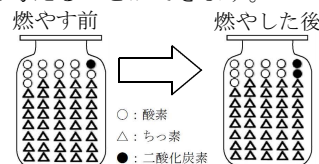
「物を燃やす前と燃やした後の酸素と二酸化炭素の割合はどのように変化していますか。」

② 結果を根拠に考えさせる問いかけの例

「物が燃えるときには、集気びんの中の酸素が全て使われるのでしょうか。実験の結果を基に理由を説明しましょう。」

- ・実験の結果を基に自分の考えを見直し、空気の質的な変化をモデル図や文を用いて表現させ、それらを用いて説明させる。(例2)

(例2) 物が燃えると酸素は全て使われると思っていましたが、酸素はまだ残っています。集気びんの中の空気を粒で表すと、酸素や二酸化炭素が次のように変化したと考えることができます。



このことから、物が燃えるときには、空気中の酸素の一部が使われて二酸化炭素ができるといえます。また、燃やした後のびんの中の空気は、酸素の割合が少なくなり、物を燃やす働きがなくなることがわかりました。

平成24年度中学校学習状況調査 第1学年 理科 評価規準と評価の観点

学 年	領 域	内 容	評 価 規 準	通し 番号	観 点		
					思考 表現	技能	知識 理解
小 学 校 第 6 学 年	B	(1)イ	・だ液の働きによって、でんぷんが変化することを理解している。	(1)			○
		(3)ア	・生物は空気を通して周囲の環境と関わって生きていることを理解し、適切に表現している。	(2)	○		
		(3)イ	・食べ物を通して生物が関わり合って生きていることを理解している。	(3)			○
	A	(4)ウ	・電熱線の発熱は、太さによって変わることを理解している。	(4)			○
		(4)ア	・コンデンサーに同じ量の電気を蓄えるための条件統一の方法を理解し実験している。	(5)		○	
		(4)エ	・実験結果から、発光ダイオードより豆電球の方が消費電力が多いことを説明している。	(6)	○		
		(2)ウ	・鉄を塩酸に溶かした液から出てくる物質ともとの鉄とを比較する方法を考察している。	(7)	○		
		(2)ウ	・水溶液には、金属を別の物質に変化させるものがあることを理解している。	(8)			○
		(3)イ	・てこがつり合う条件を理解している。	(9)			○
		(3)ウ	・てこの規則性を身の回りの道具と関連付けて考えている。	(10)	○		
中 学 校 第 1 学 年	化学 的 領 域	(2)ア (イ)	・気体の性質と発生方法について理解している。	(11)			○
		(2)ア (イ)	・空気より密度が小さい気体を適切に捕集する技能を身に付けている。	(12)		○	
		(2)ウ (イ)	・融点と沸点から、ある温度の物質の状態を推定している。	(13)	○		
		(2)ウ (イ)	・物質の沸点の違いを利用して物質を取り出す方法が、蒸留であることを理解している。	(14)			○
		(2)ウ (ア)	・水の状態変化における、質量、体積、密度の関係を理解し、氷が水に浮く理由を説明している。	(15)	○		
	生物 的 領 域	(1)ア (ア)	・ルーペの正しい操作の技能を身に付けている。	(16)		○	
		(1)イ (ア)	・ツツジの花のつくりを分解した図から、花のつくりの共通点や規則性を的確に捉え、考察している。	(17)	○		
		(1)イ (イ)	・植物が蒸散する水の量について、実験結果を基に推論し、考えを表現している。	(18)	○		
		(1)ウ (イ)	・シダ植物とコケ植物の特徴を理解している。	(19)			○
		(1)ウ (ア)	・植物の特徴を基にして分類の観点を考察し、観察の計画を立てている。	(20)	○		

※領域のAは「物質・エネルギー」、Bは「生命・地球」を示している。

中学校 1 年 理科 小問別通過率と設定通過率

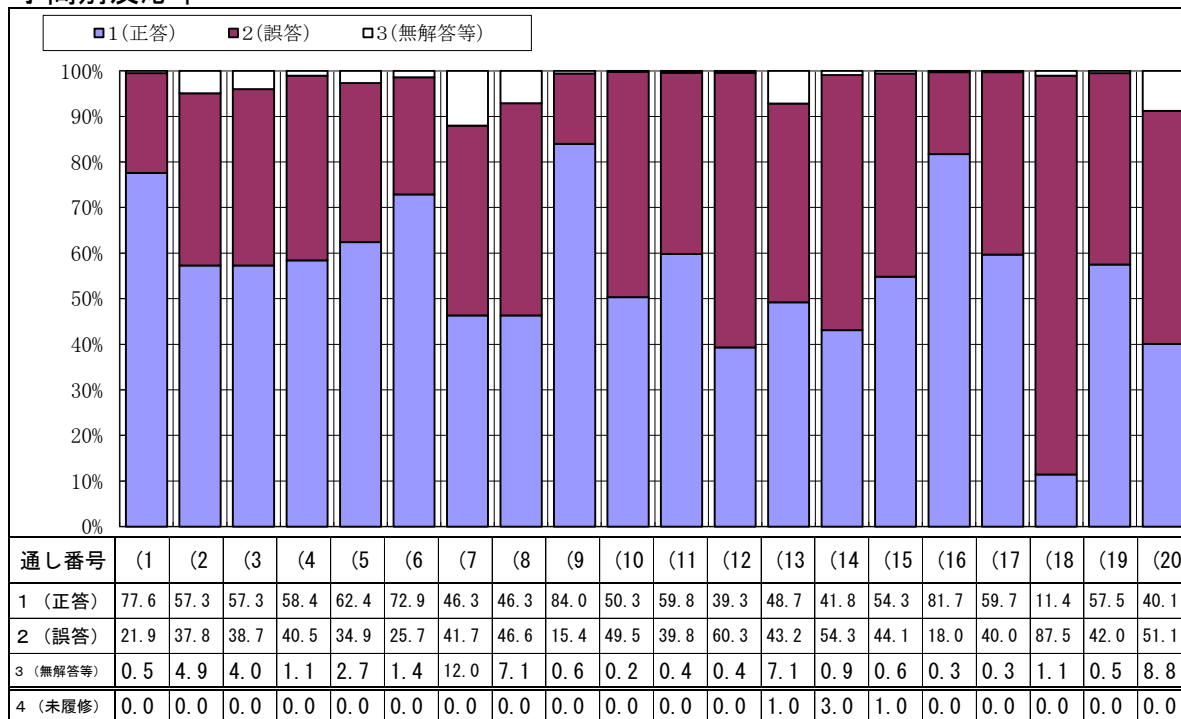
平均通過率 55.5%

通し 番号	出 題 内 容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0% 50% 100%
(1)	だ液の働き	77.6%	75.0%	
(2)	生物と空気の関わり	57.3%	65.0%	
(3)	生物の食う食われるの関係	57.3%	65.0%	
(4)	電熱線の太さと発熱の仕方	58.4%	65.0%	
(5)	手回し発電機の使い方	62.4%	70.0%	
(6)	発光ダイオードの利点	72.9%	75.0%	
(7)	物質を見分ける方法	46.3%	70.0%	
(8)	塩酸のはたらき	46.3%	70.0%	
(9)	てこの原理	84.0%	85.0%	
(1 0)	てこを使った道具	50.3%	65.0%	
(1 1)	気体の性質と発生方法	59.8%	75.0%	
(1 2)	空気より軽い気体の捕集方法	39.3%	75.0%	
(1 3)	物質の状態と温度	49.2%	65.0%	
(1 4)	蒸留	43.1%	70.0%	
(1 5)	状態変化における質量, 体積, 密度	54.8%	70.0%	
(1 6)	ルーペの正しい操作	81.7%	85.0%	
(1 7)	花のつくり	59.7%	65.0%	
(1 8)	蒸散する部分	11.4%	60.0%	
(1 9)	シダ植物とコケ植物のからだのつくり	57.5%	65.0%	
(2 0)	被子植物の分類	40.1%	65.0%	

※ ―― は設定通過率±10%を示している。

中学校 1 年 理科

小問別反応率



小問別通過率度数分布表 (125校)

は全県平均通過率

通し番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	平均 通過率
100%	3	1		3	2	4	1	2	7		2	1	1	3	2	5					
90～100%	13		9	7	6	12	1	3	22		1				1	21			3	1	
80～90%	31	8	17	14	25	31	1	6	68	1	9		3	2	5	51	4	2	11	3	
70～80%	53	13	27	15	22	39	3	3	23	10	13	5	9	3	6	28	9		19	3	9
60～70%	21	34	14	22	20	29	20	10	2	15	39	6	22	7	21	13	45		20	16	28
50～60%	4	38	11	26	8	6	26	18	1	43	27	18	31	23	48	4	43	4	27	14	63
40～50%		25	16	18	12	3	38	41	1	32	22	27	25	33	31		21	3	24	20	23
30～40%		6	14	15	19	1	28	31		17	7	32	21	30	6	2	2	5	10	34	1
20～30%			12	2	9		7	8		5	5	22	8	14	1	1		5	7	25	1
10～20%			3	2	2			1		1		11		5	1			28	3	6	
0～10%			2	1				2	1	1		3	3	3	1		1	78	1	3	

中学校 1 年 理科 調査結果の考察

(1) 設定通過率との比較

※表中の数値は設問数

分類 設定通過率の	観 点 別			領 域 別				計
	科学的思考・観	技 能	知 識 ・ 理 解	慣性・エネルギー	生命・地球	化学	生物	
+10% より高い	0	0	0	0	0	0	0	0
±10% の範囲内	3	2	5	4	3	0	3	10
-10% より低い	6	1	3	3	0	5	2	10
計	9	3	8	7	3	5	5	20

(2) 考察

① 全体について

ア 平均通過率は昨年度より約 4 ポイント低くなっており、設定通過率を約 15 ポイント下回っている。大きく下回っている中学校の学習内容に係る問題を中心に指導の改善を図る必要がある。

② 成果

ア 昨年度の課題として出題した問題は、8 問中 7 問が昨年度の通過率を上回り、それらの問題の通過率の平均も昨年度の 59.3 から 66.8 となり、指導の改善が図られている。

③ 課題

ア 観察・実験の技能は定着しているが、なぜそのように操作等を行う必要があるのかという根拠をもって説明するまでには至っていない。

イ 観察・実験の結果から分かることや観察・実験の方法を検討し改善して計画を立てることなど、文で表現する設問の通過率が依然として低い。科学的な概念を用いて表現したことを互いに検討し合う活動を日常的に設定するなど、指導の手立てを一層工夫する必要がある。

(3) 今後の指導

ア 観察・実験の計画を立てる際には、物質の性質等と関係付けて考えさせるような指導の手立てを工夫する。

- ・調べた結果を表に整理し、各観点ごとの共通点や相違点について考察させる学習を展開する。
- ・通し番号(12)の設問において、捕集方法を選択させる際には、気体の性質と関係付け、根拠を示した上で判断させることが大切である。

[参考 通し番号(12)]

	気体 A	気体 B	気体 C
におい	なし	刺激臭	なし
水へのとけ方	とけにくい	よくとける	少しとける
密度(空気と比較して)	小さい	小さい	大きい

○気体 A～C のうち、図のような方法で集められる気体はどれですか。



イ 観察・実験の結果から分かることを、科学的な言葉や概念を用いて考えたり、別の視点で説明したりするような言語活動を充実させる。

- ・観察の結果をグループや学級全体で共有させるとともに、一人一人が考察したことを交流させ、事象に対する様々な視点での気付きを大切にする学習を展開する。
- ・通し番号(20)の設問において、得られた情報を整理し、これらの特徴をもつ植物の仲間には他にどのような特徴があるかを話し合わせるなど、視点を変えて考えさせることが大切である。その際、その特徴を確かめるための計画を立てさせるなど、観察・実験の方法等を検討し改善する学習活動も取り入れる。

[参考 通し番号(20)]

[ある植物の特徴]

- ・アサガオやアブラナと同じように、子葉は 2 枚。
- ・根は主根と側根。

○これらの特徴から、この植物は双子葉類の仲間と考えられます。このように判断するためには、どのようなことを確かめればよいですか。

平成24年度中学校学習状況調査 第2学年 理科 評価規準と評価の観点

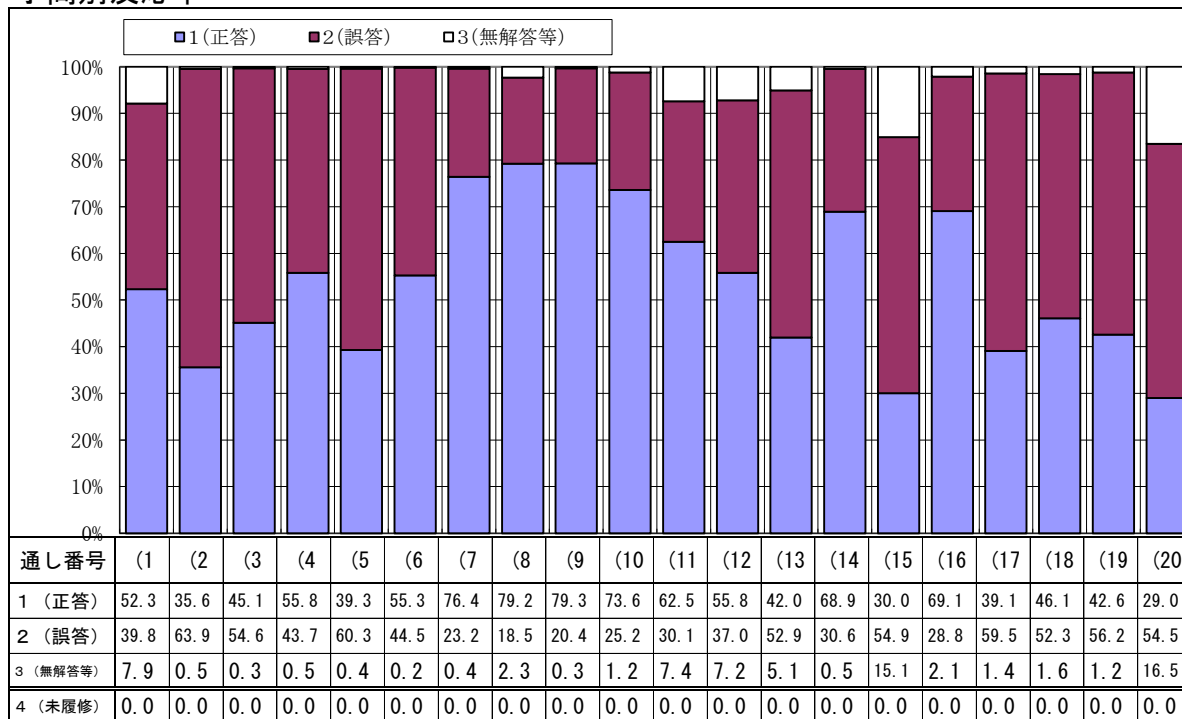
学 年	領 域	内 容	評 価 規 準	通 し 番 号	観 点		
					思考 表現	技能	知識 理解
第 1 学 年	化 学 的 領 域	(2)ウ (イ)	・融点と沸点から、ある温度の物質の状態を推定している。	(1)	○		
		(2)ウ (イ)	・物質の沸点の違いを利用して物質を取り出す方法が、蒸留であることを理解している。	(2)			○
		(2)ウ (ア)	・水の状態変化における、質量、体積、密度の関係を理解し、氷が水に浮く理由を説明している。	(3)	○		
		(2)ア (イ)	・気体の性質と発生方法について理解している。	(4)			○
		(2)ア (イ)	・空気より密度が小さい気体を適切に捕集する技能を身に付けている。	(5)		○	
	地 学 的 領 域	(2)ア (ア)	・火山岩と深成岩の特徴や成因について理解している。	(6)			○
		(2)ア (ア)	・火山噴出物の観察における基本操作を身に付けている。	(7)		○	
		(2)イ (ア)	・地層の重なり方の規則性を見だし、地層の広がりやを推定している。	(8)	○		
		(2)イ (ア)	・チャートと石灰岩を区別する方法を理解している。	(9)			○
		(2)イ (ア)	・風による火山灰の広がり方と火山灰の厚さを関係付けて、複数の観測地点と火山の位置関係を推定している。	(10)	○		
第 2 学 年	化 学 的 領 域	(4)ウ (イ)	・金属の粉末を酸化する実験における基本操作を身に付けている。	(11)		○	
		(4)ウ (イ)	・物質の酸化による質量変化を示した表を基に、実験結果を適切にグラフに表している。	(12)		○	
		(4)イ (ア)	・化学変化における粒子の結び付きについて、化学反応式を基に推定している。	(13)	○		
		(4)ア (ア)	・液体が水かどうかを確かめる方法を理解している。	(14)			○
		(4)ウ (ア)	・反応する物質の質量についての関係を見だし、生成する物質の質量を推定している。	(15)	○		
	生 物 的 領 域	(3)イ (ア)	・ヨウ素－デンプン反応やベネジクト液による糖の検出方法を理解し、実験結果の記録の仕方を身に付けている。	(16)		○	
		(3)イ (ア)	・だ液の働きを確かめるための対照実験の方法について考えている。	(17)	○		
		(3)イ (ア)	・小腸から吸収された養分のゆくえについて理解している。	(18)			○
		(3)ウ (ア)	・体のつくりの特徴を基に動物を推定し、観点に基づいて分類している。	(19)	○		
第1 学年		(1)ウ (ア)	・植物の特徴を基にして分類の観点を考察し、観察の計画を立てている。	(20)	○		

通し 番号	出 題 内 容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0%50%100%
(1)	物質の状態と温度	52.3%	65.0%	
(2)	蒸留	35.6%	70.0%	
(3)	状態変化における質量, 体積, 密度	45.1%	70.0%	
(4)	気体の性質と発生方法	55.8%	75.0%	
(5)	空気より軽い気体の捕集方法	39.3%	75.0%	
(6)	火成岩のつくりとでき方	55.3%	80.0%	
(7)	火山灰の観察の仕方	76.4%	80.0%	
(8)	地層の重なり方と広がり (柱状図)	79.2%	75.0%	
(9)	チャートと石灰岩の区別	79.3%	80.0%	
(1 0)	火山と観測地の位置関係	73.6%	70.0%	
(1 1)	金属の酸化における実験操作	62.5%	70.0%	
(1 2)	金属と酸化物におけるグラフの作成	55.8%	60.0%	
(1 3)	化学変化と粒子	42.0%	70.0%	
(1 4)	水の存在を調べる実験	68.9%	75.0%	
(1 5)	化学変化と質量	30.0%	60.0%	
(1 6)	ヨウ素液, ベネジクト液の反応	69.1%	70.0%	
(1 7)	だ液の働きと対照実験	39.1%	60.0%	
(1 8)	養分のゆくえ	46.1%	75.0%	
(1 9)	動物の分類	42.6%	60.0%	
(2 0)	被子植物の分類	29.0%	65.0%	

※ ―― は設定通過率±10%を示している。

中学校 2年 理科

小問別反応率



小問別通過率度数分布表 (125校)

は全県平均通過率

通し番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	平均 通過率
100%				1			1	2	2			1				2					
90～100%	1					1	19	16	16	2	9	1		2		13					
80～90%	10		1	5		4	44	49	47	29	27	8		22		25				1	
70～80%	12		2	8	2	14	24	41	43	63	22	28	5	27		33	4	2	5	1	3
60～70%	19	4	9	33	7	26	18	11	15	30	20	24	9	46	4	23	11	7	11	2	25
50～60%	39	7	30	41	17	44	7	4	2	1	18	25	21	20	2	14	12	33	25	8	64
40～50%	22	28	45	23	33	26	5	1			10	12	36	5	16	6	30	48	31	16	28
30～40%	10	51	28	10	37	7	5				9	12	36	1	42	5	38	25	28	30	4
20～30%	9	27	8	3	22	3	1				5	9	15	1	46	3	21	4	19	39	
10～20%	1	6	1	1	4						2	4	2		10		8	6	6	23	1
0～10%	2	2	1		3		1	1			3	1	1	1	5	1	1			5	

中学校2年 理科 調査結果の考察

(1) 設定通過率との比較

※表中の数値は設問数

分類 設定通過率の	観 点 別			領 域 別				計
	科学的思考・観	技 能	知識・理解	物理	化学	生物	地学	
+10% より高い	0	0	0	0	0	0	0	0
±10% の範囲内	2	4	2	0	3	1	4	8
-10% より低い	7	1	4	0	7	4	1	12
計	9	5	6	0	10	5	5	20

(2) 考察

① 全体について

- ア 平均通過率が設定通過率より約17ポイント低く、「-10%より低い」問題が6割を占めていることから、指導の一層の改善を図る必要がある。
- イ 「科学的な思考・表現」の観点の問題では、「-10%より低い」ものが9問中7問あり、知識・技能を活用して思考させる指導の手立ての工夫が必要である。

② 成果

- ア 地学的領域における全国学力・学習状況調査B問題の出題趣旨を踏まえた問題の学習状況は、おおむね良好である。
- イ 火山灰の観察、金属の酸化、グラフの作成、試薬の色の変化など、「観察・実験の技能」の観点の問題における学習状況は、おおむね良好である。

③ 課題

- ア 観察・実験の結果を表などにまとめ、分析し解釈して得た規則性を、他の事象に適用させる指導の充実を図る必要がある。
- イ 予想や仮説を確かめるための観察・実験の計画を立案させ、それを検討し改善させる指導の充実を図る必要がある。

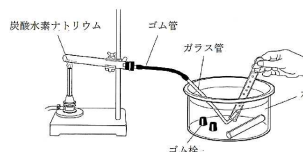
(3) 今後の指導

- ア 観察・実験の結果を表などにまとめ、分析し解釈して得た規則性を、他の事象に適用させる指導の手立てを工夫する。

- ・実験の結果を表にまとめ、一覧にして黒板等に示し、全体の状況を捉えやすいようにする。
- ・複数の結果を比較して考える活動を取り入れるとともに、数値を用いて規則性を説明する活動を積み重ねる。
- ・見いだした規則性を以前行った実験に適用して考えたり、既習の規則性を新たな実験に適用して考えたりする活動を設定する。

[参考 通し番号(15)]

この実験で、炭酸水素ナトリウムを熱してすべて変化させたところ、水0.18g、炭酸ナトリウム1.06g、二酸化炭素0.44gができました。3.36gの炭酸水素ナトリウムを熱してすべて変化させたときにできる炭酸ナトリウムの質量は何gになりますか、求めなさい。



- イ 予想や仮説を確かめるための観察・実験の計画を立案させ、それを検討し改善させる指導の手立てを工夫する。

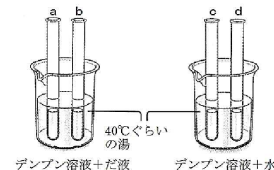
- ・生徒がもっている科学的な概念を把握し、疑問を抱かせるような事象を吟味し提示する。
- ・根拠をもって予想させたり、仮説を立てさせたりする。
- ・立案した観察・実験の計画を、グループや学級全体で検討し改善する活動を設定する。

※検討し改善する際の視点の例

- 条件制御がきちんとされた計画であるか。
- 実験を複数回行うなど、客観的なデータが得られる計画であるか。

[参考 通し番号(17)]

だ液のはたらきによってデンプンが別の物質に変わったことを確かめるためには、a～dの試験管のうち、どれとどれを比較すればよいですか。記号を書きなさい。



平成24年度中学校学習状況調査 第1学年 英語 評価規準と評価の観点

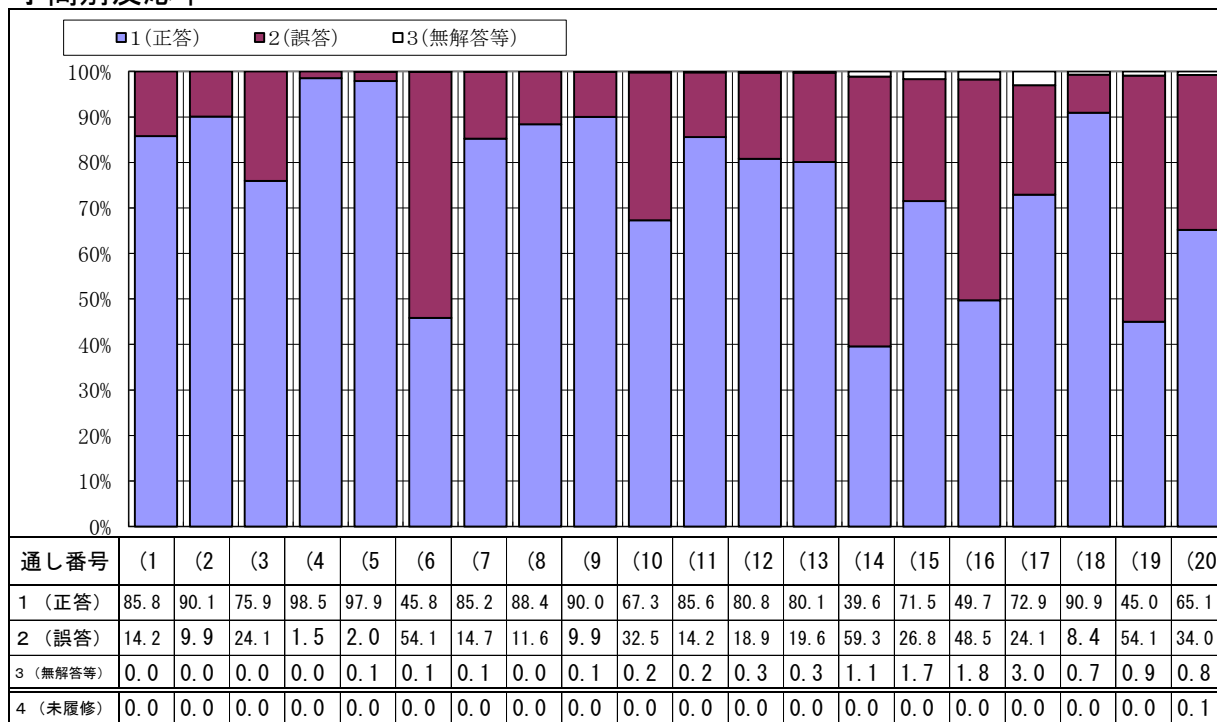
学 年	領 域	内 容	評 価 規 準	通 し 番 号	観 点		
					表 現	理 解	知 識 ・ 理 解
中 学 校 第 1 学 年	聞 く こ と	ア (イ)	[正確な聞き取り] ・ 短い英文を聞いて正しく内容を聞き取ることができる。	(1		○	
		ア (オ)	[適切な聞き取り] ・ まとまりのある英語を聞いて大切な部分を聞き取ることができる。	(2 (3		○	
		ア (イ)	[正確な聞き取り] ・ 会話を聞いて正しく内容を聞き取ることができる。	(4 (5		○	
		ア (ウ)	[適切な聞き取り] ・ 質問を聞いて適切に応じることができる。	(6 (7		○	
	読 む こ と	ウ (ウ)	[正確な読み取り] ・ 書かれた内容について正しく読み取ることができる。	(8		○	
		ウ (ウ)	[適切な読み取り] ・ 書かれた内容について大切な部分を読み取ることができる。	(9 (11		○	
		ウ (エ)	[適切な読み取り] ・ 書かれた内容を読んで、適切に応じることができる。	(10		○	
		ウ (ウ)	[言語についての知識・理解] ・ 場面や状況にふさわしい表現を知っている。	(12 (13			○
	書 く こ と	エ (イ)	[正確な筆記] ・ 文法に従って正しく書くことができる。	(14 (15 (16	○		
		エ (ウ)	[適切な筆記] ・ 読んだ内容に対して質問を書くことができる。	(17	○		
		エ (イ)	[言語についての知識・理解] ・ 文構造についての知識がある。	(18 (19 (20			○

通し 番号	出 題 内 容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0% 50% 100%
(1)	(聞) 日付の聞き取り	85.8%	85.0%	
(2)	(聞) 学校に来る曜日の聞き取り	90.1%	85.0%	
(3)	(聞) ほしい自転車の聞き取り	75.9%	85.0%	
(4)	(聞) 演奏する楽器の聞き取り	98.5%	85.0%	
(5)	(聞) 日本食の好き嫌いについての聞き取り	97.9%	85.0%	
(6)	(聞) 先生の質問に対する適切な応答	45.8%	60.0%	
(7)	(聞) レストランでの質問に対する適切な応答	85.2%	75.0%	
(8)	(読) 教科に関するスピーチの読み取り	88.4%	75.0%	
(9)	(読) スポーツに関する会話文の読み取り	90.0%	80.0%	
(1 0)	(読) 英文の張り紙の読み取り	67.3%	75.0%	
(1 1)	(読) Eメール文の読み取り	85.6%	75.0%	
(1 2)	(読) 適切な会話の構成	80.8%	70.0%	
(1 3)	(読) 適切な会話の構成	80.1%	70.0%	
(1 4)	(書) 三単現の_sを用いた肯定文	39.6%	60.0%	
(1 5)	(書) be動詞を用いた疑問文	71.5%	60.0%	
(1 6)	(書) 三人称の否定文	49.7%	60.0%	
(1 7)	(書) 読んだ内容に関する質問文	72.9%	60.0%	
(1 8)	(書) 主語とbe動詞の文構造	90.9%	80.0%	
(1 9)	(書) 疑問詞＋一般動詞の疑問文構造	45.0%	60.0%	
(2 0)	(書) let'sを用いた文の構造	65.2%	75.0%	

※ ―― は設定通過率±10%を示している。

中学校 1 年 英語科

小問別反応率



小問別通過率度数分布表 (125校)

は全県平均通過率

通し番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	平均通過率
100%	5	10	2	62	46		4	7	7		3	4	3		1		1	16			
90～100%	35	58	6	62	77		28	46	57	2	25	15	10		6		3	61		3	1
80～90%	59	48	38	1	2	6	65	60	52	3	76	54	54	1	21	3	25	37	6	14	20
70～80%	19	8	47			7	19	11	8	40	18	39	36	2	47	7	46	9	6	23	78
60～70%	5		24			14	7	1		50	3	9	15	7	22	16	34	1	12	40	25
50～60%	1	1	7			27	2			23		3	5	21	11	35	12		16	29	1
40～50%	1					30				4			1	21	13	28	2	1	31	11	
30～40%						23				2		1		28	3	15	1		25	2	
20～30%						11								24		14			19	1	
10～20%			1			6								16		5			8		
0～10%						1			1	1			1	5	1	2	1		2	1	

中学校 1 年 英語 調査結果の考察

(1) 設定通過率との比較

※表中の数値は設問数

分類 設定通過率の	観 点 別			領 域 別			計
	表現の能力	理解の能力	知識・理解	聞くこと	読むこと	書くこと	
+10%より高い	2	5	3	3	4	3	10
±10%の範囲内	0	5	1	3	2	1	6
-10%より低い	2	1	1	1	0	3	4
計	4	11	5	7	6	7	20

(2) 考察

① 全体について

- ア 「理解の能力」の学習状況は良好である。
イ 「表現の能力」の学習状況は、特に、「正確な筆記」に課題が見られる。

② 成果

- ア 「読むこと」の学習状況は良好である。特に、書かれた内容について正確に読み取ったり、大切な部分を読み取ったりする問題では指導の成果が見られる。
イ 「聞くこと」の学習状況はおおむね良好である。特に、短い英文や会話を正確に聞き取る問題では正答率が高い。

③ 課題

- ア 「書くこと」において、正しい語順を用いて文を構成することに課題が見られる。特に、疑問詞や副詞を含む疑問文の文構造の定着を図る必要がある。
イ 「書くこと」において、文法に従って正確に書くことに課題が見られる。特に、疑問文に対する応答を、三人称単数現在形の文法に従って、主語と動詞を正しく書く問題の県平均通過率は4割以下であった。昨年度からは16.9ポイントの改善が見られたが、依然として大きな課題である。

(3) 今後の指導

- ア 文法事項は言語活動と効果的に関連付けて定着を図る指導の工夫が必要である。
・ 文法の中でも、特に主語と動詞、疑問文等の文構造については、日本語の語順との違いに着目させながら、繰り返し指導したりまとまりをもって整理させたりして定着を図る。
・ 文法の指導では、その意味や機能を理解させるために適切な場面設定を工夫する。特に三人称単数現在形の文は、言語の使用場面や働きに留意して、友達や家族の紹介などの言語活動を設定し、4技能の総合的な指導を通して理解を深める。
イ 定着した文法事項を実際に活用できる指導の工夫が必要である。
・ 学習した文法事項は、対話文やまとまりのある英文の中に盛り込むなどして、実際にコミュニケーションが行われる形で活用を図る。
・ 文法の正確さだけを求めるのではなく、場面や状況に合ったふさわしい表現を自ら考えたり、選択したりできるよう配慮して言語活動を行う。

※実際の指導例：(19)

疑問詞や副詞を含む疑問文について、家庭生活や日課など、適切な言語の使用場面を取り上げて指導する。疑問詞や動詞を入れ替えるなどして十分な練習量を確保するとともに、質問とその応答を自分で考えて表現するなど、知識・技能を活用させる言語活動を通して定着を図る。

(例 イラストの人物になったつもりで、対話文を完成させる活動)

Emi: What time do you get up?

Tom: I get up at seven.

Emi: ① { time / do / usually / what / you } go to bed?

Tom: At about ten.

② _____ ?

Emi: ③ _____ .



- (1) 下線部①の { } 内の語を、会話が成立するように並べかえ、英文を完成しなさい。
(2) イラストの人物になったつもりで、②に自分が聞いてみたい日課に関する質問を、③にその答えとして適切な英文をそれぞれ考えて書き、ペアで発表する。

平成24年度中学校学習状況調査 第2学年 英語 評価基準と評価の観点

学 年	領 域	内 容	評 価 規 準		通 し 番 号	観 点		
						表 現	理 解	知 識 ・ 理 解
中 学 校 第 2 学 年	聞 く こ と	ア (イ)	[正確な 聞き取り]	・短い英文を聞いて正しく内容を聞き取ることができる。	(1		○	
		ア (オ)	[適切な 聞き取り]	・まとまりのある英語を聞いて大切な部分を聞き取ることができる。	(2 (3 (4 (5		○	
		ア (ウ)	[適切な 聞き取り]	・質問を聞いて適切に応じることができる。	(6 (7		○	
	読 む こ と	ウ (ウ)	[正確な 読み取り]	・書かれた内容について正しく読み取ることができる。	(8 (9 (10		○	
		ウ (ウ)	[適切な 読み取り]	・書かれた内容について大切な部分を読み取ることができる。	(11		○	
		ウ (ウ)	[言語について の知識・理解]	・場面や状況にふさわしい表現を知っている。	(12 (13			○
	書 く こ と	エ (イ)	[正確な筆記]	・文法に従って正しく書くことができる。	(14 (15	○		
		エ (オ)	[適切な筆記]	・自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように書くことができる。	(16 (17	○		
		エ (イ)	[言語について の知識・理解]	・文構造についての知識がある。	(18 (19 (20			○

中学校2年 英語科 小問別通過率と設定通過率

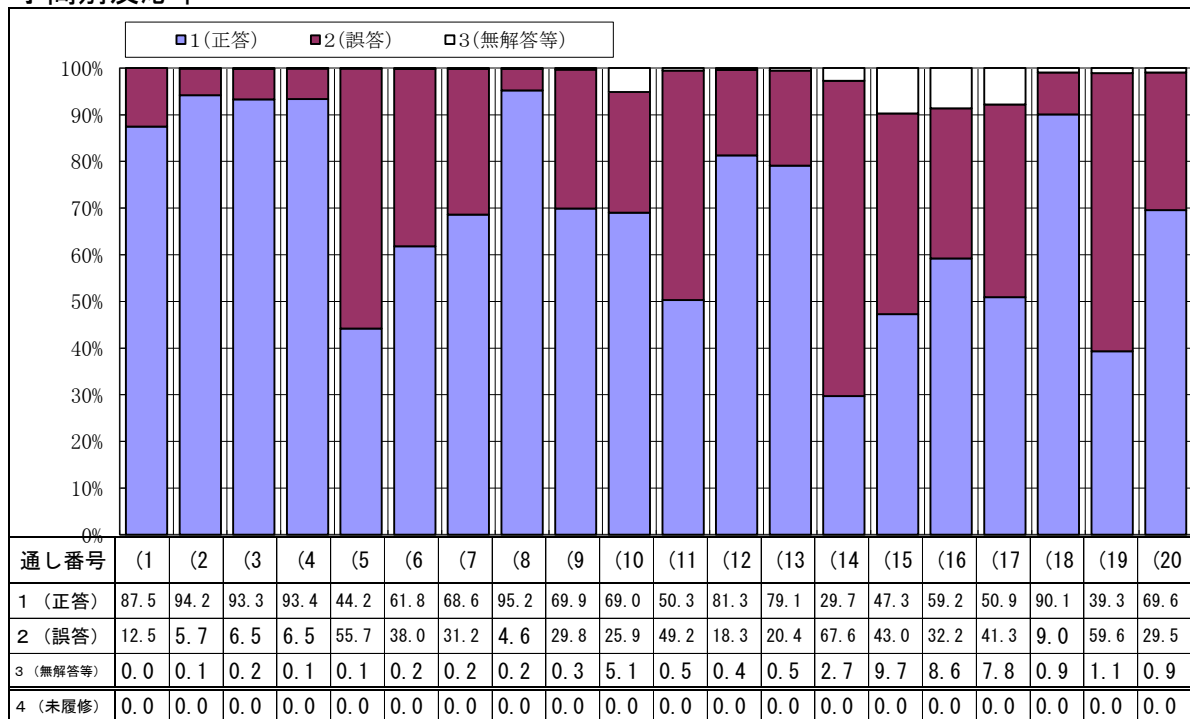
平均通過率 68.7%

通し 番号	出題内容	通過率 (%)	設定 通過率 (%)	0% 50% 100%
(1)	(聞) 日付の聞き取り	87.5%	90.0%	
(2)	(聞) 秋田に来た曜日の聞き取り	94.2%	85.0%	
(3)	(聞) 秋田でしてみたいことの聞き取り	93.3%	80.0%	
(4)	(聞) 昨日の午前にしたことの聞き取り	93.4%	70.0%	
(5)	(聞) サッカーの練習時間の聞き取り	44.2%	70.0%	
(6)	(聞) 先生の質問に対する適切な応答	61.8%	70.0%	
(7)	(聞) 友達の質問に対する適切な応答	68.6%	70.0%	
(8)	(読) 会話文の読み取り	95.2%	80.0%	
(9)	(読) まとまりのある英文の読み取り	69.9%	75.0%	
(10)	(読) まとまりのある英文の読み取り	69.0%	75.0%	
(11)	(読) 会話文の読み取り	50.3%	60.0%	
(12)	(読) 適切な会話の構成	81.3%	75.0%	
(13)	(読) 適切な会話の構成	79.1%	70.0%	
(14)	(書) 三単現の_sを用いた肯定文	29.7%	65.0%	
(15)	(書) whatを用いた過去の疑問文	47.3%	60.0%	
(16)	(書) パーティーに行けない理由の英文	59.2%	60.0%	
(17)	(書) 英語15語以上のまとまりのある英文	50.9%	60.0%	
(18)	(書) 過去進行形の文の構造	90.1%	80.0%	
(19)	(書) 不定詞の形容詞的用法の構造	39.3%	60.0%	
(20)	(書) 疑問詞+一般動詞を用いた文の構造	69.6%	75.0%	

※ ―― は設定通過率±10%を示している。

中学校 2年 英語科

小問別反応率



小問別通過率度数分布表 (125校)

は全県平均通過率

通し番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	平均 通過率
100%	5	24	26	16		2	1	27		4		3	1			1		14	1	5	
90～100%	44	79	74	94		3	5	86	3	4		17	12		2	2	1	67	2	26	
80～90%	61	20	23	11	2	10	17	10	9	28		55	47	2	6	9	5	34	3	32	8
70～80%	13	2	2	4	2	23	37	2	58	24	3	37	47	1	17	19	18	9	11	18	48
60～70%					6	34	41		41	31	18	11	15	4	18	42	22		11	8	56
50～60%	2				28	35	14		11	15	39	2	3	6	21	22	19	1	17	14	12
40～50%					32	11	8		3	12	51			13	21	20	26		12	6	1
30～40%					27	6	2			4	9			25	15	7	20		24	9	
20～30%					20	1				3	5			43	16	2	11		30	5	
10～20%					7									24	7		2		12	1	
0～10%					1									7	2	1	1		2	1	

中学校2年 英語 調査結果の考察

(1) 設定通過率との比較

※表中の数値は設問数

分類 設定通過率の	観 点 別			領 域 別			計
	表現の能力	理解の能力	知識・理解	聞くこと	読むこと	書くこと	
+10% より高い	0	3	1	2	1	1	4
±10% の範囲内	2	7	3	4	5	3	12
-10% より低い	2	1	1	1	0	3	4
計	4	11	5	7	6	7	20

(2) 考察

① 全体について

- ア 「理解の能力」「知識・理解」の学習状況は、おおむね良好である。
- イ 「表現の能力」の学習状況は、特に「正確な筆記」に課題が見られる。

② 成果

- ア 自己紹介や過去の出来事など内容的にまとまりのある英文を聞いて、その概要や要点を捉える力は向上している。「聞くこと」において、平均通過率が設定通過率の+10%より高い問題の数は、1年生の時よりも増加している。
- イ 「読むこと」の学習状況は、概ね良好である。特に、会話の場面や状況を正確に読み取り、その内容にふさわしい表現を用いる力は向上している。

③ 課題

- ア 「書くこと」において、文法に従って正確に書くことに課題が見られる。特に、doesを用いた疑問文の応答を、主語と動詞を含む英文で書くことに大きな課題が見られる。
- イ 「聞くこと」において、疑問詞を用いた問いの応答に課題が見られる。特に、How long ~?を用いた問いに対する応答の平均通過率は設定通過率を大きく下回っている。

(3) 今後の指導

- ア 各校において十分に身に付いていない内容を正確に把握し、4技能を統合的に活用できる言語活動を工夫しながら、繰り返し指導することで、言語材料の定着を図ることが重要である。
 - ・1年生で学習する言語材料の中でも、「三単現のS」は定着に特に時間がかかる文法事項の一つである。単に機械的に記憶させるのではなく、友達や家族などを紹介する言語活動を他の文法事項と関連付けながら、活用することを通して定着を図る。また、授業の冒頭等で友達や家族紹介のスピーチを毎回行ったり、授業時数の増加を有効に活用したりしながら、継続した指導が必要である。
- イ 大切な情報を正確に受け取り、質問などに対して適切に応じる力を付けるための指導の工夫が必要である。
 - ・あるテーマについて話されたものを聞いたり、書かれたものを読んだりして、話し手や書き手が伝えたいことや、必要な情報を理解できるようにする。JTEやALTの英語、友達のスピーチなどを聞き取ったり、読み取ったりさせ、その内容について適切な疑問詞を用いながら互いに問答したり、感想を書いたりするなど、複数の技能を関連付けながら4技能の向上を図る。

※実際の指導例：(14)

授業のウォームアップで、毎回1, 2名の生徒が友だち紹介のスピーチを行う。「三単現のS」を用いた表現に加えて、新たに学習した表現等も積極的に使用させるようにする。また、生徒同士でスピーチのメモを取りながら聞き取らせ、聞いた内容について問答したり、感想を書いたりするなど複数の技能を関連付けながら行う。

〈スピーチの例〉

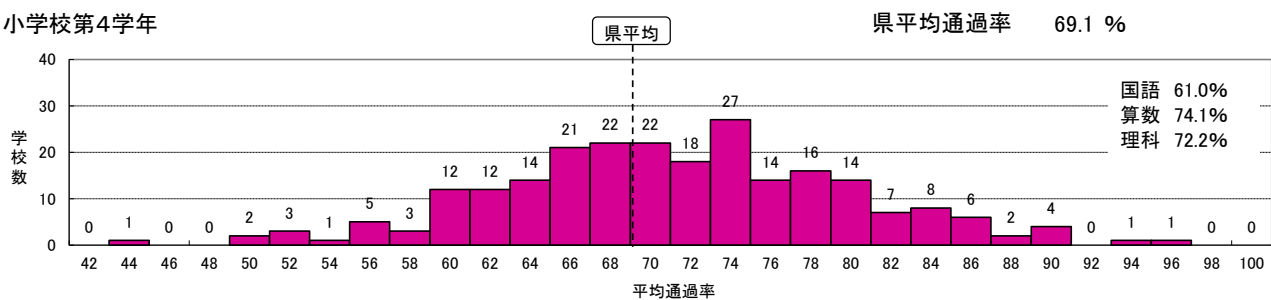
My best friend is Kenta. He is a member of the basketball club. He practices it very hard every day, so he plays basketball better than anyone else.
He sometimes enjoys watching the game of Akita Northern Happinets. He wants to join the Happinets in the future.

〈内容についての質問の例〉

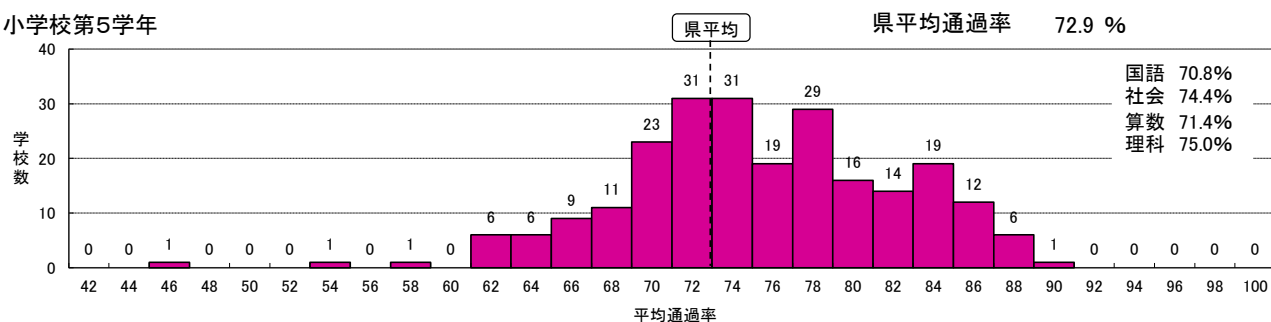
Teacher: Does Kenta want to be a member of the Happinets in the future?
Student: How long do you practice basketball every day?

5 平均通過率の度数分布グラフ

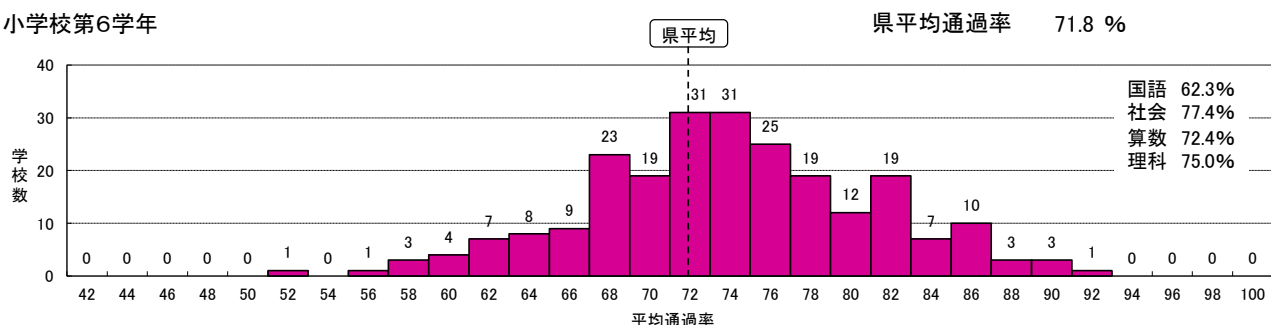
小学校第4学年



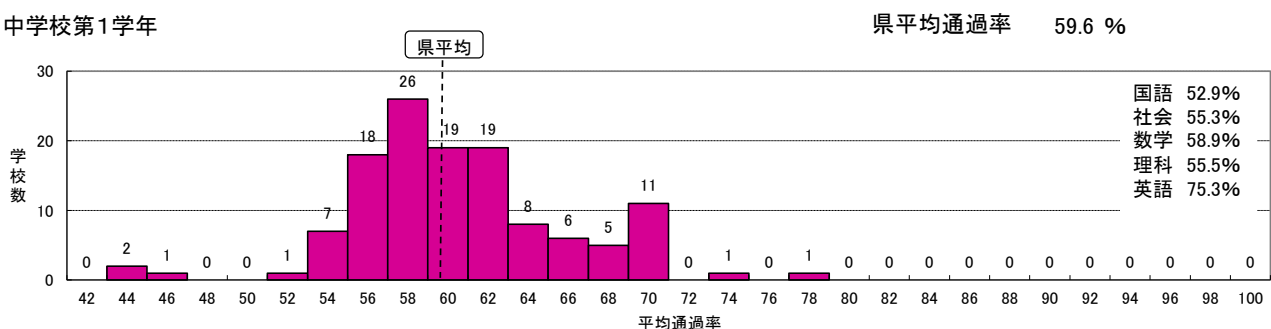
小学校第5学年



小学校第6学年



中学校第1学年



中学校第2学年

